

関西大学ピア・コミュニティ 2017 年度報告書



関西大学

「2017年度報告書の発刊にあたって」

関西大学学生センター所長

岡本 哲和

2017年度は、本学の「ピア・コミュニティ」が誕生して10年目を迎えるました。そもそも「ピア・コミュニティ」ということばは、2007年度に文部科学省・学生支援G Pに採択された関西大学の学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に由来するものです。本年度の活動報告書は、その10年間の活動の成果を振り返り、さらに今後のピア・コミュニティの将来像の指針を示すものとなっています。

現在約100名の学生がピア・コミュニティに在籍し、教職員や大学院生（TA）とともに、ピア・サポート活動の実践に取り組んでいます。時代によって変わるニーズに対して、これまでの資源をもとにした上で提供者側が工夫することで、様々なプログラムが企画・立案され、実行されてきました。それらのプログラムには、「社会人基礎力の向上」、「学生と大学（教職員）との連携の促進」、従来とは異なる新しい課外活動の機会を提供することによる「『居場所』の提供」、そして「学生のニーズに適応した学生支援の提供」といった成果が含まれます。

「ピア・コミュニティ」の活動は、いわば市場原理における製造業の対価価値によってではなく、サービス産業と同様の満足価値によって評価されると考えられます。学生が自分たちの能力を十分に發揮して、活動が生み出す満足価値を高めていくためには、「何が目的か」「対象はだれか」「どのように実施するのか」「実施するのはいつか」を絶えず考えながら、問題の発見、その問題の解決、そして結果についての満足評価というサイクルを継続させることが必要です。

「支援する学生」と「支援される学生」の双方が作り上げるピア・コミュニティの活動が、人との関わりの中で培われる社会人基礎力の向上につながること、そして、大学から社会に巣立ってからも、社会の急激な変動とともに変化していく自己の役割を理解する上での一助となることを願って、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

（政策創造学部 教授）

目 次

1 ピア・サポートの育成	
1.1 ピア・サポートの育成 1
1.2 シニア・サポートの活動 3
1.3 関西大学ピア・サポート研修 7
1.4 スキルアップ講座 10
1.5 効果測定 18
2 ピア・コミュニティの活動報告	
2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ 27
2.2 ピア・コミュニティの活動 29
2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部 29
2.2.2 国際コミュニティ “KUブリッジ” 36
2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ (PSC) 49
2.2.4 KUサポートプランナー (KUSP) 50
2.2.5 KUコアラ 56
2.2.6 KUサポートアーズ 65
2.2.7 ぴあかんず 68
2.2.8 関西大学ITピア・コミュニティ “i.com” 70
2.3 ピア・サポートからのメッセージ 71
2.4 支援部署職員からのメッセージ 76
3 関西大学ピア・コミュニティ創設10周年記念事業 「ピア・サポート活動報告・交流会」	
3.1 寄稿 81
3.2 活動記録 82
4 学生支援室の活動報告	
4.1 学生支援室の役割と主な活動 95
4.2 新規TA研修 96
4.3 学生支援室TAからのメッセージ 98

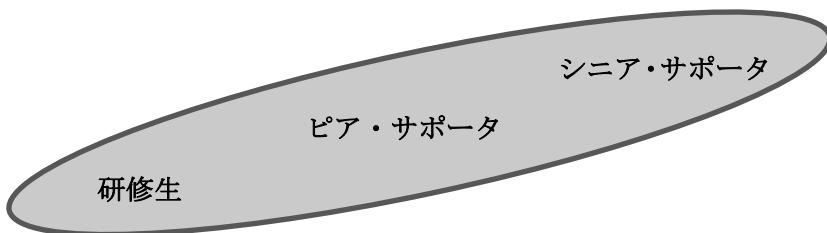
1 ピア・サポートの育成

1.1 ピア・サポートの育成

2015年度に終了した正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」に替わって、ピア・サポート養成を行うための研修と日常の活動でこれまでの質を維持できるようにしている。例年100名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行ってきたが、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、これまでの学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む。）、TAを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる、シニア・サポートを設けている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポート、シニア・サポートの認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポート	シニア・サポート
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポートの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポートの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポートの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

【ピア・サポートおよびシニア・サポート認定条件】

ピア・サポート認定条件

- ・ピア・サポートの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了とする。

シニア・サポート認定条件

- ・シニア・サポートの認定条件は、ピア・サポートとしての1年以上の活動と、スキルアップ講座5つ以上の受講修了とする。ただし、経過措置として正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位修得者は1年以上のピア・サポートとしての活動とスキルアップ講座3つ以上の受講修了とする。

2016年度にシニア・サポートとして登録した3名が、2017年度も継続して「シニア・サポートミーティング」を実施し、日常的に活動を積み重ねてきた。

しかし、今年度在籍するシニア・サポートの中心的に活躍していた1名が卒業する見込みで、シニア・サポートとしての活動を継承することが困難であることとシニア・サポートから認定条件の緩和を求める意見もあり、今年度も継続して「学んだ知識やスキルをもとに他者を支援する活動」がピア・サポート活動であることを斟酌し、一時的な措置として、単年度の取り扱いではあるが「各コミュニティの代表・副代表経験者は、1年以上のピア・サポート活動歴と、スキルアップ講座3つ以上の受講修了」（「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位取得者は、1年以上のピア・サポート活動歴と、スキルアップ講座2つ以上の受講修了）を条件とする緩和措置を行った。

ボランティア活動支援グループとしても、シニア・サポートおよびスキルアップ講座について『マネジメントBOOK』（ピア・サポート活動に係る諸手続をまとめた冊子）による周知や、ミーティングの場で年間1つはスキルアップ講座の受講を奨励するアナウンスを行ったが、新たなシニア・サポートの登録はなく、課題としてはシニア・サポートの役割や具体的な活動がイメージしにくいこと、所属するコミュニティでの活動に多忙であったこと、就職活動の早期化などが挙げられる。

ピア・コミュニティに所属する学生の育成について、システムとしては整えることができ、後述するピア・サポート研修、スキルアップ講座についても、質・量ともに充実していると自負するが、システム全体として受講するための動機付けに至るまでの好循環で機能していないのが現状であり、いかに効率的に次年度へ継承していくかが今後の課題である。

本学においてピア・サポート活動に継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア・サポートは欠かすことのできない重要な存在であり、次年度に入って残る2名のシニア・サポートが次代の中心となって、サポートを牽引してもらえることを望む。

1.2 シニア・サポートの活動

2014年度新設した「シニア・サポート」は、2016年度10名で運営を行っていたが、4年目の2017年度は、人数が減少に転じ、4年次1名、3年次2名となった。就職活動の準備等全員が集まることは難しい状況ではあったが、そのような状況のなかでも協力・結束し、シニア・サポートとしてどうあるべきか、どのような活動を行っていくか等について話し合い、企画の展開にまで進め、2回の企画を中心にミーティングを開催した。

ミーティングはこれまで職員主導で行っていたが、今年度はシニア・サポート主導で必要に応じて開催され、職員は適宜参加することとした。また、2017年1月から実施しているシニア・サポートによる相談活動については、今年度も引き続き実施し、ピア・サポートが持っている疑問や活動の進め方の相談に応じた。

以下に、今年度のシニア・サポートの活動を記す。

【第1回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年5月16日（火）13:00～14:30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート2名、学生支援室TA2名、

ボランティア活動支援グループ職員2名

概要：今年度第1回目のミーティングということで、これまでのシニア・サポートミーティングの記録メモをもとに、活動を振り返った。その後、今後の活動について話し合い、昨年度開始した相談活動は、今年度も継続することとし、新たにシニア・サポートの自己紹介カードの作成や、コミュニティを横断した企画を行ってはどうかという意見があった。

【第2回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年5月25日（木）9:15～10:30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート3名

概要：前回ミーティングで意見のあった、コミュニティを横断した企画について自由に話し合った。各コミュニティで主力として活動するメンバーを対象に、コミュニティ間の情報共有の場とすること、またシニア・サポートのこれまでの経験を活かして気づきの場を提供することを目的に実施することを決定した。

【第3回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年6月5日（月）9:15～10:30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート3名、学生支援室TA1名

概要：実施することとなった企画について、具体的な内容の話し合いを行った。ピア・

サポートに多面的な視点を持ってほしいとの想いから、「クリティカルシンキング」を紹介、体験してもらうワークを行うこととなった。

【シニア・サポート企画「Critical Thinking を用いて考えよう！」】

開催日時：2017年9月12日（火）13：30～15：30

開催場所：第2学舎2号館 C506教室

参加者：シニア・サポート3名、ピア・サポート9名、学生支援室TA2名、職員2名

概要：[導入ワーク]

「ファーストクラスで？現地で？」をテーマに、議論の練習を行った。

[本題ワーク]

クリティカルシンキングの3つの基本姿勢を確認した後、「ミーティングをより良くするために」をテーマに、実際に課題解決のためのグループワークに取り組んだ。

【第4回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年11月20日（月）9：15～10：30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート3名

概要：はじめに春学期の活動の振り返りを行い、その後シニア・サポート認定条件の特例措置を次年度も継続するかどうかや、新規シニア・サポート候補者について、また今後の活動について意見を出し合った。

【第5回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年11月27日（月）9：15～10：30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート2名、学生支援室TA1名

概要：前回ミーティングに引き続き特例措置について話し合い、安定的な活動を行えるようにするため、次年度も継続することとした。また、今後の活動として、今年度2回目となるシニア・サポート企画を実施することとなり、内容について意見交換を行った。

【第6回 シニア・サポートミーティング】

開催日時：2017年12月11日（月）9：15～10：30

開催場所：総合学生会館凜風館1階 ピアエリア

参加者：シニア・サポート3名

概要：第2回シニア・サポート企画の内容について意見交換を行い、「入会希望者に対するガイダンスの方法」や「新規メンバーへの接し方」など、次年度に向けて各コミュニティで検討するであろう事柄に着目したワークを行うこととなった。

【シニア・サポート企画「新入生を迎えるにあたって】

開催日時：2018年2月23日（金）13:30～16:00

開催場所：第2学舎2号館 C204教室

参加者：シニア・サポート3名、ピア・サポート18名、学生支援室TA2名、職員2名

概要：[第1部]～伝え方～より良いガイダンスの仕方を考えよう

ガイダンスを実際にを行い、コミュニティ間での違いや、効果的な伝え方についてグループワークを通して考えた。

[第2部]～接し方～新入生の気持ちを考えよう

ミーティング場面を想定したロールプレイを実施し、新入生をミーティングに迎える際に、どのような対応が適切か考えた。

【その他のミーティング等】

実施日時		実施内容
6月	15日（木）9:15～10:30	企画の準備
	22日（木）9:15～10:30	企画の準備
	29日（木）9:15～10:30	企画の準備
7月	29日（土）13:00～14:30	企画の準備
8月	22日（火）13:00～15:00	企画の準備（リハーサル）、シニア・サポート紹介カードの完成
9月	8日（金）10:30～12:30	企画のリハーサル
	18日（月）9:15～11:00	企画の準備
12月	18日（月）9:15～11:00	企画の準備
1月	11日（木）9:15～11:00	企画の準備
2月	6日（火）10:30～12:30	企画の準備
	23日（金）10:00～12:00	企画のリハーサル

【シニア・サポートによる相談活動】

ピア・サポートからの疑問や悩みなどに対して、シニア・サポート自らの経験に基づいて相談に応じるものであり、実施日時については、ピアエリア内のホワイトボードカレンダーで周知した。

また、相談活動を広報するポスターを作成し、掲示及びピア・コミュニティのメーリングリストで全員に送信した。

シニア・サポートからのお知らせ

〈シニア・サポートによるエリア待機をはじめます〉

シニア・サポートのことを皆さんに知ってもらったり、ピア・サポート活動をより良いものにするために、シニア・サポートによるエリア待機（相談活動）を実施することとなりました！從来から、学生支援室 TA によるエリア待機が行われていますが、職員や TA とは違った視点で、これまでのピア・サポート活動の経験を活かして、皆さんの活動する上での疑問や相談にお答えします。

どんな疑問でも、また相談・昼食を食べるだけでも大丈夫ですので、気軽に声かけてもらえると嬉しいです！

※待機スケジュールは、ピアエリア内ホワイトボードに掲出します。

・過去の企画の〇〇は、どんな感じだったんですか！？
・どうやって、コミュニティ運営した？
・こんな企画ってどうですか？ …etc
なんでもOKです！



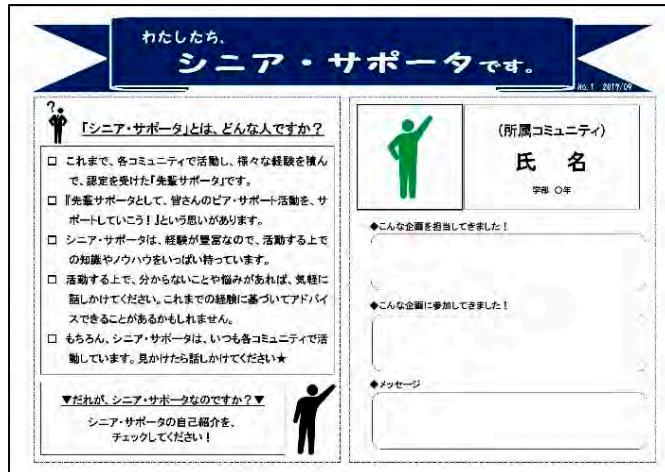
〈シニア・サポートってどんな人？〉

シニア・サポートは、各コミュニティで活動し、様々な経験を積んで、認定を受けた先輩サポートです。

各コミュニティでピア・サポートとして活動し、経験を積んだサポートがスキルアップ講座の受講などの条件をみたすことでの認定され、コミュニティでの活動に加え、ピア・コミュニティの継承に関する活動を行っています。詳しい認定条件については、ボランティア活動支援グループにお問い合わせください。

【自己紹介カードの作成】

シニア・サポートがどのような存在なのか、また誰がシニア・サポートなのかを周知し、声をかけやすく相談しやすい環境を作るため、自己紹介カードを作成した。自己紹介カードはピアエリア内に掲示し、ピア・サポート誰もが見られるようにした。



今年度のシニア・サポートの活動を振り返ると、少ない人数ではあったが、昨年度よりも充実したものであり、密に意見交換を行い、シニア・サポートとはどういった存在であるか、また今後シニア・サポートが目指す方向について共有し、一体感をもって活動を行うことができたように思われる。

これまでシニア・サポートの課題として、「ピア・サポートたちのシニア・サポートに対する興味・関心や認知度が低い」「シニア・サポートの数が少なく、活発な活動を行うことが難しい」などがあげられていたが、今年度は、ポスターの作成やシニア・サポート主催のワークショップの開催などを通じて、シニア・サポートが活躍する姿をより見てもらうことができた。このことがピア・サポートの関心・意欲の喚起につながることを期待するとともに、引き続き周知徹底を図り、一層のシニア・サポートの数や活動内容の拡充に向けて取り組みたいと考える。

1.3 関西大学ピア・サポート研修

1 実施目的 ピア・サポートとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2 対象 ピア・コミュニティ研修生

3 実施日時・実施場所・受講者数

	内容	実施日時	実施場所	受講者数
①	ピア・サポートって何だろう？	4月20日（木）18：00～19：30	凜風館4階 ミーティングルーム	13名
		6月28日（水）13：00～14：30	第2学舎2号館 C603教室	17名
		9月6日（水）9：00～10：30	第2学舎2号館 C506教室	11名
		12月6日（水）13：00～14：30	凜風館4階 リフレッシュコーナー	2名
		3月12日（月）9：00～10：30	凜風館4階 リフレッシュコーナー	5名
②	自己理解	6月28日（水）14：40～16：10	第2学舎2号館 C603教室	12名
		9月6日（水）10：40～12：10	第2学舎2号館 C506教室	12名
		12月4日（月）14：40～16：10	凜風館4階 リフレッシュコーナー	5名
③	コミュニケーション	6月27日（火）14：40～16：10	第4学舎4号館 4003教室	11名
		9月6日（水）13：00～14：30	第2学舎2号館 C506教室	17名
		12月6日（水）14：40～16：10	凜風館4階 リフレッシュコーナー	7名
④	プランニング	6月28日（水）16：20～17：50	第2学舎2号館 C603教室	14名
		9月6日（水）14：40～16：10	第2学舎2号館 C506教室	12名
		12月5日（火）16：20～17：50	凜風館4階 リフレッシュコーナー	3名
		3月12日（月）10：30～12：10	凜風館4階 リフレッシュコーナー	3名

※①～④それぞれについて、いずれかの日程で受講。

※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

※4月20日「ピア・サポートって何だろう？」の受講者数については、支援部署職員・学生支援室TAも含む。

4 概 要

本研修は、学生支援室 TA6 名（小黒、木村、佐藤、玉村、並木、保田）とともに考案・実施したものである。

①については、一般学生が現在のピア・コミュニティ及びその活動について身近なものでないため、ピア・サポート活動の概要について知つもらう機会として一般学生も受講対象とし、内容についても、ピア・サポートからのコミュニティ紹介の時間を設けるなどの工夫を行っている。

②③④については、これまでの研修実績より理解しやすく、効果的にサポートとしての自覚・スキルを涵養するための内容に心がけている。

	内容	所要時間	実施担当
①	ピア・サポートって何だろう？	90 分	4月 20 日：春名 6月 28 日：藤野 9月 6 日：藤野 12月 6 日：春名 3月 12 日：藤野／春名
②	自己理解		6月 28 日：並木 9月 6 日：並木 12月 4 日：木村
③	コミュニケーション		6月 27 日：佐藤 9月 6 日：玉村 12月 6 日：保田
④	プランニング		6月 28 日：佐藤 9月 6 日：佐藤 12月 5 日：佐藤 3月 12 日：佐藤

①では、まず各自の身近な「サポート」に関わる経験を振り返り、サポートをしたりされたりすることのあたたかさや、サポートをすることで自分も何らかの影響や刺激を受けていること等を認識してもらった。続いて、ピア・サポートとしての必要な知識でありスキルをつけるための素養として、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学におけるこれまでの取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。その後、ピア・サポートたちから、各コミュニティの理念や活動内容等について紹介してもらった。

②では、他者を支援する活動の基盤となる自己理解そして他者理解について、ユング心理学に基づく「8つの性格別タイプ分析」を取りあげ、習慣化された自己の言動について認識してもらうとともに、多様な性格パターンの存在を知り、人間の多様性を理解する機会とした。

③では、各々の日頃のコミュニケーションを振り返るとともに、ピア・サポート活動を行う際に必要となる、話し手の気持ちを汲み取る「傾聴」と、聞き手が理解しやすいように「自分の意見を明確に伝える力（アサーション）」を身につけられるよう、ワーク中心で学んだ。

④では、プランニングの概要を説明するとともに、どういった目的で誰を対象に何をするのかといった立案や、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングについて、チェックリスト等でおさえるべきポイントを確認しつつ、グループワークで体験した。

5 所 感

①はボランティア活動支援グループ職員、②～④は学生支援室 TA が担当することで実施した。

①は、ピア・サポートの概要と、それに基づいて行っている実際の各コミュニティの活動に関する知識を導入とし、後半講義の効果的な理解を促進した。②～④はピア・サポートとして、数多くの知識を要求される事項のなかでも、特に重要な「自己理解」「コミュニケーション」「プランニング」に関して学び、これまでの研修の改善点も織り込んだ形で実施できた。研修を通して、コミュニティの帰属意識の醸成としなやかな資質形成の一助となったのではないかと思われる。

受講者アンケートには、「ピア・サポートとしての自覚と責任をもって活動していきたいと思った」「ピア・サポートの基礎を知ることができたので、今後に活かしていきたい」「ピア・サポート活動を行う上で必要なことがしっかりと理解できたと思う」などの記述があり、本研修の目的を達成することができたと思料する。

今年度は TA2 名が新たに加わり、②③は、継続 TA と新規 TA がペアとなって次年度への引き継ぎを意識し、準備・実施を行うことができたが、④については、ある程度ピア・コミュニティの支援に携わり、TA 自身がピア・サポート活動の流れを把握していなければ説明することが難しいことから、今年度は TA 歴が長い 1 名が実施を担っていた。しかし、この TA もいずれ終了すること、何らかの理由で担当できないことなども留意すると、このプログラムに関しても引き継ぎを行い、複数名で実施できるようにすることが次年度の課題と考える。

1.4 スキルアップ講座

1 実施目的 ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポートとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2 対象 シニア・サポート、ピア・サポート、研修生

3 テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	講師	受講者数
①	思いやりを形にする	3月26日（月） 10:40～12:10	教育推進部教授 三浦 真琴	9名
②	ピア・サポート詳論	10月13日（金） 16:20～17:50	大阪産業大学講師 元関西大学学生支援室 TA・RA 山田 嘉徳	10名
③	ピア・コミュニティをマネジメントする	6月6日（火） 18:00～19:30	管財課職員 日本ピア・サポート学会ピア・サポートトレーナー 松田 優一	12名
④	傾聴トレーニング	11月27日（月） 18:00～19:30	学生相談室相談員 植並 鈴枝	8名
⑤	サポーティブなコミュニケーション	10月3日（火） 18:00～19:30	学生相談・支援センターコーディネーター 臨床心理士 近森 聰	9名
⑥	関西大学を知る	6月20日（火） 17:00～18:00	株式会社関大パンセ代表取締役社長 元学校法人関西大学法人本部長 五藤 勝三	16名
⑦	活動引き継ぎ講座～その“引き継ぎ”、本当に引き継げるの？～	10月4日（水） 18:00～19:30	シチズンシップ共育企画代表 川中 大輔	29名
⑧	ストレスマネジメント	11月15日（水） 16:20～17:50	臨床心理士 元関西大学学生支援室 TA 河崎 俊博	6名
⑨	「怒り」の感情と上手につきあうために～アンガーマネジメントのすすめ	6月21日（水） 16:20～17:50	(社)日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター 元関西大学保健管理センター職員 辻川 恵美	7名

※受講者数には、ピア・サポートの他、学生支援室 TA、支援部署教職員を含む。

※⑦はボランティアセンターのボランティアリーダー養成講座としても開催し、受講者数にはボランティアセンター学生スタッフ、ボランティア団体所属学生も含む。

4 概要・受講者の声・講師からのメッセージ

① 「思いやりを形にする」概要

はじめにグループ分けを行い、白黒テレビとカラーテレビそれぞれの Advantage と Disadvantage について考えるワークや、図形の面積や長さを求めるワークを行った。楽しんで取り組みながらも、立場が違うと視点も異なり、良い・悪いという価値観も変わること、既成概念にとらわれず広い視点を持つことで簡単に答えを導き出せることもあるなど、多くの学びや気づきを得た。

その後、グループで「AINシャタインゲーム」という様々な断片的な情報を整理し、表を完成させるワークに取り組んだ。コミュニケーションでは、自分の意見を伝えること、相手の意見を受け入れることが大切だが、そもそも自分でその事柄について「考え抜く」ことが大事だということを学んだ。

上述のようなワークに加え、ピア・サポート活動を行う際に参考となるグロービングの方法や、グループワークの紹介も行われた。

受講者の声

- ・考え方の癖、視点が固まっていることがよくわかった。
- ・これまでとは違う考え方で取り組むのは大変だったけど、面白かった。
- ・今後の活動の際のアイスブレイクに使えそう。

講師からのメッセージ

困っている人に手を差し伸べ、寄り添うためには、多角的に物事を見つめ、人の立場になって考えることが肝要です。今回は考えることに照準を合わせました。私は普段、考えているようで、実は定理・公式や常識等の道具に頼っています。これからは機械的な操作を可能な限り廃し、水平思考を心がけるようにしましょう。

② 「ピア・サポート詳論」概要

資料に基づき、大学でピア・サポートが広まりつつある状況や、どのような領域のサポートが行われているのか、またピア・サポートが注目される理由等について説明があった。

続いて、3名ずつのグループに分かれ、異なるピア・サポート活動に関する文献が配付され、それを使用したワークに取り組んだ。まず各々で文献を通読し、文献の概要や感想等についてグループ内で共有した後、ワークシートに記載されている課題について 3 名で分担した。それぞれ担当することとなった課題について再度文献を読み込み、他のメンバーに要点を説明した。その後、文献に記載されている大学の学生という設定のもと、当該大学の取り組みを宣伝するためのポスターを個々で作成し、他のメンバーに意図とともに発表した。

最後に、ワールドカフェ方式により、他のグループの内容について把握し、自らのグループについて発表した。

受講者の声

- ・これからピア活動をより充実させるような体験型の講義で良い機会だった。
- ・実際の活動は違っても、考え方、方針は勉強になると感じた。
- ・他大学が行っている活動を新たに知ることができ、おもしろかった。今後の活動の参考にできればと思う。

講師からのメッセージ

ピア・サポートは多くの大学で注目され、様々なタイプの活動が展開されています。潜在的なニーズも高く、自大学以外の取組についても、より深く考える時間があれば、ピア・コミュニティの新しい一面に気づくことができるかもしれません。ますます充実した取組が今後も豊かに展開されることを期待し、見守っていきたいと思います。

③「ピア・コミュニティをマネジメントする」概要

はじめに、マネジメントについて、大まかな概念の説明があり、ピア・コミュニティをマネジメントするにあたって、それぞれのコミュニティのミッションや目標、そもそもピア・サポートとは何かということ、“ナナメの関係”で上下関係（支える側と支えられる側）は動的であり、現在から未来に向けての活動のバランスをとり役割を果たして欲しいことの説明があった。

続いて、ピア・サポートの発端となるカナダでの70年代の小中学校の状況と分析について、生徒同士の悩みの解決の有効性と、関西大学でのピア・サポート活動の必要性について解説があった。

最後に、より良いピア・サポート活動を行うためのコツの紹介があり、受講者にとって、ピア・サポート活動について改めて考え、今後のより良い活動のためのヒントを多数得る機会となった。

受講者の声

- ・これからピア・サポート活動に取り組んでいく上でのモチベーションにつながった。
- ・ピア・サポートとしてどのような考え方を持って行動すれば良いのか、理解することができた。
- ・活動を行う中で、根本的な考え方（ピア・サポートとは？など）が忘れがちになつてしまないので、今回の講座はピア活動を振り返るよい機会となった。

講師からのメッセージ

「ピア・コミュニティのビジョン、ミッション」「ピア・コミュニティで求められるマネジメント」を正しく理解することが、皆さんの理想の活動の実現に繋がることをご理解いただけただでしようか？

大学の主人公は皆さんです。理想の大学を是非皆さん之力で実現してください！

④「傾聴トレーニング」概要

はじめに、各自で普段の話し方、聞き方について振り返り、自身のコミュニケーションの特徴を考えた。続いて、「聞く・聴く・訊く」の意味の違いや、コミュニケーションの仕組み、傾聴の効果・基本的態度についての説明があり、傾聴とは相手の思いを聴き、理解することであり、そのように関わることで信頼関係が構築したり、相手の気持ちにゆとりをもたらし、その上で、自分の考え方との相違を見つけることができる学んだ。

次に3人グループになり、話し手／聞き手／観察者の三役に分かれ、①聞き手が手元でお題の漢字を書きながら話を聞く「ながらきき」、②聞き手が傾聴を意識しながら話を聞く「思いを聴く」の2つのロールプレイに取り組んだ。それぞれ役割を交代して3回ずつ行い、全員がすべての役割を体験した後、①と②を行ってみて、話し手／聞き手はどのような気持ちの違いがあったか、観察者は自身の感想や話し手／聞き手の様子について感じたことなど、グループで振り返りを行った。

受講者の声

- ・普段何気なく話しているけれど、話し方、聴き方が違うと、内容の伝わり方や、双方の気持ちも全然違うようになることがわかった。
- ・話を積極的に聴くことが、話し手の話し方にまで影響があるということが興味深かった。
- ・普段意識せずコミュニケーションしていることを文字に表すと、改めてできていなかった部分が分かり良かった。

講師からのメッセージ

人の話を聴く機会の多いピア・コミュニケーションの皆さん、より良い人間関係づくりに少しでもお役に立てばと、敢えて「ながら聞き」という日頃の類似状態を体験していただき、その上で傾聴の効果について体感していただきました。人と意識（尊重）して関わることで、関係性がよくなることについて気づいてもらえたようです。今後の役に立てば幸いです。

⑤「サポート型なコミュニケーション」概要

はじめに、野球のトレーニング用トスバッティングボールとサンドボールを利用して、重さの違うボールを受けるときに、どちらの方が受けやすいかを体験し、コミュニケーションも同様で、重い話（重いボール）は受け手にとって扱いが難しいとの説明があった。

その後、映画『十五才 学校IV』（山田洋二監督）を見て、シーンごとにそこで行われていた会話・交流について、どのような要因・要素で構成されているかグループで議論し、発表した。それに対して講師がコメントすることで、悪いコミュニケーション

ヨンと良いコミュニケーションのポイントをまとめた。

最後に、プロのコミュニケーションのとり方として、カウンセラー教材を見ることで、サポートティブなコミュニケーションは、相手の緊張をほぐしリラックスさせるしぐさや、姿勢なども組み合わせて行うことが大切であると学んだ。

受講者の声

- ・良いコミュニケーションのとり方がわかった。あいづちや間の取り方ひとつにしても、状況に応じることが大切だと思った。
- ・姿勢、目線、しぐさなどコミュニケーションのポイントを知ることができよかったです。
- ・普段あまり意識しないようなことまで見つめる機会となりよかったです。

講師からのメッセージ

映像を使って、コミュニケーションの実例を提示し、参加者のみなさんが受け取った感想をもとにディスカッションをしていただきました。また、ボールなどを用いて、体験もしていただきました。みんなさんが積極的に参加する中で見せてくれた、柔軟な感性と発想を大切にしていただき、自分の個性を活かした援助的なコミュニケーションを実践の中で磨いていただければ、幸いです。

⑥「関西大学を知る」概要

はじめに、大きく①大学生数の変化、キャンパスライフの変化、学生気質の変化など、大学を取り巻く環境の変化、②AI や IoT を推進する政府の取り組みによる 15 年後以降の一般的に予想される社会構造の変化の 2 つの要因をもとに、ピア・サポート活動開始からその経緯と今後の方向性について説明があった。

続いて、ピア・サポートとして身につけておきたい知識やスキル、ピア・コミュニティに期待すること、充実したキャンパスライフを過ごすために心にとめておきたいことなど、ピア・サポート活動を実践するために必要な知識や意識について、幅広くお話ししていただいた。

受講者アンケート

- ・ピア・コミュニティでの活動が社会で必要な基礎力を身につけるために役立つことがわかり、自分を見つめなおすことができた。
- ・大学生の個人主義的考えがピアの立ち上げのきっかけになったことが理解できた。
- ・関西大学だけでなく、現在の大学生の実態を踏まえつつ、ピア・サポート活動を行ううえでの必要なスキルなどについて理解・再認識できた。

講師からのメッセージ

日頃のピア・サポート活動ご苦労様です。ピア・サポートの考え方・知識、活動実践を通じて身に付けたスキル、さらにここで築いたネットワークなどは、きっと皆さんのがこれから的人生の大きな財産になることでしょう。今後とも積極的にピア・サポ

ート活動に取り組み、有意義で充実したキャンパスライフを過ごして下さい。

⑦「活動引き継ぎ講座～その「引き継ぎ」、本当に引き継げるの？～」概要

5～6名のグループに分かれ、①団体内での引き継ぎについて、うまくいかないと誰がどのように困るか、②各々の所属団体では何をどのように引き継いでいるのか、の2つのテーマについて、グループワークを行った。それぞれについて、まず個人で考え、グループ内で共有した後、どのような意見が出たのかグループごとに発表してもらった。

それらの内容を踏まえて、講師から、ボランティア系団体には「顧客の二重性」（支援者と受益者が異なること）が存在することや、引き継ぎには、個々の能力の向上、理念や価値観の共有が大切になるが、それぞれを構造化し体系的に伝えることで、柔軟性はありつつ質も担保できる引き継ぎが行なえるとの説明があった。

最後に、実際に講師が使用していたマニュアルや、チェックリスト、ハンドブック等の紹介があった。

受講者の声

- ・これから行おうとしている引き継ぎ方が、このままでよいかどうかを改めて考えさせられる内容だった。
- ・ただ引き継ぐのではなく、更なる跳躍につなげるという考え方方が印象に残った。
- ・引き継ぎについて具体的な印象を持つことができた。

講師からのメッセージ

後輩を拘束／放置せず、活用できる蓄積を積み上げる「跳躍のための引き継ぎ」を実現するためには、暗黙知を形式知にして「していること」をまとめるだけではなく、「なぜそのことをするのか？」という目的や「何を実現するための活動か？」という理念を継承する必要性を確認しました。しかし、それがお題目にならぬよう、「わたし」がどう捉えているかという問い合わせを起点に据えて、温度感を保つようにしたいものですね。

⑧「ストレスマネジメント」概要

はじめに、メンタルヘルスやストレスとストレッサーの分類など専門基礎知識の説明があり、その後、個人で現在のストレスについて、自己診断シートに基づいて平均値と比較した。また、社会的支援に分類されるピア・サポート活動において考えられるストレスについても触れられ、人と関わる活動で起こり得るバーンアウト（意欲がなくなる）について、ボアアウト（退屈する）と比較して説明があった。

次にストレスマネジメントについての説明があり、ストレスが生じたときに意図的に対処するコーピングについて、自分自身のレパートリーを書き出し、受講者全員で紹介し合った。

最後に、クリアリング・ア・スペース（フォーカシング簡便法の1ステップ）とし

て、気がかりに思っていることを書き出し、その気がかりを感じて、収まりの良い置き場所を作ることで、その気持ちとほどよい距離を取り心に遊び（ゆとり）を作り出す作業を行った。

受講者の声

- ・自分の中にあった不安を文字にすることで、幾分か気持ちが楽になったように感じた。
- ・「不調」から「絶好調」の間を適当に移動できれば良いという考え方を知り、重荷が取り除かれたような気がした。
- ・ストレスへの対処やセルフモニタリングなど興味深く、得られるものがあった。

講師からのメッセージ

ピア活動で他者の支援に集中するあまり、ピア・サポータ自身のケアに疎くなることがまま見受けられます。自分自身のケアをしっかりとすることが、他者への支援にもつながってきます。今回の研修では、様々な気がかりが浮かんできていましたので、ぜひクリアリング・ア・スペースを日常生活やピア活動にも活かしていただきたいです。

⑨『怒り』の感情と上手につきあうために～アンガーマネジメントのすすめ』概要

はじめに、怒りの感情について詳しい説明があり、怒りの強度・持続性・頻度・攻撃性について自己診断を行った。また、ここ一週間の軽いアンガーログを確認し、「すごく頭にきたこと」「まあまあ腹が立つこと」「軽くイラッとしたこと」について、各自で怒りのレベル感の見える化を行った。

その後、怒りの対処方法として、①衝撃のコントロールで、反射反応のように自動的に起こらないよう人に出来ること、②認識の修正で、自分の価値観を基準に他人にも要求することで、ギャップを生じることを避けるように自分の価値観を広げること、③行動のコントロールを誤解や不愉快を与えないように行うこと、の3つのヒントを学んだ。

最後に、アサーションコントロールで、お互いのコミュニケーションが行動的にならず、率直な意見を述べ合う方法の重要性について説明があった。

受講者の声

- ・アンガーマネジメントは、「怒らなくすること」と思っていたが、適切に怒る、自分に一番良い怒り方をするという意味であることがわかった。
- ・怒りをコントロールするにはコツがあることを初めて知った。
- ・感情をコントロールしそれを生かしていくことや、アンガーマネジメントの方法を学べる良い機会となった。

講師からのメッセージ

相手を傷つけたり、自己嫌悪に陥ったりするなど、怒りで後悔しないことが大事だとお伝えしました。【怒り】は体内で大量の活性酸素がつくられ、様々な病気を引き起こすことが注目されています。6秒の魔法の言葉、タイムアウト等々、怒りと上手に付き合うための心理トレーニング「アンガーマネジメント」で心身共に健康に過ごしたいのですね。

5 スキルアップ講座全体として

これまで本学のピア・サポート活動支援に携わり、かつ専門的知識を有する方々の協力を得て、9つの多彩な講座を実施した。

参加者にとっては、「気付き」の機会となる多くの学びの中で、豊かな感受性と包容力を培うものであったと思料する。何かを完成させる、成し遂げる、達成することのプロセスにおいて、いろいろなアプローチの存在にも「気付き」があったのではないかと考えている。ただし、受講生の時間的・人數的な制約で全てのプログラムの消化が可能ではないところに課題を残すところである。

ピア・サポートが単なるボランティアではなく、仲間のために協力してサポートするために何をどのようにするのか考えてから行動することまでを責任もって実行することが、“THINK×ACT”を実践できる「考動する関大人」の育成に一助となる研修であると自負している。

1.5 効果測定

- 1 実施目的 ピア・コミュニティに所属する学生を対象に、①自らについて振り返る機会を提供し気付きを促すこと、②その気付きを集約しピア・サポート活動を行うことの効果を目的とし、「ピア・サポート活動に係るアンケート」を実施している。
- 2 対象 研修生、ピア・サポート、シニア・サポート
- 3 実施方法 2018年1月～3月の間、ボランティア活動支援グループ職員が、各コミュニティのミーティングに出向き、20分程度で実施。なお、アンケート未回答者に対しては、各コミュニティ代表者を通じてメールを送信し、メールでの回答も受け付けた。
- 4 回答数 47件（メールでの回答1件を含む）
- 5 概要
- ・「社会人基礎力尺度」（関西大学版）[山田・押江・田中、2009]を「ものさし」として自己評価し、気付きを作る。
 - ・ピア・サポート活動を始める前、もしくは1年前と変化したと思う項目について、自由に記述することで振り返る。
 - ・なぜそのような変化が生じたか（生じなかつたか）を自由に記述することで振り返る。
- 6 整理方法 「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」は、ピア・サポート活動での様々な体験を通して、*社会人基礎力や他者を思いやる豊かな人間性の涵養を図る取組である。よって、学生から得られた主な回答を、社会人基礎力で挙げられている「12の能力要素」及び「他者を思いやる豊かな人間性」で分類した。
なお、個人の特定につながる表記については、一部変更・削除した。
※「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え方力」、「チームで働く力」の3つの能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事していくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年から提唱している。
- 7 回答
- 問A群「ピア・サポート活動を通して生じた変化はありますか？過去（活動期間が1年未満の方はピア・サポート活動を始める前、活動期間が1年以上の方は1年前）のあなたと比較して、自由に書いてください。」
- 問B群「なぜそのような変化が生じたのか（生じなかつたのか）、気付いたことを自由に書いてください。」

問 A 群	問 B 群
【主体性】物事に進んで取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> 活動前は、自分で考動(考えて動こう)とするということは意識していたものの、それをきっちりと行う機会があっても十分に活かせていなかった。この活動を始めてからは、それを特に意識していたこともあるが、自信を持って動くことができるようになった。 自分の意見を述べることが苦手だったが、企画を考えたりすることで“自分から始める”行為を起こすことができた。 自ら考え、行動する力が以前より付いたと感じる。 最初は、会議にただ参加することが多かったが、活動を通じて様々な企画に積極的に関わる姿勢ができた。 企画に多く参加したり、意見を積極的に言っている。 他の人の説得力のある意見に流されてしまうこともあるが、自分の意見を持ったり、持とうとすることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一番の要因は、自分の企画をコミュニティ全体で真剣に考えてくれる環境だったことだと思う。本気で考えてくれるからこそ、企画・考動する自分自身がより積極的にしなければという思いが強くなり、考動の機会を一回一回大切にできた。それが、自分の成長に繋がっていると思う。 企画を立案・運営するという実現を行うことで、徐々にではあるが自信をつけることができたのではないか。 活動に参加する中で、仕事をしていくうちにそのような力が身に付いたのではないかと考える。 空いた時間にスキルアップ講座に参加してみて、さまざまな情報を得られたので、一つ一つの機会を逃すことがもったいなく感じたから。 環境に慣れてきた。 今まで自分の意見を持ったり発言する機会がなかったが、ピア・コミュニティに入って、そのような機会が増えた。
【働きかけ力】他人に働きかけ巻き込む力	
<ul style="list-style-type: none"> 大人数をまとめて動かすことの難しさを知った。 どちらかと言うと何でも自分 1 人で何とかしようとするタイプだったと思うが、他の人と協力して進めていくことを学んだと思う。また、仲間を信頼して仕事を分担したりお願いすることも増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表になったため。 自分だけではどうにもならないことを多く経験し、その際に周囲と協力することで達成することができたため周りの人をもっと信頼しようと思うようになった。
【実行力】目的を設定し確実に行動する力	
<ul style="list-style-type: none"> 基本的には変わらないが、形にすることに対するスキルが上がったように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 去年の 10 周年事業で、もっと上手にできたとは思うが、バタバタしている中では当日何事もなく終了できたという経験があるため。
【課題発見力】現状を分析し目的や課題を明らかにする力	
<ul style="list-style-type: none"> 後輩ができたので、将来のコミュニティの活動について考えるようになった。 コミュニティの展望・ビジョンをより考えるようになった。 次の代について考えることが増えた。(引き継ぎ等) 	<ul style="list-style-type: none"> 後輩ができたから。 役職に就いたことで。普通のサークルや部活であったら、他人任せでこのようなことはしていなかつたとつくづく思う。貴重な経験だった。 後輩ができたため。

<ul style="list-style-type: none"> 後輩に、今していることを引き継がせるためにはどうするべきなのか考えるようになった。 	
【計画力】課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	
<ul style="list-style-type: none"> 事前に計画を立てて行動できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てなければ迷惑がかかるから。
<ul style="list-style-type: none"> 計画性が少し上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の積み重ね。
<ul style="list-style-type: none"> 常に企画や計画の進捗具合を意識するようになった。進捗具合を企画の実施日から逆算して考え、余裕がないときには介入するなど、臨機応変に対応できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの代表になったことで、コミュニティをマネジメントするという立場であることを自覚したから。
<ul style="list-style-type: none"> やるべきことに関して、一気に全部こなそうとするのではなく、優先順位を付けて取り組めるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 書類の提出や場所の確保など、事務的なものも多いので、期限までに終わらすというルールのもと活動しているから。
【創造力】新しい価値を生み出す力	
【発信力】自分の意見を分かりやすく伝える力	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をはっきり言えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 言わなければならない立場や環境になったから。
<ul style="list-style-type: none"> 自分から発信することが多少はできるようになった気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発言をする場面が多いから。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をちゃんと伝えられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 先輩方がそうだったため。
<ul style="list-style-type: none"> 会議の司会をするようになって、人前でしゃべることに抵抗がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会をする中で、人から意見や考えていることを引き出すようにしているうちに、人前で何かをするということに慣れることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言うことに少し慣れた。（まだ緊張はする）また、グループで話し合うことに慣れたり。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議やワークなどで話すことが多かったから。
<ul style="list-style-type: none"> 最初は、会議も聞くだけだったが、少しずつ発言するようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ピアに慣れてきたので、少しずつ発言するようになってはいるが、先輩に頼りすぎているところもある。先輩がいなくとも会議をまわせるようになるために、一回の会議につき一回は発言したい。
【傾聴力】相手の意見を丁寧に聞く力	
<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聞くようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> メンバーの人数が増加して聞く立場となった。
<ul style="list-style-type: none"> あいづちの打ち方や話し方に気をつけるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ピア・サポート研修で話の聞き方、受け止め方を学んだから。
<ul style="list-style-type: none"> 人の話をしっかり聞くことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な人の意見を聞くことが多かったから。
<ul style="list-style-type: none"> 話を少し聞けるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験の積み重ね。
<ul style="list-style-type: none"> 活動していく中で、より一層人の話をしっかり聞けるようになったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動自体が学生の相談を受けるというものなので、自然と相手のことを考えて、考動できるように

	なったのだと思う。また、活動を通じて単純にたくさんの人とコミュニケーションを取る機会が増えたのも一つだと思う。
【柔軟性】意見の違いや立場の違いを理解する力	
● 人と意見が合わないことが悪いことだと思わなくなった。自分の意見を持つことも大事だが、コミュニティの目標に適した意見を素直に受け入れることも大事だと気付いた。	● コミュニティで一つの目標や企画についてより良くするための会議だから。
● いろいろな考え方を持っている人の話を聞き入れられるようになった。	
● ピア・サポート活動では、合意形成の際、「多数決」や「リーダーが決める」といった方法ではなく、メンバー全員が納得できる形を目指すので、自分と異なる意見に耳を傾けたり、全く違う考えの人に対して理解に努めることが大切だった。こういう考え方方は、ピア・サポート以外での人とのコミュニケーションでも用いるようになったと思う。	● やはり、みんなの意見を大切にする、否定しない、と言う考え方があることが大きいと思う。他のコミュニティ(バイトやゼミ、友人関係)では、多数決やリーダーの独断が用いられることが圧倒的に多いので、そこまで深く一人一人の意見の大切さについて考えたことがなかった。
【情況把握力】自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	
● 代表になって全体を見るができるようになったと思う。	● 全体の進捗具合を常に意識しておかないといけないと感じたから。
● ピア・サポート活動を通して、他の人と協力することの重要性がよくわかった。	● 日ごろの会議で意見を出し合ったり、ワークをすることによって考え方方が変わったから。
● 所属するコミュニティだけでなく、ピア・コミュニティ全体のことを考えることが多くなった。	● 代表者会議の運営を行うことで、他のコミュニティの方と関わる機会が増えたから。
● 1年前と比較して、ピア(物事)を俯瞰的に見ることができるようになった。	● 上位年次になったこと、シニアと言う役割を与えたうえで、自分の役割を果たそうとした結果ではないかと思う。
【規律性】社会のルールや人との約束を守る力	
● 目上の方と連絡する機会ができて、最低限のルールを覚えた。	
● 「報・連・相(ホウレンソウ)」の大切さがわかった。	● 企画をするにあたって「報・連・相(ホウレンソウ)」が大切だと思ったから。
【ストレスコントロール力】ストレスの発生源に対応する力	
【他者を思いやる豊かな人間性】	
● 優しくなった。他人のことを考えるようになった。	● 後輩育成の際。
● 相手の立場に立って物事を考え、コミュニケーションを取ることもできるようになったと思う。	● 活動自体が学生の相談を受けるというものなので、自然と相手のことを考えて行動できるように

	なったのだと思う。また、活動を通じて単純にたくさんの人とコミュニケーションを取る機会が増えたのも一つだと思う。
● 他の人を支援するということがどういうことなのか学ぶことができた。	● 日ごろの会議で意見を出し合ったり、ワークをすることによって考え方方が変わったから。
【その他】	
● 元々、自分が苦手とする様々な人と接するということを、コミュニティの企画やピアのイベントの中で1年間行ってきて、コミュニケーション能力は前より上がったのではないかと思います。	● 2回生になって後輩ができたことや、コミュニティの人数も少なく、自分で意見を言わなくてはいけない状況になったから。
● 時間的余裕がなくなり、気持ちの余裕がなくなつた。	● 自分のやらなければならぬことに追われすぎて、心の余裕がなくなってしまったのが問題だと感じた。
● 知らない人とも話せるようになった。	● 以前より人と関わるようになったから。
● 企画書の書き方が大まかにだが分かった。	● 合宿などの経験。
● コミュニケーション能力が向上した。	● 先輩などに教わったから。
● 書類などを書くことができるようになった。	● 先輩などに教わったから。
● コミュニケーション能力が少し上がったと思う。	● コミュニティのメンバーとふれあうようになったから。
● 多くの人と接する機会が増えた。	● 交流やイベントが多かったから。(シニア・サポート企画や通常の企画)
● 3年生にしてようやく他コミュニティの人と関わる機会が増えた。	● シニア・サポートの活動。
● 学校の生活が豊かになった。	● 特になし。
● コミュニティの活動内容がわかってきた。	● 慣れてきたから。
● 他人との交流が増え、コミュニケーション能力が高くなったと感じる。	● まわりの考え方や他人の考えを知りたいと思ったから。
● 報告書等を作成する機会が増えたので、以前よりパソコンに強くなつた。	

8 昨年度との比較

本アンケートは平成26年度（2014年度）から実施しているものであり、47件の回答中、19件が昨年度に引き続いての回答であった。

全体としては、昨年度と同様、ピア・サポート活動を行う中で生じた様々な変化やその理由等について記載されており、ピア・サポート活動を行うことの意義が読み取れるとともに、アンケートに回答することが、それぞれの学生にとって自らの活動に意味づけを行ったり、自らの現状・変化・成長、そして今後の課題を認識する良い機会になっていると考えられる。

なお、これまでに2度回答した19名に着目し、個々の学生ごとに2017年度の回答と2016年度の回答を比較し、主なものを下表にまとめた。2016年度の回答では一サポートとしての成長・変化に関する記載が中心となっているが、2017年度は目標への計画的実行の力、他者へのコミュニケーションのとり方、組織における自らの成長・変化に言及する記載が多く見られ、ピア・コミュニティでの活動期間や役割の変化等が、学生の社会への同化を促し、比較的に成長をもたらしていることが伺える。

2カ年度の比較		
2016年度	2017年度	区分
<ul style="list-style-type: none"> 今までも自分と意見が異なる人と活動する場はあったが、ピア・コミュニティでは特にいろいろな考え方の人と出会った。1つのコミュニティと共に運営する上で、異なる意見をどのように合意形成するか方法を学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ピア・サポート活動では、合意形成の際、「多数決」や「リーダーが決める」、「誰か一人が決める」といった方法ではなく、メンバー全員が納得できる形を目指すので、自分と異なる意見に耳を傾けたり、全く違う考え方の人に対して理解に努めることが大切だった。こういう考え方には、ピア・サポート以外での人とのコミュニケーションでも用いるようになったと思う。 	B
<ul style="list-style-type: none"> たった3ヶ月ほどの活動だが、抽象的に言うと大きく人間的に成長できた。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの展望・ビジョンをより考えるようになった。 	A
<ul style="list-style-type: none"> このような企画を考えたりする団体に関わることは初めてだが、計画することはとても大変で、前もって準備しなくてはいけないことがたくさんあると知った。 	<ul style="list-style-type: none"> 元々、自分が苦手とする様々な人と接することを、コミュニティの企画やピアのイベントの中で1年間行ってきて、コミュニケーション能力は前より上がったのではないかと思う。 	C
<ul style="list-style-type: none"> やらなければならないことを常に意識できるようになった。 自分たちで進めていくことでリーダー像が分かってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には変わらないが、形にすることに対するスキルが上がったように感じる。 	C
<ul style="list-style-type: none"> パソコンの使い方、一般常識など少しづつ理解して、去年の自分よりパワーアップしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表になって全体を見ることができるようになったと思う。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 周りのことを今まで以上に注意して見ることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をはつきり言えるようになった。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 「何かがあった時どうするか」等の社会の常識めいた何かを体得しつつ、失敗しつつの試行錯誤をしていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聞くようになった。 	C

<ul style="list-style-type: none"> 以前よりも、相手の立場を尊重した上で、その相手の発言の裏にはどのような心情や動向があるのかを考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人数をまとめて動かすことの難しさを知った。 	C
<ul style="list-style-type: none"> 「報・連・相(ホウレンソウ)」の大切さが身に染みた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「報・連・相(ホウレンソウ)」の大切さが分かった。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 周囲の人との関わり方を工夫することができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 後輩ができたので、将来のコミュニティの活動について考えるようになった。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 代表をする前と後では、出来る事が増えたというよりも出来ない事がたくさん分かったという感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生にしてようやく他コミュニティの人と関わる機会が増えた。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ワードが少し上手くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の代について考えることが増えた。(引き継ぎ等) 	A
<ul style="list-style-type: none"> 人の話を少し聞くようになった。 管理の大切さに気付いた。 人と違う視点で着眼できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 優しくなった。 人のことを考えるようになった。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ピアでの活動をするまでは、どちらかと言うと狭く深く人と関わるタイプであったようだ思うが、多くの人と繋がるようになったと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> どちらかと言うと何でも自分一人でなんかしようとするタイプだったと思うが、他の人と協力して進めていくことを学んだと思う。また、仲間を信頼して仕事を分担したりお願いすることも増えた。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 何人かの意見をまとめることができるようになった。 人の前に立つ事が多かったので、恥ずかしがらずに発言するようになった。 会話の大切さを改めて知った。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人と接する機会が増えた。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 他人の意見を理解し、必要であれば自分の意見も取り入れて新しい考えを提案することができるようになった。 問題の理解や具体的な解決策について考えができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に企画や計画の進捗具合を意識するようになった。進捗具合を企画の実施日から逆算して考え、余裕がないときには介入するなど、臨機応変に対応できるようになった。 所属するコミュニティだけではなく、ピア・コミュニティ全体のことを考えることが多くなった。 	A
<ul style="list-style-type: none"> 誰かのために何かをするということの意味を、改めて考えるようになった。 他人との向き合い方を考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の司会をするようになって、人前でしゃべることに抵抗がなくなった。 後輩に、今していることを引き継がせるためにはどうするべきなのか考えるようになった。 	A

<ul style="list-style-type: none"> ● 以前と比較すると、周りの状況が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画に多く参加したり、意見を積極的に言っている。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ● まだ分からぬことが多いが、先輩方とお話ししていく中で企画の練り方など少しずつわかつってきた。また提出物などは、期限までにどういった過程でやっていけばいいのか、計画を立てるということが大切だと改めて感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● やるべきことに関して、一気に全部こなそうとするのではなく、優先順位を付けて取り組めるようになった。 	B

【区分記号】

A:昨年度と比較して、全体的に伸びを示す。

B:昨年度と比較して、同系統の伸びを示す。

C:昨年度と比較して、別系統の伸びを示す。

9 所感

本アンケートは4年目の実施であり、単年度では見出せなかつた変化や成長を見出せるのではないかと期待した中、個々の学生の経年比較において如実に確認することができた。アンケートを継続して実施することの意義をあらためて認識するとともに、アンケートの回答を個別に学生にフィードバックすること等を通して、さらなる成長に繋げていきたいと考える。

また、昨年度から回答数が7件増加した。これまでの自分自身のピア・サポート活動を振り返ってほしいとの想いから1月～3月の期間に職員が各コミュニティのミーティングに参加しアンケートを実施したこと、またミーティング欠席者に対しては各コミュニティ代表者を通じてメールでの回答も受け付けたことが回答数増加につながったと考える。実施時期や回答方法については、回答数を増やすために再度検証を行い、昨年度に対する経年比較に関する評価方法についてもさらに検討していきたい。

2 ピア・コミュニティの活動報告

2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008年度に発足した「国際コミュニティ“KUブリッジ”」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009年度に発足した「KUサポートプランナー」、「KUコアラ」、「KUサポートアーズ」、「ぴあかんず」、そして2010年度に発足した「i.com」、あわせて8つのピア・コミュニティが、これまでピア・サポート活動を行ってきた。2017年度は、ピア・コミュニティの創設から10周年を迎えた。

以下の表は、2017年度における各ピア・コミュニティのあゆみである。メンバー不在により活動できなかつたコミュニティがあり、継続して活動の再開に向けて方策を考えていきたい。

▼年間の活動状況

	ピア・コミュニティ 運営本部	国際コミュニティ “KUブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KUサポート プランナー (KUSP)	KUコアラ	KU サポートアーズ	ぴあかんず	i.com	代表者 会議
2017年									
4月	・新入生誘導活動	・Facebookの運営 ・ようこそ関大Festival ・KUバザー ・Welcome event with KUBridge		・料理企画	・KUコアラアンケート	・ほっこり相談室			11日 25日
5月		・新緑ハイキング		・輝く自分に！vol.3	・第1回特集本展示「就活本」				9日 23日
6月	・Welcome to ピア・コミュニティ	・放課後なつかし遊び			・第2回特集本展示「コアラメンバーセレクション」				6日 20日
7月				・現役関大生から教わるウォーキングレッスン！	・コアラ通信				4日
8月									29日
9月	・運営本部夏合宿	・交換留学生キャンパスツアーハイキング			・KUコアラ夏期短期合宿				12日 26日
10月		・KUバザー		・京都観光ツアーハイキング					10日 24日
11月	・peer憩いの場“はねやすめ”	・プチ陶芸体験 in 大阪 ・Enjoy BBQ Party at 緑地公園			・第3回特集本展示「コーヒーハイキング」				7日 21日
12月	・ウインターワーク2017	・Latte art at Kandai		・第2弾！現役関大生から教わるウォーキングレッスン！	・第4回特集本展示「本屋大賞」	・冬のゲーム祭り！			5日 19日
2018年									
1月					・図書館Q&Aポスター				9日
2月									13日 26日
3月		・交換留学生キャンパスツアーハイキング					・ぴあかんず復刊号発行		12日 26日

【参考】各ピアコミュニティのあゆみ

	ピア・ コミュニティ 運営本部	国際 コミュニティ “KU ブリッジ”	ピア・スポーツ コミュニティ (PSC)	KUサポート プランナー (KUSP)	KUコアラ	KU サポーターズ	ぴあかんず	i.com
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014							活動休止中	
2015			活動休止中					活動休止中
2016								
2017							2018年3月 ピア・サポータ 有志により復刊 号を発行	

2.2 ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポートからの声を中心にピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部

■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という）は、存在するすべてのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポートの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

■ 所属人数

22名（男14名、女8名）

*1年次8名、2年次4名、3年次6名、4年次4名（2018年3月末現在）

■ ミーティングの概要

週1～2回（曜日は不定期。隨時、調整。）

■ ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を1週間に1回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えていた。

企画を進めていく際は研修生が主体となって企画を進めていき上位年次がサポートするという形をとった。こうすることで、研修生が積極的に関わっていく姿勢を養えた。

■ ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿などの合同企画を通じて、すべてのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

■ 教職員との連携について

昨年度から、サポート自身が考えて行動できるようになる中で、支援母体であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言を頂きながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートを目指していきたい。

■ 昨年度からの改善点

今年度は、1年次が多く加入し、運営本部全体が活気づき、各メンバーもモチベーションが大幅に上がった。昨年度と比べ、上位年次に頼ってばかりではなく、様々な企画の中で、当日の企画運営については1年次に担当してもらうなどができる。一方で、準備段階においては経験の少ない1年次をサポートする2年次の人数が少なく、経験を十分に積んでもらうことができたとは言えなかった。今後は1年次中心で企画を準備段階から担当してもらうことで経験を積んでもらいたいと思う。

また、2年次は活動の中心メンバーであるが、人数が少ないので企画の準備が担当者一人に集中してしまうという事態が生じた。この点については、メンバー間のコミュニケーション不足が考えられ、昨年度に引き続いての問題点である。ミーティング等を通してメンバー間でより一層のコミュニケーションを図り、協力体制を確立することによって、活動を円滑に進めていきたい。

◆企画名 新入生を迎える！（新入生誘導活動）
日 程 2017年4月1日（土）
場 所 関西大学千里山キャンパス
参加者数 13名（ピア・サポート12名、研修生1名）
目 的

- ・新しく関西大学の仲間（peer）となった新入生に対し、誘導活動を行うことで、新入生へのピア・サポートの普及を行う。
- ・ピア・コミュニティを知ってもらうきっかけとし、今後の広報活動につなげる。
- ・ピア・サポート間の交流を促進し、今後の円滑な活動につなげる。

内 容

- ・入学式開始の約1時間前より、正門を中心とした学内での新入生・保護者の方の会場への誘導、写真撮影の補助を行う。
- ・入学式終了時刻に合わせて、会場（中央体育館）周辺で待機し、新入生・保護者の方からの質問や問い合わせに応じる。

効 果

- ・新たに関大生の仲間（peer）となった新入生に対して、新入生を歓迎し、新入生や保護者の方のサポートを行うことができたので良かった。
- ・他コミュニティからも参加があり、運営本部の活動理念の一つであるコミュニティ間の交流もできた。

改 善 点

- ・石碑から正門にかけての通路を確保するために作った写真撮影用の列（コーン・バー）の外側に新入生・保護者の方が並んでいるのが見受けられたので、内側に並んでいただくように事前にアナウンスするべきだと感じた。
- ・新アクセスから経由して第2学舎1号館方面から人がなだれ込んできたため、メインストリートの左側（第2学舎、第4学舎側）が詰まってしまった。
- ・入学式後のガイダンスを新入生と受けることができない父母の方々は凜風館などのスペースで待機していただくようになっていたが、その凜風館の2階も利用できることを父兄の方々が知らず、1階に人が集中し、座れない人が出てしまった。
- ・全体を通して、案内の開始時間には余裕を持ち、もう少し長い時間、案内をしても良かった。

感 想

- ・ピア・サポート全員がトランシーバーを用いて随時情報を共有でき、円滑に作業だったので、有意義な活動になったと思う。
- ・今年度は昨年度から変更点がたくさんあったが、その変更にも臨機応変に対応できた。事前説明会を行ったため、予め当日の各自の役割や全体の流れを把握することで当日の活動がスムーズに行えた。
- ・今年度は新アクセスも活用したので昨年度より正門前の混雑が解消されたように感じた。
- ・今年度は入学式が体育館建替工事の影響で3部構成に変更されたことや、新アクセスができたことによって、新たな改善点などが見えてきたので、来年度も今年度の反省点や改善点を生かして、より充実した誘導を行い、新入生を迎えるたいと思う。

◆企画名	Welcome to ピア・コミュニティ 2017
日 程	2017年6月7日（水）、6月12日（月）
場 所	7日：第2学舎2号館 C505教室 12日：総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム
参加者数	7日：20名（ピア・サポート7名、研修生10名、学生支援室TA3名） 12日：13名（ピア・サポート6名、研修生6名、学生支援室TA1名）

目的

- ・ピアエリアの利用方法などについて研修生に知ってもらうことで、今後の活動を円滑にすすめられるようにする。
- ・楽しみながらワークを行い、研修生同士の交流を促すことで、コミュニティ間の連携につなげる。

内 容

[コミュニティ紹介について]

ピア・コミュニティ運営本部、KU サポーターズ、KU サポートプランナー、KU コアラ、KU ブリッジの5つのコミュニティの活動理念や最近の活動と、現在活動休止中であるi.com、ぴあかんず、ピア・スポーツコミュニティについても活動理念について紹介した。

[自己紹介、他己紹介について]

初めて顔を合わせる参加者が多いため、最初に自己紹介を行い、お互いに顔見知りとなつてもらった。その後に予告せず他己紹介も行ってもらうことで楽しみながら緊張をほぐし、お互いのことを知つてもらった。

[ワークについて]

昨年度三浦先生のスキルアップ講座「思いやりを形にする」で教わった情報共有ワーク「いろいろな人が住むマンション」を行った。これはマンションの住人を推理するゲームで、それぞれに数枚のカードを配り、各自が持っている情報を口頭で共有し、全員で協力して住人を考えることで情報共有の大切さを感じ取ることを目的としたものである。また、話しやすい環境を作ることで、参加者が今後ピア・サポート活動の中で横のつながりにより継続的な他コミュニティとの交流を持てるようにした。

[備品説明について]

ピアエリアに移動し、備品の取り扱いなどピアエリアを使用する際の注意点について研修生マニュアルを使用して説明した。

効 果

- ・和やかな雰囲気で企画を行うことで、研修生同士の仲を深めることができた。
- ・ワーク後に行ったアンケートでも、グループで協力して考えることで仲を深めることができたという感想があつたため、楽しみながらワークを行い、研修生同士の交流を促すという目的を達成できた。

改 善 点

- ・パワーポイントを使用した指示のタイミングを参加者目線で考える必要がある。
- ・ピアエリアに移動する際などに、参加者の移動をスムーズに行うために、案内係のようなものを配置すべきだと考えられる。
- ・備品説明では、実際に備品を手にしながら説明する必要がある。

感 想

- ・全体を通して、和やかな雰囲気で研修生同士の交流を促し、楽しみながらピア・コミュニティについて知つてもらうことができたと思う。
- ・研修生対象の催しなので、当日のワークの流れなど分からぬ部分も多かつたはずなので、もう少し研修生目線ですすめることができると、より良い企画にすることができると思う。

◆企画名 運営本部夏合宿
日 程 2017年9月13日（水）～9月14日（木）
場 所 関西大学 高岳館
参加者数 14名（ピア・サポート6名、研修生5名、学生支援室TA1名、職員2名）
目 的

- ・レクリエーションなどを通じて、新しく運営本部に入ったメンバーと親睦を深める。
- ・過去の企画の振り返りを行い運営本部の現状を見つめなおし、活動理念の再確認をする。
- ・過去の企画のフィードバックから、これから運営本部の方向性を考え、共有する

内 容

①心理ゲーム

アイスブレイクとして合宿初日の緊張をほぐすために行った。

②スキルアップ穴埋め

ピア・サポート活動を通して得られるものや、ピアの理念を穴埋め形式で答えていく企画を行った。

③振り返りワーク

今後の活動を円滑にするため、過去に運営本部で実施した企画を新メンバーに紹介し、内容や注意点を知ってもらった。

④ジェスチャーゲーム

2日目の朝に、レクリエーションとして頭と体をしっかりと起こし、これからワークに集中できるようにするために行った。

⑤1日目のフィードバック、企画作り

1日目で行った振り返りワークをもとに思ったこと、考えたことを個人で書き出し、その後グループで共有した。そして、集まったアイデアから実際に企画を作り、発表するという実践を目的としたワークを行った。

効 果

- ・ピア・コミュニティ全体合宿ではなく、運営本部のみの合宿であったため、新メンバーに対して、過去に運営本部はどのような企画を行ったのか、ピア・サポートとは何かを理解することを重点としたワークを行うことができた。
- ・合宿を行った高岳館ではKUコアラも合宿を行っていたので、共同で懇親会を行い、運営本部の活動理念の一つにある、コミュニティ間の交流の促進としての良い機会ともなった。

改 善 点

- ・心理ゲーム自体があまりアイスブレイクに向いていないように感じた。
- ・ワークごとにタイムキーパーを設けていなかったので、時間配分に少し問題が出た。
- ・ジェスチャーゲームが少し盛り上がりに欠けた。
- ・新メンバーが合宿の準備にかかわる機会が少なかった。

感 想

- ・新メンバーが加入して、体制が落ち着いてきた頃であり、新メンバーがこれから企画を担当していくにあたって、何をすればいいのか混乱しないようにアドバイスをする機会としても、合宿を行うことができ良かった。
- ・自分自身、合宿を担当することが初めてだったので、至らないことがたくさんあったが、この経験を資料として残し、これから運営本部全体としての活動に生かしていきたいと思った。

◆企画名	<u>peer 懇いの場 “はねやすめ”</u>
日 程	<u>2017年11月2日（木）～11月5日（日）</u>
場 所	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア、コラボレーションエリア</u>
参加者数	<u>11名（ピア・サポート9名、研修生2名）</u>
目 的	

ピア・コミュニティの大きな課題として、団体の知名度がまだ低いという点が挙げられる。そこで、学園祭という大勢の人々が関西大学に集う機会を利用し、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえる場を設けることで、団体への興味関心を喚起し、「おもしろさ」を感じてもらえるようにする。

また、本学学園祭は、毎年来場者数が多く大いに盛り上がっている一方で、正門からメインストリートは出店数が多くたくさんの人でごった返している。しかし、集う人々の割に休憩する場所が限られており、見つけ出すことさえ困難であるように思われる。ゆっくり座って休憩したり買った物を飲食したり、学園祭をより楽しむためにもちょっと一息つける場所にもしたい。

内 容

- ・凜風館1階のピアエリア、コラボレーションエリアにコラボレーションコモンズの備品をお借りして、飲食可能で座って休憩できるスペースを設けた。
- ・各コミュニティから活動中の風景を撮影した写真や、企画広報時に作成したポスターを提供してもらい、ホワイトボードなどをを利用して掲示した。また、ピア・コミュニティの紹介映像を、プロジェクターを使用して放映した。
- ・企画場所には常時サポート・研修生を配置し、ピア・コミュニティに関する質問を受け付けることができる様にした。

効 果

- ・今年度は合計731名が来場し、多くの方にピア・コミュニティを知ってもらうことができ、且つ休憩所として場所を提供できた。
- ・他コミュニティからの参加者と親睦を深めることができた。

改 善 点

- ・ピア・コミュニティの活動内容をより知ってもらうため、ピア・コミュニティの紹介パンフレットを受付だけでなく各テーブルにも配置し、手に取りやすくすべきだった。
- ・コンセントの使用は禁止されているため張り紙をしていたが、それでも携帯電話等の機器を充電している人がいたので見回りや事前対策を強化する。
- ・準備段階で担当者の仕事の割り振りが明確でないまま進行してしまうことがあったので、事前に仕事の割り振りをしっかりと行い準備がよりスムーズにできるようにする。

感 想

今回の企画では、運営本部・他コミュニティからの参加者全員が協力し活動を行うことができ、全体の結束が強まる良い機会となった。これからも、学園祭という大勢の人々が集まる機会を利用して、さらに多くの人にピア・コミュニティについて知ってもらえるような企画を参加者全員と協力して行っていきたい。

◆企画名 ウィンターワーク 2017
日 程 2017年12月13日(水)
場 所 総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム
参加者数 16名(ピア・サポート10名、研修生2名、学生支援室TA2名、職員2名)
目 的

- ・コミュニティ間の交流を促進し、サポート同士のつながりを深め、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。
- ・サポートにスキルアップの場を提供し、今後のピア・サポート活動の中で活用してもらう。

内 容

16:25～16:30 始めの挨拶
16:30～16:50 アイスブレイク(褒めゲーム)
16:50～17:30 ワーク
17:30～17:35 アンケート記入、終わりの挨拶

【アイスブレイク(褒めゲーム)について】

1人ずつ人や物を褒めるといった内容の文章が書かれたカードを引き、それを実践する。これをグループ内で繰り返した。

【ワークについて】

始めに、用意した課題に対して、ロジックツリーを用いてどのような解決法があるかをグループで考えた。次に自分の得意なことや強みを各自書き出してもらい、それをグループで共有した。ロジックツリーで出てきたいいくつかの解決法の中から、自分達のグループが持つ強みを活かして実行できそうなものを選び、それに対する企画を考えた。最後にそれぞれのグループで考えた企画を発表し全体で共有した。

効 果

- ・ワークでは和気藹々とした雰囲気で進めることができ、3グループそれぞれ異なった新たな企画や既存の企画を新たな角度から考えることができたため、企画の案を沢山出すことができた。
- ・比較的少人数のグループにしたため、しっかりコミュニケーションがとれ、お互いの意見をよく聞くことができた。

改 善 点

- ・褒めゲームを始める前に自己紹介をすることでよりスムーズにワークへ持っていくことができたのかもしれない、今後の企画の際は始めに自己紹介をする。
- ・参加者がKUコアラの数名と運営本部だけで少なくなってしまったので、広報方法や周知方法を工夫する。

感 想

- ・今年もウィンターワークを実施することができ良かった。
- ・アイスブレイクの褒めゲームでは参加者の緊張をほぐすことができ、スムーズにワークへ持っていくことができた。
- ・事前にアンケートを行ったためニーズに沿ったワークができ、ピア・サポート活動に活かせるスキルアップの場や各コミュニティの枠を超えて交流できる機会となつた。
- ・ワークで出た案を理想で終わらせず、ピア・コミュニティ運営本部の活動目的を達成するための第一歩として、今後進めていく企画の参考にしたり、ピア・コミュニティ内だけでなく一般学生にも興味を持ってもらえる企画を実現させたりしていきたい。

◆企画名	2017年度 関西大学ピア・コミュニティ春合宿
日 程	2018年3月15日（木）～3月16日（金）
場 所	関西大学 飛鳥文化研究所
参加者数	31名（ピア・サポート21名、研修生3名、学生支援室TA3名、教職員4名）
目 的	

- ①ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポート同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい今後のコミュニティ間の連携を促進する。
- ②様々なアイスブレイクの紹介を通じて、各コミュニティの今後の企画においてアイスブレイクの充実を図る。
- ③各ピア・コミュニティが抱える問題点を把握し、それについての意見交換を行い、未来に向けて今後の活動の方向性を考える機会とする。

内 容

- | | |
|-----|--|
| 1日目 | ・開会挨拶、企画説明、自己紹介
・本部企画ワーク「アイスブレイク紹介」
・TA企画ワーク「よりよいミーティングにするために」
・懇親会 |
| 2日目 | ・レクリエーション
・本部企画ワーク「ピアの未来を見据える」
・アンケート記入、閉会挨拶 |

効 果

- | |
|--|
| ・レクリエーションやアイスブレイク紹介を通じて、今まで交流をしたことがなかった人とも交流する機会となり、親睦を深めることができた。
・各場面に応じたアイスブレイクの紹介によって、様々な種類のアイスブレイクの知識を得ることができた。
・各コミュニティが抱える問題点を共有することで、ピア・コミュニティの現状の把握と今後の活動の方向性を考えることができた。 |
|--|

改 善 点

- | |
|--|
| ・各企画の準備不足や一部の人に仕事が偏ったことで、参加者募集の開始が遅くなり、募集期間や合宿の費用を集める期間が十分に取れなかった。余裕を持って春合宿に向けてやらなければならないことを把握する。
・本部企画ワーク「ピアの未来を見据える」では、それぞれの作業の時間が押して、グループ内や全員で共有する時間が十分に取れなかった。事前にリハーサルをして、各作業に必要な時間を確認し、時間設定をする。
・懇親会では、コミュニティごとで固まってしまい交流できていない人が多かったので、同じコミュニティ内だけではなく、コミュニティの枠を超えて交流を深めができるようにする。 |
|--|

感 想

参加者募集の期間が短かった中でも、参加者が多数集まることで企画ごとにとても盛り上がって楽しめたので良かったと感じた。 レクリエーションやアイスブレイク紹介においては、今まで面識のなかった人とも体を動かしたりゲームをすることで楽しく交流を深めることができ、ピア・サポート同士のつながりが強まったと思うので、合宿を行う意義があったと感じる。 今後はより合宿を充実させるためにも積極的に参加者募集を行ない、参加者を増やしていきたい。

2.2.2 国際コミュニティ “KUブリッジ”

■ ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ “KUブリッジ”（以下、「KUブリッジ」という）は、留学生の学生生活の充実を図るために、日本と諸外国との文化交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■ 所属人数

26名（男6名、女20名）

*1年次8名、2年次7名、3年次5名、4年次5名、大学院生1名（2018年3月末現在）

■ ミーティングの概要

定例ブリッジ全体ミーティング 週1回、定例国際部ミーティング 月1回

この他、企画チームのミーティングを週1回、3部署（デザイン部、渉外部、人事部）のミーティングを週1回程度行う場合もある。

■ ピア・コミュニティ内の連携について

企画は3~4人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に1回の全体ミーティング（以下、「MT」という）でKUブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MTの前半において各グループ5分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料など携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにすることで、情報共有を徹底している。またMT後半において各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたりワークを行うことで、KUブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他コミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることの良さを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■ 教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KUブリッジと支援母体である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るために、昨年度に引き続き、毎月1回国際部職員とKUブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化やKUブリッジが国際部へ求めていること、国際部がKUブリッジに求めることについて意見交換をし、その結果、KUブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の大切さを認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■ 昨年度からの改善点

KUブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年KUブリッジとして何をしなくてはいけないかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、サポートにまわることが多かった上回生も自分の考えた企画を実施するなど、新しいことに取り組んだ。さらに自分たちの弱みを見つけ、改善するためワークを行った。このワークは次年度も引き続き行うが、ワークのみにとどまらず実際に普段のミーティングや企画に反映していくことが重要と考える。また、弱みに関しては団体を運営していくにあたって常に認識されるものであるが、これまでの活動を支えてきた強みも再度認識し、後輩に伝えていく必要がある。そのためには上位年次のみならずOB・OGの意見も重要と言える。今後も様々な立場からの意見を反映し、メンバー皆が同じ目標に向かって活動する団体を目指したい。

◆企画名 Facebook の運営
日 程 2017年4月～2018年3月
場 所 Facebook 上
参加者数 26名（ピア・サポート12名、研修生14名）
目 的

Facebook の利便性を活かした情報の発信を行うことで、KU ブリッジの認知度向上や活動内容のアピールを図る。

内 容

各企画の事業計画書の内容に基づき、Facebook による情報配信を行った。
配信内容は、主に各企画の開催予告や企画終了後の Thank you ポスト、また、企画当日にやむを得ず発生した変更事項等を、必要に応じて配信した。

効 果

- Facebook の運用を通じて、Facebook を利用する日本人学生や外国人留学生に向けて KU ブリッジをアピールすることができた。
- 企画当日にやむを得ず発生した中止連絡や集合場所の変更等についても、Facebook を用いて参加者により早く情報を届けることができ、スムーズな企画運営にも役立った。

改 善 点

- 学生全体の Facebook 離れが進んでおり、フォロワーの数が伸び悩んでいる。
→新たな SNS 運用の必要性を感じているため、次年度以降 Facebook 以外の SNS 運用についても検討を進めていく。

感 想

Facebook のような SNS を KU ブリッジの活動に用いることは、活動内容や企画の紹介だけではなく、やむを得ず伝達が必要となった事柄を素早く周知できるという点で、大変有効な手段の一つである。その一方で、Facebook アカウントのフォロワーは毎年増加しているが、その程度は僅かなものであり、認知度の向上という観点では、充分な効果は感じられなかった。今後は、Facebook を日常的に利用している学生が減少していることを鑑み、新たな SNS の運用にも前向きに取り組みたい。

◆企画名	<u>ようこそ関大 Festival 2017</u>
日 程	<u>2017年4月2日（日）</u>
場 所	<u>100周年記念会館</u>
参加者数	<u>120名（ピア・サポート7名、研修生6名、留学生89名、一般学生17名、留学生会1名）</u>
目 的	

新入留学生と在学生の交流の場を提供し、彼らのキャンパスライフが充実したものになるようきっかけ作りをすると同時に、新入生が関西大学を知る機会を作る。また KU ブリッジ、留学生会の存在を知ってもらい、今後の各種イベントに気軽に参加できるようアプローチする。

内 容

9:00	全体ミーティング
9:30	会場設営
10:30	受付
11:00	開会式 KUブリッジ・留学生会紹介 アイスブレイク
11:30	ランチタイム
12:15	スタッフは参加者誘導
12:20	アクティビティ (bingoゲーム・関大クイズ・関西弁講座)
13:10	閉会式、記念撮影
13:20	参加者を校友会Spring Festivalへ誘導、参加者は自由解散
13:30	スタッフは撤収作業
14:30	フィードバック、解散



効 果

春学期最初のイベントで、多くの新入留学生に対して新しい友人を作るきっかけを提供できた。また、KU ブリッジや留学生会の活動についても知ってもらう機会となった。

改 善 点

- ・言語対応が不十分であった。ゲームは言語によるコミュニケーションを必要としないものを選ぶなどの配慮が必要である。
- ・日本人の参加者が少なかった。広報期間を長く取り、個人伝言・インフォメーションシステムのお知らせを有効活用する。
- ・準備期間が短く、企画直前に忙しくなってしまった。3ヶ月程度は取るべきである。
- ・場所の移動の際に人の流れを上手く作ることができず、混乱した。
- ・アンケートの形式は Google フォームや紙媒体ではなく、シールを貼る、名札を投票するといった形式の方が良いのではないか。内容も選択肢が多くすぎた。
- ・国際部との連絡が不十分であった。細かい点もしっかりと確認し、情報の共有を行うべき。

感 想

毎年恒例のようこそ関大 Festival だが、今回も 100 名を超える参加者で賑わいを見せた。特に今回は、アクティビティとして色々な人に質問をするbingoゲームや関大クイズを行う中で、新たな参加者同士の交流が生まれていたと感じる。司会者による関西弁講座も好評であった。特に大きなトラブルも無く、全体として企画は成功したと思うが、今年度のノウハウや改善点を引き継ぎ、次年度はさらに充実したイベントを目指したいと思う。

◆企画名	<u>KU バザー</u>
日 程	<u>2017年4月10日（月）～4月11日（火）</u>
場 所	<u>第2学舎1号館前ベンチ、総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
参加者数	<u>35名（ピア・サポート4名、研修生4名、留学生27名）</u>
目的	

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を KU バザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内 容

<当日の流れ>

4月10日（月）、4月11日（火）両日とも以下のスケジュールにて行った。

10:40 会場設営（受付） 有鄰館から物品を運搬、陳列する。

12:10 イベント開始

参加者は受付でチェックインしてから入場する。（参加者名簿作成のため）

方法：名簿に名前と学籍番号を書いてもらい、その場で KU ブリッジの Facebook をいいね！する。

また、その際にどの告知でこのイベントを知ったのか調査する。

スタッフは随時巡回をし、物品の説明などを参加者に行う。

写真係はバザーの様子を写真に撮る。

13:30 イベント終了、撤去作業開始

残った物品は有鄰館へ運搬する。

フィードバックし、スタッフ用にオンラインで共有、翌日にその改善を反映する。
KU ブリッジの Facebook にて Thank you ポストと、明日の告知を投稿する。

14:30 解散

効 果

- ・無償提供された物品が留学生の手に渡る事によって、喜んでもらえた。
- ・一人暮らしの留学生が多いため、ハンガーや洗濯ばさみなどの日用品を喜んで持って帰っていた。
- ・受付時に全員に KU ブリッジの Facebook をいいね！してもらうことにより、今後の広報における Facebook を用いてのお知らせがより期待できるようになった。

改 善 点

- ・今回は物品の量が多く、スペースを大幅にとったため、入口と出口が分かりにくくなり、参加者がどこから入るか困っていた。
→次回からエリアの目印を増やすとともに、スタッフが入口と出口付近に立ち、誘導する。
- ・留学生がバザーが無料ということを知らず、無料と伝えると喜んで来てくれた。
→Facebook やインフォメーションで無料というのを強調する。
- ・2日目は凜風館の中で行ったが、凜風館の場所自体わからない留学生がいた。
→Facebook に、凜風館全体の写真を載せ、建物を強調する。

感 想

雨の心配もあったが、2日間に分けて留学生が集まり、善意で寄付していただいた方達の温かい想いと共に、多くの物品が留学生の手元に渡った。物品を受け取った留学生は皆喜んでおり、運営スタッフもこの KU バザーの意義を感じた。引き続き KU バザーを行っていきたい。

◆企画名	welcome event with KUBridge
日 程	<u>2017年4月12日（水）～4月13日（木）</u>
場 所	<u>総合学生会館凜風館1階 ピアエリア</u>
参加者数	<u>19名（ピア・サポート4名、研修生3名、一般学生7名、留学生5名）</u>
目 的	

ミニゲームや動画紹介などを通じて、まだKUブリッジのことをよく知らない学生に活動を周知し、興味を持ってもらうことを目的とする。

内 容

- 16:15 スタッフは会場に集合、設営と物品の移動
- 16:30 受付開始
- 16:35 1回目の企画開始、スタッフ自己紹介
- 16:45 アイスブレイク、トランプカードゲーム説明
- 16:55 トランプカードゲーム開始
- 17:05 1回目の企画終了、参加者の入れ替え
- 17:10 2回目の企画開始
スタッフ自己紹介、概要説明
- 17:20 アイスブレイク、トランプカードゲーム説明
- 17:30 トランプカードゲーム開始
- 17:40 2回目の企画終了、撤収開始
- 17:50 スタッフフィードバック、解散



効 果

- ・アイスブレイクやトランプカードゲームを通してKUブリッジメンバーと交流し、参加者にKUブリッジのことを知ってもらうことができた。
- ・新入生が多く来てくれたため関大のことを教えてあげることができた。

改 善 点

- ・事業計画書を履修登録前に提出してしまったため、企画を計画したメンバーが授業のために参加できないという事態が起こってしまった。次からは履修がわからない4月の企画は授業時間にするのではなく、昼休みに行う。
- ・ポスターに不備があり、貼り直しをしなくてはいけない事態になった。企画メンバー内のチェックをもっと強化する。
- ・企画として、新入生にKUブリッジのことを紹介するのか、留学生と日本人学生の交流を深めるものなのか軸がしっかりしていなかった。次回からはどちらにするのかしっかり的に絞って広報をしていく。

感 想

以前は新メンバー募集するにあたりガイダンスだけで、新入生にKUブリッジのことをよく知ってもらう機会が少なかった。企画に参加してKUブリッジのことをよく知つてから新メンバーに加わってほしいと思うため、今回の企画は良い機会になったと思う。新メンバーにならないにしても、次回の企画に参加者として来てもらう良いきっかけになったと思う。企画当日は今まで企画を運営してきた経験から臨機応変に対応し、盛り上げることができた。また、KUブリッジの紹介パンフレットを用意していたため、人数がそろう前など、時間を持て余しているときにKUブリッジの説明をすることができた。これからも今回のように気軽に参加できるような企画をどんどん考えていきたい。

◆企画名 新緑ハイキング
日 程 2017年5月28日(日)
場 所 箕面公園
参加者数 21名(ピア・サポート3名、研修生3名、一般学生7名、留学生8名)
目 的

ハイキングを通して留学生と日本人学生の交流を深め、新しい友人を作る場を提供すること。また、日本の新緑の季節の美しさを楽しんでもらうこと。

内 容

- | | |
|-------|--|
| 13:00 | 関大前駅北口集合
参加費徴収・自己紹介
アイスブレイク |
| 13:41 | 関大前駅出発 電車で移動 |
| 14:26 | 阪急箕面駅到着 |
| 14:30 | 箕面駅近くでグループに分かれて
グループごとに出発 |
| 16:00 | 箕面大滝集合、集合写真を撮る
箕面大滝前で休憩したのち、箕面駅へ向かう |
| 17:30 | 箕面駅にて参加者現地解散
終了後、現地にてスタッフフィードバック |



効 果

ハイキング中には、グループで歩きながら参加者同士が自由に話をして仲良くなっている場面が数多く見られた。

改 善 点

今回のイベントは参加者の満足度も非常に高く、当日の運営に関してはトラブルなく進められたため、特に問題はなかったと考えている。しかし、準備段階で企画担当者が3名と少なく、各担当者の負担が大きくなってしまったことや、告知期間が予定より短かったこともあり、募集定員を下回る参加人数となってしまったという点が課題である。今後の企画では企画担当者の人数を増やし、広報スタートのタイミングを早められるよう準備を進めること、また直前準備には企画担当者以外がサポートを行うことが必要であると考えている。他にも、ハイキングルートで携帯電話が一時的に圏外となり連絡手段がなかった点も、万一何かあった時に備えた対策が必要である。

感 想

新緑ハイキングは毎年この時期の恒例企画となっているが、特に今年は参加者アンケートでの結果が満足度100%と非常に良い結果を得られたことから、例年を超える良いイベントが実施できたと感じている。全体を通してスムーズな進行ができたことは勿論だが、参加者が自由に会話できる交流時間を重視して、ハイキング中のアクティビティのボリュームを抑えたことで、普段のイベントと比べてより深い交流が生まれた点も、満足度の向上の要因ではないだろうか。個人的にはイベント終了時に「たくさん話せて楽しかった」や「まだ帰りたくないなあ」と言った声が参加者からあがっていたことを嬉しく思っている。次年度以降もこの企画は継続していくこととなると思うが、更にパワーアップした新緑ハイキングを実施し、国際交流の促進に繋げていきたいと考えている。

◆企画名	放課後なつかし遊び
日 程	2017年6月21日(水)
場 所	総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム
参加者数	24名(ピア・サポート2名、研修生8名、一般学生6名、留学生8名)
目 的	

放課後の時間に開催することで気軽に参加してもらえるイベントにし、また、日本の子どもたちが幼いころから親しみのある遊びで体を動かすことを通して、日本人学生と留学生の交流を促進する。

内 容

【当日の流れ】

- 16:45 スタッフミーティング
- 17:00 会場設営
- 17:30 参加者受付開始
- 17:40 参加者受付終了、スタッフ自己紹介
- 17:55 アクティビティ①「ハンカチ落とし」
- 18:15 アクティビティ②「だるまさんが転んだ」
- 18:35 フリートークタイム(おやつ休憩)
- 18:55 アクティビティ③「漢字画数リレー」
- 19:15 イベント終了、アンケート記入、記念撮影、参加者解散
- 19:30 スタッフ撤収作業
- 19:45 スタッフフィードバック
- 20:00 スタッフ解散



効 果

さまざまな昔遊びを通して、日本文化のおもしろさを知ったり、再発見したりすることができた。また、このような経験を共有することで、日本人学生と留学生が楽しく交流し、国際交流の場を提供することができた。

改 善 点

- ・時間の短縮をしようとして、ハンカチ落としをアイスブレイクとしたが、名前を覚えられなかった人が多くいたので、名前を覚え、心の距離を縮めるアイスブレイクの機能を果たせていなかった。
→参加者同士の名前を覚えることができるアイスブレイクを行う。
- ・新メンバーのスタッフが、ゲームや後片付けのときに与えられた役割を果たせなかつた。
→事前に各自で台本を読み込み、疑問に思った点やイメージしにくかった点を企画メンバーに相談すべきだった。また、それぞれの役割に合わせた説明があるため、役割ごとに読み合わせ時間を別で設ける。

感 想

- ・広報期間中になかなか参加者が集まらず不安だったが、なんとか開催できる人数を確保でき安心した。
- ・ゲームを通して盛り上がり、また、駄菓子を用意したフリートークではより一層親睦を深めることができた。
- ・放課後企画は昨年度行っていなかったため、新たにノウハウや課題を示すことができた。

◆企画名	<u>2017年度 秋学期キャンパスツアー</u>
日 程	<u>2017年9月7日（木）</u>
場 所	<u>関西大学千里山キャンパス</u>
参加者数	<u>135名（ピア・サポート4名、研修生5名、留学生126名）</u>
目 的	

秋学期から関西大学で学ぶ交換留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、少しでも早く大学に慣れ、学生生活を円満に送れるようにする。同時にKUブリッジの活動も紹介し、今後のイベントへの参加を呼びかける。

内 容

- 10:00 KUブリッジメンバーは国際部に集合し、最終ミーティングを行う。
- 10:45 留学生待機場所の第4学舎の教室で挨拶。
その際にグループ分けを行う。
- 11:00 キャンパスツアー開始。
- 11:30 悪天候のため、早めにキャンパスツアーを終了。
回り切れなかつた場所は口頭で説明し、参加者は全員凜風館2階の食堂へ集合。
- 12:00 希望者は食堂に残ってもらい、ランチ開始。
その際各テーブルを回り、写真撮影を行う。
- 13:00 留学生を次のオリエンテーションが行われる教室まで送り届ける。
- 13:05 KUブリッジメンバーはフィードバックを行い、解散。

効 果

- ・留学生がキャンパス内のおおまかな施設を知ることができた。
- ・留学生とKUブリッジメンバーが共に昼食を食べることで交流ができた。

改 善 点

- ・参加者全員で写真を撮ることができなかつた。
→雨の場合の写真スポットを検討する。
- ・同じ出身国同士での交流が多かつた。
→できるだけ出身国の違う留学生同士と同じグループにすべきである。
- ・天候に恵まれずツアールート全部を回りきれなかつた。雨対策が不十分であった。
→傘等があれば良かった。雨天時の対策を考える。
- ・台本やルートの決定が遅く、事前に台本の読み合わせができていなかつた。
→遅くとも前日までには当日スタッフが確認できるように台本を準備する。
- ・図書館の開館時間を聞かれたが、分からなかつたので答えられなかつた。
→事前に図書館に確認し、台本に記載しておく。
- ・授業のある学舎等の情報が欲しいとの意見があつた。
→教室の表記方法の説明等を台本に組み込む。

感 想

関西大学の紹介はもちろん、KUブリッジの広報という面や新規の交換留学生同士の交流促進という面でも効果的な企画である。今後も継続すべき企画だと感じた。

◆企画名 KU バザー
日 程 2017年10月16日(月)～10月17日(火)
場 所 総合学生会館凜風館1階 ピアエリア
参加者数 46名(ピア・サポート5名、研修生7名、留学生34名)
目 的

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨(使用・未使用は問わない)を中心とする物品をKUバザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内 容

10月16日(月)、17日(火)両日とも以下のスケジュールにて行った。

10:40 会場設営(受付)

雨天であったため凜風館1階ピアエリアにて行った。

12:10 イベント開始

参加者は受付でチェックインしてから入場。同時にFacebookへの掲載許可をたずねた。



また、スタッフが随時巡回をし、物品の説明などを参加者に行い、イベントの様子を写真におさめた。

13:30 イベント終了、撤去作業開始

フィードバックし、スタッフ用にオンラインで共有(スマートフォンアプリを利用)、翌日にその改善を反映できるように準備を行った。また、Facebookページにイベントの様子をアップロードし、参加者への謝辞とした。

14:30 解散

効 果

- ・留学生活が始まったばかりの留学生たちに対して、無償で実際に春学期まで他の留学生が使用していた生活に役立つ物品(特に衣服など)を提供することができた。
- ・今までKUブリッジのメンバーと面識がなかった留学生でも、事前申し込みがいらないイベントのため参加がしやすかった。

改 善 点

- ・雨天の影響で凜風館1階ピアエリアでの実施だったため、会場が狭く、参加者が入場する際の手続きに時間がかかった。
→参加者が動きやすい会場の動線づくりを心掛け、スタッフそれぞれが周りを見て行動する。
- ・参加者が物品を持ち帰る際のツールが不足していた。
→何度も行っている企画なので過去の経験を生かし、必要な準備物のチェック項目を設ける。

感 想

両日とも雨天で屋内での開催だったが、多くの留学生が来場し、それぞれが必要を感じた物品を持ち帰っていた。春学期に関西大学を去った留学生が、日本に置いて帰ってくれた物品によって、秋学期入学の留学生の日本での新生活が少しでも楽しいものになれば嬉しいと思う。思い思いに物品を選ぶ留学生の表情を見て、運営スタッフもKUバザーがもたらす効果を実感した。今後も引き続きKUバザーを行っていきたい。

◆企画名	プチ陶芸体験 in 大阪
日 程	<u>2017年11月12日(日)</u>
場 所	<u>大阪(新世界周辺)</u>
参加者数	<u>22名(ピア・サポータ1名、研修生1名、日本人学生13名、留学生7名)</u>
目 的	

陶芸用の粘土で泥だんごを作ることで日本の遊びを手軽に感じてもらい、また新世界に行くことで大阪の下町文化にも触れてもらう。さらに、日本人学生と留学生の交流促進を目的とする。

内 容

- 10:30 参加者受付
- 10:40 全体説明
- 11:00 関大前駅より電車で移動(天下茶屋行に乗車)
- 11:40 あべのハルカス前「てんしば」で昼食
- 12:40 堀越陶芸ビルへ移動
- 13:00 体験(輝く泥だんごを作ろう)
- 14:00 ジャンジャン横丁、通天閣観光(新世界エリア)
- 15:30 参加者解散、地下鉄動物園前駅周辺でスタッフはフィードバック



効 果

- ・留学生は泥だんご作りという日本の遊びに触れることができ、日本人学生は陶芸の土で作ったり、色付けしたりすることでひと味違う日本の遊びを体験できた。
- ・新世界周辺を班で観光することで、学生同士の会話が弾み交流促進につながった。

改 善 点

- ・参加費の集金日を知らせるリマインドメールが、参加者にきちんと届いているのか不安だった。
→メール文に要返信と記載し、いつなら集金できるか参加者に返信してもらうようする。
- ・広報期間が短くなってしまい、参加者を集めることができた。
→前もって必要な提出書類を作成する期限を自分たちで決め、広報期間をしっかりとれるようにする。
- ・参加者同士が仲良くなるまでに時間がかかってしまった。
→アイスブレイクの時間を多めに設定する。

感 想

企画実施のために必要な書類の提出が大幅に遅れてしまったので、企画自体がきちんと行えるかなどの不安点がたくさんあった。しかし、企画当日は参加者の誰も遅刻をせず、企画中もスタッフの指示に耳を傾けてくれ、自分たちの予想よりよい企画になった。お昼ご飯をてんしばでみんなで食べたことも仲を深めるのによかったと思う。特にハプニングやアクシデントなく企画が実施でき安心した。反省点もたくさんあったので、今後の企画に今回の反省点を生かし、もっとよい企画を作りたいと思う。

◆企画名 Enjoy BBQ Party at 緑地公園
日程 2017年11月26日(日)
場所 服部緑地公園
参加者数 23名(ピア・サポート4名、研修生3名、日本人学生9名、留学生7名)
目的

BBQの火起こしや食材の準備など、共同作業を通して日本人学生と外国人留学生との交流を促進する。また暑さも穏やかになった晩秋の野外でのレクリエーションの実施により、日本の四季を感じることも目的とする。

内 容

- 10:00 はじめの挨拶、アイスブレイク
10:20 BBQ開始
12:30 BBQ終了後、片づけて移動
13:00 レクリエーション開始
(人間知恵の輪・じゃんけん列車・ジェスチャーゲーム)
13:30 休憩
13:50 フリスビー(アルティメット)
14:30 おわりの挨拶、集合写真の撮影、アンケートの記入



効 果

BBQを通して日本人学生と留学生が積極的に交流できた。また、レクリエーションをしたことで、自然と会話が弾み参加者同士で活発にコミュニケーションがとれていた。

改 善 点

- ・BBQの時間を2時間弱と設定していたが、実際は早く終わってしまい退屈してしまうグループもあったため、今後はもう少し時間を短くしても良いと考えた。
- ・アイスブレイクで他のグループのメンバーの名前を覚える機会がなかったため、全員でのレクリエーションの際に名前が分からぬことがあった。そのため、アイスブレイクは全員ができるものの方が良い。
- ・レクリエーションの内容が十分でなかつたがために、途中で帰ってしまう人がいた。レクリエーション内容の難易度やイレギュラーな事態への対応を考え、一度ミーティングで全体シミュレーションすると良いと考えた。

感 想

定期的なミーティングが上手くできていなかった、各自が仕事の期限を曖昧にしていてことなどが、企画に余裕がないことに繋がった。そのため、告知期間が短く直前に焦る形になってしまった。当日、参加者は楽しんでくれたが、輪に入りきれていない人もいたため、そうならないように全体を見る役割のスタッフが必要であった。スタッフ全員が企画に携わっている自覚を持ち、余裕を持った進行が行なえるようにする。

イベント中は、参加者自らがギターやマジックを披露してくれ、大いに盛り上がり、また怪我や失敗がなくスムーズにできたので良かった。

◆企画名	<u>Latte art at Kandai</u>
日 程	<u>2017年12月9日(土)</u>
場 所	<u>総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム</u>
参加者数	<u>28名(ピア・サポート2名、研修生6名、一般学生6名、留学生14名)</u>
目 的	

普段何気なく朝食やブレイクタイムに飲まれるコーヒーの奥深さを知り、今回の企画であるラテアートを通して、改めてコーヒーと向き合う時間を持つてもらうため。また、様々な国の人と交流するきっかけにしてもらうため。

内 容

12:00	スタッフ集合
12:10	会場設営
13:00	参加者受付
13:30	イベント開始 自己紹介、アイスブレイク
14:00	ゲーム
14:45	休憩
15:00	ラテアート体験
16:30	アンケート記入、記念撮影
17:00	参加者解散
17:05	片づけ
17:30	フィードバック
18:00	スタッフ解散



効 果

- ・アイスブレイクを通して、様々な人と交流でき、親睦を深めることができた。
- ・ラテアートという普段ではあまりできない体験ができた。

改 善 点

- ・アイスブレイクが短すぎた。また、ゲームが長引いてしまった。
→事前にリハーサルを行い、1つのアクティビティにどれくらいの時間が必要か把握する。
- ・参加費の集金の用意ができていなかったため、当日に手間取ってしまった。
→余裕をもって計画し、やるべきことを順番にクリアにする。

感 想

計画段階から問題が多数あったため、ラテアートの企画はKUブリッジ内で反対の声が多くあったが、何とか無事に決裁があり、イベントの開催を迎えることができた。当日は、アイスブレイクやゲームで盛り上がり、ラテアート体験では講師の方がとても優しく指導してくださり、素晴らしい体験ができた。私たちスタッフもとても有意義な時間を過ごせた。反省点はたくさんあったが、当日スタッフ8人で協力し合い、無事に終えることができた。今後の企画に今回の反省点を活かして、さらに良い企画を作っていくたい。

◆企画名	<u>2018年度 春学期キャンパスツアー</u>
日 程	<u>2018年3月28日(水)</u>
場 所	<u>関西大学千里山キャンパス</u>
参加者数	<u>77名(ピア・サポート2名、研修生4名、留学生71名)</u>
目 的	

春学期から関西大学で学ぶ交換留学生を対象にキャンパスツアーを行うことで、大学に慣れ、学生生活を円満に送れるようにする。同時にKUブリッジの活動も紹介し、今後のイベントへの参加を呼びかける。

内 容

8:30	当日スタッフは凜風館1階ピアエリアに集合	
9:45	留学生ピックアップのため第2学舎A503教室に移動 留学生をA~Hのグループに分けて4回キャンパスツアーを行った。	
10:00	C・D キャンパスツアー開始	
10:55	終了	
11:00	A・B キャンパスツアー開始	
11:55	終了 キャンパスツアー終了の際、KUブリッジメンバーは昼食を凜風館で食べることを伝え、希望者は凜風館まで誘導した。	
12:00	昼食、凜風館2階にて留学生と交流	
13:00	G・H キャンパスツアー開始	
13:55	終了	
14:15	E・F キャンパスツアー開始 国際部で行われていた別プログラムの遅れにより、15分程度遅れてのツアー開始となった。	
15:15	留学生は現地解散	
15:30	KUブリッジメンバーはピアエリアにてフィードバック	
16:15	KUブリッジメンバー解散	

効 果

- 例年よりも少人数グループでキャンパスツアーを行うことにより、説明などが聞こえない等のトラブルが無く、参加者全員にキャンパス内の施設を知ってもらうことができた。
- キャンパスツアー中や昼食時の交流などを利用し、KUブリッジや今後の活動のPRができた。

改 善 点

- キャンパスツアーのルート確認が足りず、第1巡目で数分の遅れが発生してしまった。
→当日スタッフはツアーで通る道順を試しに歩き、確認を怠らない。
- 凜風館での昼食の際、食堂の使い方(口頭で注文する時の頼み方、返却口や水の場所)も説明した方がよかったです。
→多くのメニューは英語やひらがなでの表記がないので、少しでも補助になるよう、人気メニュー やオーソドックスなメニューは当日資料に読み方を掲載する。

感 想

例年とは違う方法でツアーを行ったが、全体を見て比較的スムーズに行うことができた。留学生の今後の生活や、KUブリッジのアピールという面でもメリットがあるので今後も続けていくべき企画だと感じた。

2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ（PSC）

■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。“スポーツ”をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的に活動する。そのため、在学生や卒業生への応援活動を行うことで、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築き、より充実した学生生活を送ることができるようなサポート活動を行っている。

■ 所属人数

0名（2018年3月末現在）

■ ピア・スポーツコミュニティの現状

現在は、部員数が0名のため、活動ができていない状況である。しかしながら、オリンピックやワールドカップを見ても分かるように、スポーツには多くの人を感動させ、勇気づける力がある。学生からの要望を的確に捉え、スポーツを通じて関大生の「絆」を深めていけるような活動を再度企画できるようにしたい。

■ 課題

今後、活動を再開するためには、メンバーの募集が最優先である。体育系課外活動団体への入部数が年々増加していることからも分かるとおり、スポーツに興味を持つ学生が多い。それらの学生に、スポーツ行事を行う運営側の楽しさについても感じてもらうことで、メンバーの増加につなげていきたい。まずは、他のコミュニティメンバーの方々の協力を得て、少しづつでも行事を実施していきたい。

2.2.4 KUサポートプランナー（KUSP）

■ ピア・コミュニティの趣旨

KUサポートプランナーは「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティ。関西大学生の団体及び個人のアイデア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや学生の視点を生かした関西大学生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、関西大学の多くの学生のキャンパスライフをより良いものにすることを目指している。

■ 所属人数

12名（男6名、女6名）

*1年次2名、2年次2名、3年次4名、4年次4名（2018年3月末現在）

■ ミーティングの概要

原則2週間に1回

■ ピア・コミュニティ内の連携

連絡や情報の共有については、メーリングリストとSNS（LINE）を活用することで、会議やその他の連絡が行われていた。特にSNS（LINE）について、メンバー同士で食事に行くなど、メンバー間の交流を促進するためにも活用した。改善すべき点として、メンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。履修を決定する前から、早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるようにする努力が求められる。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーについては、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体である。密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画の計画時やKUSPの運営についてもアドバイスをいただいたことで広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を行うことができた。

■ 昨年度の課題の改善点

従来からの課題であるキャンセルに関して、未だ有効な解決策を見出せていない状況である。今後もKUSPが取りうる解決手段を模索していく必要がある。また昨年度の課題としていた企画数の減少については今年度メンバーが積極的に企画案を考え、動いたことにより改善できたのではないだろうか。今年度の課題としては、メンバーの少なさである。人数が少なければ今後実施する企画にも影響が出てくるのではないかと考えている。そうならない為にも積極的に新メンバー募集に力を注いでいけるようにしたい。

◆企画名 関大生協×KUSP料理企画第9弾 料理ビギナーズ大集合！～お好み焼きを作ろう～
日 程 2017年4月26日（水）
場 所 総合学生会館凜風館2階 生協食堂
参加者数 24名（ピア・サポータ4名、一般学生16名、職員4名）
目 的

本企画は、実家暮らしで料理が得意でない学生や、健康的かつ実践的な料理のことを知りたい一人暮らしの学生などに向けた企画である。また他学部の学生と共同で料理をすることで、学生同士の交流も目的とする。

内 容

参加者は全5班に分かれ、関大生協の方の実演の上、お好み焼きの作り方を教えていただきながら、その工程に沿って実際に料理を行った。

効 果

- ・様々な学部、幅広い学年の参加者がいたため、新たな交流を深めることができた。
- ・料理の得意な人、不得意な人がいたので、互いに教えあうことができた。

改 善 点

- ・開始時刻が、4限終了から10分後だったため参加者の集まりが悪く、開始時刻が遅れてしまっていたので、授業終了時刻を考慮した開始時刻にするべきだった。
- ・マイクの準備を忘れていたため、当日に急遽手配することになってしまった。
- ・前日にリマインドメールを送ることを忘れていた。
- ・生協の方との進行の分け方を、詳しく決めておくべきだった。

感 想

企画の序盤では、企画を担当することが初めてということもあり右往左往してしまったが、生協の方のご協力もあり、参加者は楽しそうであったので、満足していただけたと思われる。



◆企画名 輝く自分に！vol.3～自分に合う色から見つけてみませんか？～

日 程 2017年5月10日（水）

場 所 総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム

参加者数 25名（ピア・サポート8名、一般学生17名）

目 的

自分にはどんな色が似合うのか分からず、服の組み合わせに困っている方を対象にパーソナルカラー講座を実施。プロの方に教えていただくことで自分に合う色や服の組み合わせの知識を身につける。講師の方は関大出身で、年齢も近いということもあり、より親しみやすく、身近な講演になるとを考えた。

内 容

まず講師の方から一般的にカラーについてどのような悩みが具体的にあるかお話をあった。次にパーソナルカラーとはどのようなものか説明があり、パーソナルカラーを知っていることのメリットについてお話を聞いていただいた。その後各自で自己診断シートに記入し、参加者の中から選ばれた代表者2名が実際に講師の方にパーソナルカラー診断をしてもらった。最後に色彩心理について説明していただいた。

効 果

- ・講師の方が学生と年齢が近かったので、親近感が湧き楽しく受講することができた。親近感が湧きやすかったことで参加者自身が意欲的に講師の方の話を聞き、参加できたと考える。
- ・講師の方の説明や資料が、図や具体例を使っていて分かりやすく、参加者も意欲的に取り組むことができ、カラーについてよく理解することができた。

改 善 点

- ・参加者の名札返却が上手く行かず、ピア・サポートが声掛けをする必要があった。
- ・女性が目を引くような企画だったため、男性参加者が少なかった。これからは男性の意見も取り入れ企画を考える。
- ・間違った入口から入ってきた参加者もいたので、掲示をしたりピア・サポートの声掛けがこちらも重要だと思う。

感 想

特に大きな問題も無く、無事講演を終了することができた。講師の方のご尽力もあり、事前準備もうまくいった。ただ、講師の方も忙しかったのかアンケート・自己診断シートの資料が企画前日に届いたこともあり、コピーするのが当日の朝になってしまった。もう少し早めの段階で必要な資料などを聞いておくべきだった。



◆企画名	<u>現役関大生から教わるウォーキングレッスン！！</u>
	<u>「デュークズウォーキング～健康的に美しく～」</u>
日 程	<u>2017年7月10日（月）</u>
場 所	<u>総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム</u>
参加者数	<u>30名（ピア・サポート5名、一般学生14名、学生支援室TA1名、職員10名）</u>
目 的	

「あなたの得意、シェアしませんか？」の企画として行った。普段歩くことに何の問題も感じていない、むしろ当たり前になっている「歩く」という行為を通して健康や美しさを感じてもらうことを目的とした。前を見て姿勢よく元気よく歩くことで、気持ちのいい毎日を送ることも目的とした。

内 容

関西大学在学中でデューク更家公認ウォーキングスタイルリストの Mao 氏を講師として招き、ウォーキングレッスンを行った。身体本来の機能を整え、歩くために必要な筋肉を動かしながらエクササイズすることで、美しい歩き方を身につけた。どれだけ歩くかではなくどう歩くかの大切さにこだわったレッスンで参加者に体験してもらった。

効 果

「歩く」という当たり前の行為だが、実践形式のレッスンを通して参加者が笑顔になっていた。参加者のアンケートからも満足度の高い企画であることが分かった。また、歩き方を少し意識するだけで印象が大きく変わることが分かった、笑いながら運動できて良かったなどの声もあり、目的に沿った企画を行うことができた。

改 善 点

- ・講師の方と顔合わせをしてから企画当日までの期間が短かったことから、書類作成や広報の期間が短くなってしまった。
- ・「あなたの得意、シェアしませんか？」での企画経験者がおらず、講師の方とどう関われば良いのかが曖昧になってしまった。ポスターなど講師の方のこだわりを配慮しながら作成するのは難しかったので、話し合って講師の方に作ってもらっても良かった。
- ・当日はKUSPのメンバーもレッスンに参加させていただいたが、一般学生と同じ目線ではなく、あくまでもスタッフとして一步下がって参加するべきだった。

感 想

準備はスムーズにいかなかつた部分もあったが、企画は参加者に楽しんでもらえたので良かった。アンケートの満足度も高く、同じ企画をもう一度してほしいという声もあがつた。講師の方にも参加者の方にも満足していただけたので、今後同じような企画を行うことも視野に入れていくたい。



◆企画名 京都観光ツアー～日本の秋、改めて感じてみませんか～

日 程 2017年10月28日(土)

場 所 京都（南禅寺、京都御所、伏見稻荷大社）

参加者数 13名（ピア・サポート5名、一般学生8名）

目 的

普段、同じ学部の人と接する機会はあるが、他の学部の人と接する機会は少ないので、新しい友人作りをKUSPがサポートする。また日本で最も四季を感じることのできる京都で、団体行動の大切さと日本文化を学ぶことを目的とした。

内 容

貸切バスで南禅寺、京都御所、伏見稻荷大社を訪れた。南禅寺に着くまでの間は、自己紹介や訪問先の紹介などを行った。

南禅寺では三門、疏水、方丈庭園を見学し、京都御所ではKUSPのメンバーがガイドツアーを行った。そして伏見稻荷大社では参加者とピア・サポートを全3班に分け、本殿から熊鷹社まで見学した。

効 果

初対面の参加者同士でも話が弾んでいたり、バスの中で自己紹介をしている時に笑いが起きたりしていたので参加者同士での交流ができた。アンケート結果から、行ったことのなかった場所に行くことができたなどの意見があり、参加者に日本の文化を学んでもらう良い機会になった。満足度の高い意見が多かったので目的に沿った企画を行うことができた。

改 善 点

- ・参加者がなかなか集まらなかつたので、広報を工夫する。
- ・大学からの助成費についてきちんと理解しておらず、当初の予定では参加費を1000円に設定していたが直前に500円に変更した。
- ・当日参加者が短時間の間に一気に集合してしまい、受付が追い付かなくなってしまったので効率的な方法を考える。
- ・バスについて、当初より手配していた中型バスで実施したが、想定していた人数が集まらなかつたため、マイクロバスに変更するなど検討が必要だった。

感 想

下見を行った効果により道順やトイレなどの案内がスムーズに行えたので、訪問先での滞在時間などはほぼ予定通りだった。また、天候や交通事情により一部の予定を変更したが解散時間もほぼ予定通りだった。天候が悪かったが参加者の満足度の高い意見が多かつたのでこの企画を実施して良かったと思った。



◆企画名 第2弾！現役関大生から教わるウォーキングレッスン！！

「デュークズウォーキング～健康的に美しく～」

日 程 2017年12月12日(火)

場 所 総合学生会館凜風館4階 ミーティングルーム

参加者数 18名(ピア・サポート7名、一般学生7名、職員4名)

目 的

「あなたの得意、シェアしませんか？」の企画の第2弾として行った。普段歩くことには何の問題も感じていない、むしろ当たり前になっている「歩く」という行為を通して健康や美しさを感じてもらうことを目的とした。前を見て姿勢よく元気よく歩くことで、気持ちのいい毎日を送ることも目的とした。

内 容

関西大学在学中でデューク更家公認ウォーキングスタイルリストのMao氏を講師として招き、ウォーキングレッスンを行った。身体本来の機能を整え、歩くために必要な筋肉を動かしながらエクササイズすることで、美しい歩き方を身につけた。どれだけ歩くかではなくどう歩くかの大切さにこだわったレッスンで参加者に体験してもらった。

効 果

「歩く」という当たり前の行為だが、実践形式のレッスンを通して参加者が笑顔になっていた。参加者のアンケートからも満足度の高い企画であることが分かった。また、歩き方を少し意識するだけで印象が大きく変わることが分かった、笑いながら運動できて良かったなどの声もあり、目的に沿った企画を行うことができた。

改 善 点

広報期間が十分あったにも関わらず、参加者が少なかった。そこで、以前KUSPの企画に参加したことのある方に対し、次回企画の案内をすることで参加者を増やすことができないかと考えた。今後は、案内メールを送っても良いかをアンケートで聞いておき、案内希望の方のみに連絡をすることとする。

感 想

2回目ということで書類作成から当日の運営までスムーズに進めることができた。講師の方にも満足していただけたので良かった。しかし、参加者が少なかったことが残念だった。



2.2.5 KUコアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KUコアラは、関西大学の学生の図書館利用促進を目指すため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講習会といった企画を行うコミュニティである。主な活動は、開催時期に合ったテーマの特集本展示や、講演会の実施・運営である。

■ 所属人数

25名（男10名、女15名）

*1年次12名、2年次3名、3年次7名、4年次3名（2018年3月末現在）

■ ミーティングの概要

定例会議 同一内容で週2回

■ ピア・コミュニティ内の連携

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し合い、全サポートで現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残しているだけでは、情報の非対称性が問題となる可能性があるので、メーリングリストのアプリケーションを利用することで、最低限の情報の共有を行っている。その他にも、クラウドサービスを利用することによって、先輩方が残してくれた資料を参照することができるようになっている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

特にこの数年間は、以前よりも少しづつではあるが、コミュニティ同士での交流が増えているように思われる。現在活動中の全コミュニティが協力して行った「関西大学ピア・コミュニティ10周年記念事業ピア・サポート活動報告・交流会」が最たるもので、普段話すことがないサポートとの交流も行うことができた。

■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援母体であり、活動予定があれば、逐一担当者がメールで連絡を取ることになっている。その他にも、定例会議後には議事録を作成し、情報共有を行っている。

■ 昨年度の課題の改善点

昨年度は、以前よりも早い時期から、メンバー募集についてインフォメーションシステム等で広報を行うことができたため、多くのサポートの入会につながった。今後は、そのサポートへの情報共有や、細かい仕事の引き継ぎを行い、具体的な活動について浸透させる必要がある。

◆企画名 KU コアラ アンケート
日 程 2017年4月3日（月）～5月31日（水）
場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室、1階 ラーニング・コモンズ及び
関西大学構内
参加者数 6名（ピア・サポート）
目 的
関西大学図書館の利用状況や、KU コアラに対するニーズを調査し、今後の活動に活かす。

内 容

新入生を含めた学生全般が、どのような目的でどのように図書館を利用しているか、また図書館への要望などをアンケート形式で尋ねる。
図書館内各所や、先生の許可を得た授業でアンケートを配布、回収し、結果をまとめ、必要であれば図書館事務室とも相談して KU コアラの今後の活動の参考とする。

効 果

- ・従前より実施している、図書館司書課程の授業内においての KU コアラの活動紹介と同時の配布を行うことにより、500枚程度の配布を行うことができ、487枚を回収することができた。
- ・今後の企画等について、多くの意見を聞くことができた。
- ・自由記述欄にも、様々な意見を書いていただけた。

改 善 点

- ・本企画では、総合図書館内でもアンケートの配布を行ったが、ほとんど回答がなかったため、図書館内での配布方法について、より検討すべきだった。
- ・複数回答か否かを明確にしていなかったため、分析に支障が発生した。質問文に回答数について、明確に表記すべきだった。
- ・同じ人が重複して回答するケースが発生したため、配布の際に声掛けを行うべきだった。

感 想

本企画は、コミュニティ内で、「来年度の企画について、学生の声をもっと取り入れよう」という声をもとにスタートした企画であり、結果として多くの学生の意見を聞くことができた。アンケートで得られた情報、意見をもとによりよいピア・サポート活動が実施できればと思う。今後も、アンケートを実施し、積極的な情報収集に努めたい。

◆企画名 特集本展示「第1回 就活本」
日 程 2017年5月10日(水)～6月7日(水)
場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室
参加者数 6名(ピア・サポート)

目的

本学の学生に図書館へ足を運んでもらうこと。

内 容

自分自身や周りの学生の意見で、大学に入学してから1番気になることが就職についてであり、本学の学生の多くが就職活動を経験することになる。そこで、就職について考える本学の学生にとって役立つ本が、図書館にあることを広く周知するとともに、彼らに図書館に興味を持ってもらうことを目的とする。また、あわせてアンケートを行った。

効 果

展示期間中に22冊が、累計で44回借りられた。実際に設置したアンケートでは、37名の方に回答していただき、「今回特集しているような本が置いてあることを知らなかつた」と回答した人は、24名となっていた。また、「この特集を見て図書館を利用しようと思った」と回答した人が31名であり、この企画を通して、多くの方に図書館に興味を持つてもらえたと思う。

改 善 点

企画の準備期間にゴールデンウィークを挟んでいたこともあり、全ての提出書類が、締め切りギリギリになってしまった。また、展示期間が就活の時期であったために、特集本のほとんどが借りられており、非常に物寂しい展示となってしまった。

感 想

企画を担当することが今回初めてであったのもあり、要領よく企画を進められなかった。また今回、他のメンバーも各々の企画を抱えており、事業運営をほとんど1人でこなしたため、多方面に迷惑をかけてしまった。今度からは、他のメンバーと協力しながら進めていきたいと思う。

◆企画名 特集本展示「第2回 コアラメンバーセレクション」

日 程 2017年6月19日(月)～7月12日(水)

場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室

参加者数 14名(ピア・サポート4名、研修生10名)

目 的

学生に幅広いジャンルの本に興味を持ってもらい、図書館に足を運んでもらうこと。

内 容

特定のテーマに偏らない幅広い種類の書籍を学生に魅力的に周知するため、KUコアラメンバーが各自で選んだおすすめの本を、メンバーが書いたPOPと共に展示した。また、あわせてアンケートを行った。

効 果

展示期間中に13冊が累計で27回借りられた。また、その貸し出し回数に大きな偏りはなかった。設置したアンケートでは、「図書館に今回展示してあるような本が置いてあることを知っていましたか?」という質問に対し、「知らなかった」と回答した人が46人中27人にのぼったため、本の周知という目的は十分に達成できたといえる。

改 善 点

メールの見落とし等、図書館事務室との意思疎通が上手くいかない時があり、事務室の方に迷惑をかけてしまった。

感 想

以前、自分一人で企画を抱え込んだために、多方面に迷惑をかけてしまったことを反省し、今回は様々なコアラメンバーに作業を割り振りながら企画を進めた。そのおかげか気持ち的にずいぶん楽になれたように思う。この先、他のメンバーに企画の進め方を説明するときは、他のメンバーを積極的に頼っていくべきだと伝えたい。

◆企画名 コアラ通信 2017
日 程 2017年7月24日(月)～9月20日(水)
場 所 関西大学総合図書館及び各キャンパス図書館
参加者数 3名(ピア・サポート1名、研修生2名)
目 的

- ・主に図書館が所蔵する図書の中から、テーマに沿ったものを紹介する。
- ・手元に残る媒体を作成することで、図書館外でも利用者が図書を探す際の参考になることを期待する。

内 容

おすすめの図書を紹介するリーフレットを配布した。形態はA4用紙で巻三折り。本文には、過去の企画で紹介した図書の中から15冊のおすすめの図書を掲載した。

効 果

紙媒体で配布したこと、配布期間終了後も利用者が図書を探す際の手助けになったと考えられる。

改 善 点

- ・内容に関して、出版年度など十分な書誌情報を記載し、紹介文をより充実させるべきである。
- ・図書館事務室と連絡を密にとれておらず、本来予定していた配布開始時期より大幅に遅れることになった。

感 想

- ・リーフレット設置のみの依頼ではあったが、各キャンパス図書館と連携して企画を行えた。今後も、各キャンパス図書館も意識した企画を行いたいと思う。
- ・継続を想定した企画であるため、今回の経験を活かし次につなげたい。将来的に特集本展示のアーカイブとなることを視野に入れておく。

◆企画名	KU コアラ夏期短期合宿
日 程	2017年9月13日(水)～9月14日(木)
場 所	関西大学 高岳館
参加者数	15名(ピア・サポート5名、研修生9名、学生支援室TA1名)
目的	

夏期短期合宿を通して、改めてKUコアラの今まで行ってきた企画や活動理念について振り返り、これから自分たちがどのような活動をしていきたいかを考え、そのために何をすることが必要かの理解を深める。

内 容

1日目	
13:10～13:20	あいさつ
13:20～14:10	アイスブレイク
14:20～17:50	エア企画作り
18:00～19:50	夕食と入浴
20:00～22:00	懇親会
2日目	
8:00～8:50	朝食
9:00～10:15	シニア・サポートによる今後について
10:25～11:50	コアラマスコット作成大会
12:00～12:30	昼食
13:00	解散

効 果

普段会議の中でしか話さないメンバーもいたので、そのメンバーたちと沢山のコミュニケーションをとることができた。そのおかげもあり、秋学期以降の会議は春学期の会議よりも緊張感のない、居心地の良い会議の環境を作り出すことができた。

また、ワークを通して企画作りの流れを参加メンバー全員で共有することができたので、秋学期以降の企画でも余裕をもって行動を起こせた。

改 善 点

- 初めての企画やワークばかりだったため、事前に準備することや進行ペースなど、分からぬことが多い、ワーク中に戸惑うことが多かった。
→今回の合宿を通じておおよその感覚を掴めたので、細かい部分を次の代に引き継げるよう資料にまとめる。
- 合宿担当者間でのリハーサルが不足していた。
→行う企画内容も含め、もう少し前もって決定する。

感 想

今回、初めてのKUコアラのみの合宿だったため、手探りの計画となつた点が一番苦労したことだった。

この合宿の一番の目標であった、「これから自分たちがどのような活動をしていきたいかを考える」というものは、おおよそ達成できたのではないかと考えている。また、やりたいことが決まった後に必要になることとして、「KUコアラで企画する際、一体何から手を付ければ良いのか、どのような手順で作り上げていけば良いのか」の流れについても、TAさんや3回生の先輩から頂いた資料をもとに参加者の中で共有することができたので、これから企画を担当することになる1回生の手助けになったのではないかと思う。

◆企画名 特集本展示「第3回 コーヒー編」
日 程 2017年11月27日(月)～12月11日(月)
場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室
参加者数 14名(ピア・サポート10名、研修生4名)
目的

本学の学生に図書館へ足を運んでもらうこと。そこで、大学生が日ごろから目にし、かつ愛飲する人が多いコーヒーに纏わる本を紹介することで、コーヒーと図書館の両方に興味を持ってもらうことを目的とした。

内 容

これから寒い季節に口にすることが増えると考えられる「コーヒー」の魅力を改めて周知するために、コーヒーに関するあらゆる分野の本を選出した。また、併せてアンケートを行った。

効 果

展示期間中に15冊が累計で17回借りられた。今回、これまでの特集本よりも展示期間が1～2週間短かったために、総貸出冊数が伸びなかつたように思われる。アンケート結果について、KUコアラが以前から特集本を行っていることを知っていたかという問い合わせして、28名の回答者の中で「知っていた」と回答した人は7名、「知らなかつた」と回答した人は21名だった。今までの特集本の時よりも「知らなかつた」と回答された人の割合が極端に高くなつた。これは、コーヒーという題材だったため、普段特集本を気に留めていなかつた図書館利用者が足を止めてくれた可能性や、今までの特集本とは違い、特定の利用者層をターゲットにしたものでは無かつたためだと考えられる。(ちなみに、昨年度の同時期に行われた「食」に関する特集本の時のアンケートでは今回の2倍ほどの回答者があつたが、おそらく今回の特集本よりも展示期間が非常に長かつたためだと思われる。)

改 善 点

・事前準備の粗さ

先輩が作成してくれた引継ぎ資料を見ながらの作業だったこともあり、特集本の担当班内の仕事の分担などで戸惑つた。今まで特集本の作業は、コアラメンバーの人数の少なさも相まって搬出作業以外は一人で行っていたことが多かつたため、メンバーの人数が増え、今までと作業の方法が変わつたことから起きた問題であると考える。

・特集本の飾りの大きさ

作成した飾りが全体的に小さいもののが多かつた。

・代本誌のサイズ

個々の特集本のサイズを確認していなかつたため、展示している特集本から代本誌がはみ出てしまい、不恰好になつてしまつた。

感 想

特集本の企画を最初から自分が主体となって動くことは初めてだったので、リスト作成や展示を行う当日の行動に関して遅れてしまうことが多かつた。ただ、今回失敗したこと多かつたので、次回以降の特集本への課題を整理してより円滑に特集本展示を行えるようにしていきたい。

◆企画名 特集本展示「第4回 本屋大賞」
日 程 2018年12月12日(火)～12月25日(月)
場 所 関西大学総合図書館2階 開架閲覧室
参加者数 14名(ピア・サポート10名、研修生4名)
目 的

知名度のある文学賞の「本屋大賞」の入選作を特集することで、総合図書館が大衆文学の収集を行っていることを周知し、図書館の利用頻度の底上げを図る。

内 容

図書館利用者の勉強以外での本を読む機会を増やすため、本屋大賞の入選作のうち、総合図書館に所蔵している書籍を調べて、主に2010年代以降の書籍を入選時のランクごとに分けて展示した。

広報のためにポスターを作成、コアラエリアを始めとする総合図書館各所に掲示した。また、前回の特集本について掲載したコアラ通信を作成することで、特集本の恒常的な利用を可能とした。

効 果

展示期間中に17冊が合計19回借りられた。今回は他の特集本と比較しておよそ半分程度の期間であったが、7割程度の書籍が借りられた。また、期間中に4冊に予約が入った。

改 善 点

メンバー内の特集本搬入日時の伝達が上手くいかず、参加人数が非常に少なかった。また、他の企画との兼ね合いもあったが、展示期間が2週間程度となってしまったことは、企画の利用が比較的進まなかつたことの大きな要因であると認識している。上記の問題は、KUコアラ全体に言及できることであるが、伝達の円滑化と企画・実行の前倒しによって改善が可能である。

感 想

当初考えていたより、多くの人々が総合図書館で大衆文学を借りていたが、1Q84が3冊とも一度も借りられないなど、想定外の事態がいくつか生じた。しかし今回の企画は、前年度と異なり、企画担当班によって計画・実行され、ポスターやコアラ通信の作成など今までの特集本にない挑戦を行ったにも関わらず、大過なく終了できたという事実が、この企画が成功であったことを証明しているのではないかと思う。

◆企画名 図書館 Q&A ポスターNo.2 (No.1は試行的に実施)
日 程 2018年1月23日(火)
場 所 関西大学総合図書館1階 ラーニング・コモンズ コアラ・エリア
参加者数 16名(ピア・サポート14名、研修生2名)
目 的

図書館を日頃から利用する学生に対し、図書館蔵書検索システム (KOALA) で検索する際に疑問に思いやすい点を取り上げ、Q&A 形式のポスターで答えることにより、一度に多数の利用者に対し情報を発信する。

内 容

検索結果で表示される資料の配置場所について、サテライトキャンパスと学内研究所及び資料室の 2 パターンの資料の取り寄せ方と利用方法をポスターで説明した。

効 果

ポスターとして図書館内に掲示することで、多数の利用者に対し長期間に渡り、情報提供が可能である。

また、総合図書館以外に所蔵されている資料でも利用が可能であるということを周知することができた。

改 善 点

ポスター掲示後に反応を得られる仕組みが不十分である。ポスターアンダーパーに疑問・感想の窓口として KU コアラのメールアドレスを記載したものの、第1弾のポスター掲示時も問い合わせが一切無かったため、有効性が未確認であった。今後はポスターと一緒にアンケートを設置するなどの新たな手段をとる必要がある。

また、メンバー内の情報共有が十分でなかったため、ポスター作成が当初の計画よりも遅れてしまい、掲示がテスト期間になってしまった。

感 想

KU コアラのメンバー内で資料取り寄せを実際に行ったことがある者は少なく、どのようにポスターで説明をすればいいのか苦労したが、その分誰にでも分かりやすい内容にまとめることができた。

また、図書館 Q&A ポスターをきっかけに、コアラ・エリアの活用についてメンバー間の議論がより活発になってほしいと思う。

2.2.6 KU サポーターズ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポーターズは、“仲間同士の助け合い”をキーワードに、学生による学生のための学生相談を実施している。大学生活における些細な悩みや問題について誰かに話を聞いてもらいたい時や、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時など、KU サポーターズが開設している「ほっこり相談室」で、少しだけ手を差し伸べ、サポートすることを目的に活動している。また、ほっこり相談室での活動以外にも、年に数回講演会やワークショップなども開催している。

■ 所属人数

7名（男4名、女3名）

*1年次1名、2年次1名、3年次2名、4年次3名（2018年3月末現在）

■ ミーティングの概要

春学期：不定期

秋学期：1週間に1回（その他、企画の進捗状況によって適宜実施）

■ ピア・コミュニティ内の連携

KU サポーターズ用に作成されたメーリングリスト（ML）や本学の SNS、Google ドライブのクラウドサービスにおいて、連絡や情報の共有を行っている。春学期は変動制のミーティングを行っていたが、毎回の開催が困難になってきたため、秋学期は参加可能者の多い時間に固定制のミーティングを実施した。また、参加できないメンバーについては、事前に議題を提示して意見を募る対応を図った。その他、メンバー間で連絡を取り合いながら、互いの役割の枠を超えて協力ができる地盤を作ることができた。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者を中心に、他のピア・コミュニティとの活動情報の共有を行った。こうすることで代表間での連携傾向を高めることはできた。KU サポーターズに所属する代表者以外のメンバーには、他のピア・コミュニティとの連携・交流を深められる余地があるため、今後は代表者以外のメンバーも他のピア・コミュニティと関わる行動をしていくことが課題である。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体であり、活動場所と物理的距離が近いため、相談を行いやすい環境にある。今年度は小規模な運営であったが、親身に相談に乗ってくださり、昨年度に引き続き、多くの支援をいただけた。また、大学学生相談室の相談員の先生にも、困ったことがあればアドバイスをいただくことができた。

■ 昨年度の課題の改善点

昨年度の課題であった KU サポーターズの認知度については、インフォメーションシステムなどの告知の効果もあって、ガイダンス希望者が一定数あった。しかし、活動内容と適う希望者が少なかったため、今後は活動内容も適宜見直しながら、広報の充実を図る必要がある。

◆企画名	<u>ほっこり相談室</u>
日 程	<u>2017年4月～2018年3月（土日、祝日、休暇中は除く）</u>
	<u>開室時間は週2日の昼夜（曜日は毎月変動）</u>
場 所	<u>総合学生会館凜風館1階 サポーターズルーム</u>
参加者数	<u>8名（ピア・サポータ 6名、研修生 2名）</u>
目 的	

大学という環境に上手になじむことができず、大学を自分の居場所とすることに困難を抱えている学生が抱えている「大学内に安心できる居場所がない」「誰かに話を聴いてほしい」という様なニーズに応えるため、より身近な立場で話を聞くことが目的であった。

内 容

本事業では、同じ関西大学の学生が相談員を務める「ほっこり相談室」を開室し、全4回のKUサポーターズ自主トレーニングを受けたメンバーが相談員として対応した。また、開室には2人以上の相談員の確保を必須とし、1回の相談時間は最大60分とした。

効 果

さまざまな相談内容を想定した自主トレーニングの効果もあり、利用者のニーズに応えることができたと思われる。「安心できる居場所の提供」や「話を聴く」という目的の事業であったが、利用者にとっては、ほっこり相談室で過ごす時間がより良い大学生活への一歩となったのではないか。

改 善 点

本年度の利用はのべ5件と少なかった。原因としては、近年の学生のニーズが少しずつ変化していったことが挙げられるだろう。コミュニティ内での議論を踏まえ、当コミュニティは活動主体を変えて、今後運営していく方針である。

感 想

本事業は、KUサポーターズの軸となる活動として7年に渡り継続してきた。また、KUサポーターズの内部事情や時代の変化に伴い、メンバーや利用者にとってより良い事業とするためにマイナーチェンジを繰り返してきたが、「ほっこり相談室」事業は一時休止することにした。今後、「ほっこり相談室」の需要を見受けられるようになつたり、諸事情で再開する方向になつたりした際のために、バックアップ体制を整える所存である。

◆企画名 冬のゲーム祭り！みんなで遊ぼう！
日 程 2017年12月20日（水）
場 所 第2学舎2号館 C501教室
参加者数 7名（ピア・サポート2名、学生支援室TA1名、職員4名）
目 的

新年度も明けて半年以上が経ち、学校生活に慣れてきた学生が多い。だが、年度初めに周囲の人と人間関係が思うように作れなかつた学生や、学校生活に慣れてきて、少しマネリ感を抱いている学生がいると思われる。そこで、以上のような学生を主な対象として、学生間の交流を促進するようなゲームを行い、新たな関係作りのきっかけや、「笑顔で過ごせる場所」「安心できる場所」の提供を目的とする。

内 容

【自己紹介、アイスブレイク（ワードウルフ）】

参加者の多数にある同じ言葉が書かれたカード、一部の人に違う言葉のカードを配り（ウルフ側とする）、その言葉について会話をすることで、ウルフ側の参加者を探すゲームを行った。

【マシュマロチャレンジ】

乾燥パスタをセロハンテープで組み合わせたり、ハサミで切ったりし、できるだけ高いタワーを作る。そのタワーの頂点にマシュマロを刺して倒れなければ完成とし、その高さを競うゲームを行った。

効 果

共同作業を通して、メンバー同士で目標に向かって協力する楽しさを見出すことができた。

改 善 点

- ・企画のプランニングに問題があり、特に広報の準備が遅かった。次回からは、企画の1ヵ月前には準備を始めるようにしたい。
- ・実施日が年末で、参加者が集まらなかつた。実施日について、よく検討しなければならない。

感 想

企画実施に係るスキルなどの不足により、円滑に準備を進めることができなかつた。しかし、職員の方やTAさんにお力添えをいただき、何とか企画を終えることができた。今後は、より広報を積極的に行うとともに、参加者に満足してもらえるよう力を尽くしたい。

2.2.7 ぴあかんず

■ ピア・コミュニティの趣旨

ぴあかんずは、ピア・コミュニティの活動を広報するニュースレター「ぴあかんず」の制作を行うピア・コミュニティであり、各ピア・コミュニティの活動取材のほか、各号において誌面企画を実施することで、関西大学におけるピア・コミュニティの普及とピア・サポート活動への参加のきっかけづくりを目指している。

また、誌面企画については、普段の学生生活に数多く存在している学生同士が支え合い、助け合い、成長しているシーンに着目し、関西大学に関係する人物や出来事を取り上げている。

■ 所属人数

0名（2018年3月末現在）

■ ぴあかんずの現状

2014年度から在籍するサポートが不在となり、活動休止状態に陥っている。支援体制は維持しているため、活動を希望する学生がいれば、できる限りの支援を行い、「ぴあかんず」を発行したい。

2017年度は、ピア・コミュニティ10周年記念事業として「ピア・サポート活動報告・交流会」を実施した。これを記念し、ぴあかんずは活動休止中であるが、ピア・コミュニティ運営本部やKUコアラを中心としたピア・サポート有志により、上記イベントの報告を中心とした「ぴあかんず復刊号」を発行した。

■ 課題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。ぴあかんずのサポートとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TAが積極的に支援を行う必要があると思われる。

ピア・コミュニティ十周年記念！
～この10年を超える未来を～

「ピア・サポート活動報告・交流会」を開催!!

2017年10月22日（日）に「ピア・サポート活動報告・交流会」が開催されました。他大学の学生や教職員の方の参加により充実した議論やエールが送られ、参加者それぞれの成長につなげることができました。



オープニング

芝井敬司学長、岡本哲和学生センター所長にお越しいただき、ご挨拶をいただきました。

第一部

関西大学ピア・コミュニティの10年間の活動を年表や写真で振り返り、さらに各コミュニティで現在はどのような活動を行っているのか、またこれから目標など、スライドで紹介され、自分のコミュニティだけでなく、他のコミュニティを知ることができる機会となりました。

関西大学ピア・コミュニティは、ピア・サポートを行うグループの中では、西日本ではとても長い歴史を持っていることにも驚きました。



ピア・サポート大募集！

あなたもピア・サポートとなり、ピア・コミュニティでの活動に参加してみませんか？興味がある！という方はボランティア活動支援グループまでお問い合わせください！

第二部 講演会

山田嘉徳氏（大阪産業大学講師）による講演
「今、改めて考える大学ピア・サポート」

関西大学でTA、RAとしてピア・コミュニティのサポートに関わった事の経験談と、サウスカロライナ大学でのスクーデント・サクセス・センターの組織及び活動の調査視察に基づいてお話を聞かせていただきました。その中で、「ピア・サポートには4段階のプロセスを経て、学生個人が成長することと、上位者の寄り添い方や存在の大切さ、その効果の見える化は困難であるが、できるだけ評価する方法を振り返りなどで行うことが必要だ」という話は、これから活動にとても重要だと感じました。

パネルディスカッション

山田嘉徳氏
(大阪産業大学講師)

松田優一氏
(ピア・コミュニティOB、
日本ピア・サポート学会理事)

松村吉信氏
(学生センター副所長)

山咲博昭氏
(ピア・コミュニティOB、
日本ピア・サポート学会会員)

ピア・サポート活動は、帰属意識や協同をもとにした活動で、目的を持って前進していくことが大切であるという方向で議論が進められました。過去・現在・未来と、それぞれの所属コミュニティによって若干異なる点の発見があり、今後の活動指針となりました。OBの方の話の中では、依然としてコアの部分の考えは変わっていないことに気付き、また、ピア・サポートについて見識ある方にご講評をいただくことで、よりよいピア・サポートについて考える機会となりました。

将来に向けて、活動する中で大学が実施している講座などでスキルを高め、さらに上位の目的に向かい創意工夫を行うこと、ピア・コミュニティだけではなく、色々なリソースを活用することの大切さに改めて気付くことができました。

第三部 ワークショップ

～ピア・サポート活動を考えよう～



「この10年を、超える未来を」をテーマとして、これまでの活動を改めて振り返り、様々な立場の方を交えて、今後の活動を考える機会としました。1グループ6人程度のグループに分かれ、第1部、第2部の内容を参考に、自分の所属するピア・サポート団体や、これまでの活動を改めて見つめ直し、課題を発見し、その改善策をグループごとにまとめました。各グループ活発な意見交流が行われ、SNSを利用した広報の展開や、学生同士の交流促進、チームビルディングの強化など、様々な意見が出ました。

2.2.8 関西大学ITピア・コミュニティ“i.com”

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学ITピア・コミュニティ“i.com”（以下、「i.com」とする）は、“Do IT!（ITしようぜ！）”をキャッチコピーに、ITスキル（主にパソコンを利用し、映像・Web・ポスターなどを作成する技術）を行使し、関西大学の学生に技術支援する活動を行う。具体的には、「Microsoft Office」や画像編集ソフト「GIMP」の使い方を教える講習会の開催や、ワンポイントアドバイスをまとめた小冊子を作成し、学内で配付する活動などを実施してきた。

■ 所属人数

0名（2018年3月末現在）

■ i.comの現状

2015年度からサポートが不在となり、活動休止状態に陥った。

支援体制は維持しているため、活動を希望する学生がいれば、企画を行うためにできる限りの支援を行いたい。

■ 課題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。i.comのサポートとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TAが積極的に支援を行う必要がある。

2.3 ピア・サポートからのメッセージ

自分の変化とピア・コミュニティに対する思い

ピア・コミュニティ運営本部 中川夢生

私がピア・コミュニティを知ったきっかけは、運営本部ではなく、KU コアラだった。大学のインフォメーションシステムに掲載されていた KU コアラのメンバー募集に興味を持ち、ガイダンスを受けたのである。その中で、運営本部の活動に興味を持ち、加入することとなった。

現在、代表として活動をしているが、加入した当初はここまで活動に熱中するとは思わなかった。当時の私は、大学生になって突然ボランティア活動を始めるなんて、典型的な意識高い系大学生じゃないかと考えていたからである。そのように心の片隅で「自分を馬鹿にする自分」が居つつ、これまで活動をしていた。そういう捻くれた考えを持つせいか、会議や企画の場でも、問題点ばかりが目につくし、先輩・同期・後輩を問わず自分の意見を述べていた。先輩からすれば面倒な後輩だったに違いない。しかし活動をする中で、ピア・コミュニティは、学生主体とはいえ、職員さんをはじめとした大人の方に意見をいただく機会など、他の団体では経験できないことができるといった長所や、企画を通して人前で話す力などの以前よりも成長した自分に気づいたこと、また、代表として全体を見渡す力が不足しているなどの自分の不甲斐なさを感じ、「自分を馬鹿にする自分」は消えていった。

話は変わるが、ピア・コミュニティは今年で創設 10 周年を迎えた。これは素晴らしいことだと感じるし、長い歴史を持つピア・コミュニティで活動できることは誇らしく思う。私はこの 10 周年という記念すべき年に、ピア・コミュニティは変革の時期を迎えるのではないかと考える。現在、「ピア・コミュニティ」としての活動は皆無に近い。頻繁に行われていたコミュニティ同士の共催企画もない。どのコミュニティも企画を行えば必ず他コミュニティからの参加者の少なさが課題に挙がる。こんな状況でいいのか？ 果たして私たちはピア・コミュニティなのか？ 疑問を挙げるとキリがない。10 年という歴史の中で、それぞれのコミュニティはバラバラになってしまったのではないかと感じる。

関西大学が続していく限り、ピア・コミュニティもまた続していく。次の 10 年につなげるために、私たちは何ができるのだろう。私が代表である以上は、まずは全てのコミュニティが円滑に連携できるような体制を築けるように尽力したいと思う。全てのコミュニティがお互いに歩み寄るべきではないだろうか。そしてあわよくば、現在活動を停止している 3 つのコミュニティの復活も果たしたい。最終的に全コミュニティ共催で 1 年間の活動を振り返ったり、今後の活動予定を共有し合えるような大きな企画を行えればと考えている。10 年という長い歴史を終わらせないためにも、私を含め全てのピア・コミュニティに関わる人たちが、もう一度ピア・コミュニティを見つめなおす必要があるのではないかと考える。

(法学部 2 年次)

人から人へつながる関係

KU ブリッジ 田中美久

留学生と関わる、外国人の友達を作る、これが、私が大学に入ったらやると決めていたことでした。KU ブリッジの活動は、大学と協力しながら行うものなので安心できますし、留学生と関わるだけではなく、書類の書き方や、ワークの作り方などを学べると思い、入ることを決めました。活動中はたくさんの留学生と知り合うことができ、仲良くなると個人的に遊びに行くこともあります。また、KU ブリッジは留学生だけを対象とした団体ではなく、留学生と日本人学生のブリッジ、「架け橋」となるべく活動を行う団体です。

活動をしていて、一番やりがいを感じる瞬間は、イベントの参加者たちが笑顔で帰ってくれる時です。笑顔で帰ってくれるということは、自分たちが 3 カ月も前から進めてきた企画が成功したという、紛れもない唯一の証拠だと思っています。イベントが終わり、参加者の笑顔が見られる時、この上ない達成感を感じることができます。

そして、この活動を通して得たものは、やはりリーダーシップだと思います。企画のための準備、実施当日、すべてにおいて、リーダーはその場を取り仕切る能力が必要です。リーダーになってみて気づいたことがあります。リーダーはメンバーになってはいけないということです。これまで私は、リーダーは、一番仕事を抱えている人だと思っていたが、本当のリーダーというのは、一番仕事を抱えない人であると気づきました。リーダーにおいて最も必要なのは、強いビジョンを持ち、メンバーが今どの作業をし、どこまでの仕事が進み、これからどの作業をしなければならないのか、企画全体が今どこまで進んでいいればいいのか、今後起こりそうな問題は何か、と常に企画の進捗を考えることです。その上で、チームのメンバーをどう動かすのか考える、指揮者のような立場であると思いました。

企画メンバーと頻繁に連絡を取り合い、自分が大変な時はメンバーに仕事を頼み、逆にメンバーが困っている時にはサポートをする。そして、イベントの参加者と交流し、楽しんでもらう。参加者だけでなく、メンバーともつながり、KU ブリッジは人と関わらないということがない団体だと思っています。

(商学部 2 年次)

KUSP での活動を振り返って

KU サポートプランナー 長内香澄

私が KUSP に入るきっかけとなったのは、友達の紹介でした。それまで KUSP のこと、ピア・サポート活動について何も知りませんでしたが、友達と先輩方から KUSP について話を伺っているうちに興味がわいてきて、KUSP に入ることを決めました。

活動を始めて間もないころは、ミーティングに参加してもあまり自分の意見を言えず、ただ座って先輩方の意見を聞いているだけでした。しかし、だんだん話の内容も理解できるようになり、企画の運営側としての意見も言えるようになりました。

企画の構想を練るのは簡単なことではありません。企画の実施時期、予算、参加者の方々にとっての利用価値など、運営側として考慮しなければならないことがたくさんあります。また、例えば講演会を企画したとき、講演をしていただくのは社会人の方がほとんどです。講演を依頼するときのメールや電話でのマナーが私にとってはとても難しいです。けれど、これが非常に勉強になります。きっと私が社会に出たら役に立つのだろうと思っています。このような経験ができるのも KUSP のおかげだと感じています。

企画の実施にあたり、私が提案したことが形になっていき、実際に参加者の方々の笑顔が見られた時、アンケートで満足度評価が高い時は今まで頑張ってきてよかったと感じることができます。

また、企画の実施は KUSP メンバーが協力し合って行います。仲間と一つのものを作り上げていくことはとても楽しいです。一人では思いつかなかったことでも同期、先輩、後輩の意見を聞いてそれを自分の企画に採用したりしながら、こういう考え方もあるのかと勉強になります。

ピア・サポート活動で印象に残っていることは、私が 1 年生の時に初めて企画した「輝く自分に！～ファッショ～ンから自分磨き始めませんか？～」という企画を実施したことです。私が KUSP に入ってすぐのころ、先輩に最近困っていることはないか聞かれ、「高校まで制服だったので、大学にどんな服を着ていいか分からぬ」というやりとりがきっかけで誕生した企画です。はじめての企画で右も左も分からず、先輩に頼りっぱなしでしたが、参加者の方々の満足だったという感想を聞いて非常にうれしかったのを覚えています。

この、初心の気持ちを忘れずにこれからもいろいろな企画を実施して、たくさんの関大生の笑顔が見られるように頑張りたいと思います。

(システム理工学部 3 年次)

KU コアラと私

KU コアラ 山口和晃

今でこそ私は、KU コアラの室長という役職に就き、後輩や同期、そして他のコミュニティのサポートと共に様々な活動を最前線で行っているが、KU コアラに入会した直後は、まさかここまで私自身が主体的に行動を起こし、たくさんの人たちと何かを成し遂げるといった体験を味わえるとは思いもよらなかつただろう。

そもそも私がこのコミュニティを知ったのは、1回生の時に受講していた図書館司書の資格を取るための授業である。当時3回生の先輩であった方々が KU コアラの広報を行うため、授業にやってきたのだ。高校時代、私は図書委員会で活動していたため、大学でもその延長で図書館と関わることができる活動はないものかと思案していた。そして、最高のタイミングで KU コアラのことを知ることになり、瞬く間にこのコミュニティでの活動にのめり込んでいった。所属している先輩方には、個性的な方が多かったこともあり、企画実施のアシストをする傍ら、たくさんの刺激をもらい、物事を考える上での新たな視点を得ることができた。

私が前室長に唐突に、次の KU コアラの室長を引き継いでほしいと言われた時から、何としてでも実現しようと思っていたことが一つだけある。それは「私の一つ下の後輩たちが、今までの KU コアラの中で最も活発に活動できる代にする」というものである。というのも、私を室長に任命した前室長たちは置き土産とでも言うかのように、たくさんの新メンバーを入会させていったのだ。そのおかげで、以前よりも企画を行う時は、役割分担がしやすくなつた。企画の時にしなくてはならない仕事は、前年度と同じように教えることができれば不安は無いのだが、どうしても前年度と同じ状況では今後の活動が非効率的になる要素が KU コアラには残っていた。それはコミュニティメンバー同士のつながりの弱さである。私が入会した当初は、メンバー同士の会話は企画のことを除くとほとんど無かつた。会議の時も、時間が短かつたこともあるが、報告事項を各々が発言して解散することが多かつたので、会議が詰まることは無いのだが、何とも味気ない印象があつた。もしも前年度と同じような関わり方を後輩にしていけば、今までと同じような KU コアラは在り続けるだろうが、活発な活動を、サポートする対象である関西大学の学生に提供できなくなるかもしれない。だから以前よりも、メンバー同士の交流の機会を増やし、会議でも発言しやすくなるための工夫を施した。

今、KU コアラは一つの分岐点に立たされている。間違いなく今の KU コアラは、以前とは異なつた印象を周りの人々に与えるだろう。私の次の室長が、一体どのような KU コアラを作り上げるのかは分からぬが、どうかせめて悔いの残らない選択を心掛けてほしいと願つてゐる。

ピア・コミュニティは私を成長させてくれたかけがえのない場である。そう感じるのは、私自身が真剣に活動に取り組んできたからということもあるが、こんな未熟な私をいつも傍で支え続けてくれた先輩や同期、そして後輩たちのおかげでもある。これから活躍していくであろう後輩たちの行きつく先を、これからもできるだけ近くで見ていけたらと思っている。

(経済学部 2年次)

PEERとの出会い

KU サポーターズ 結野愛海

3年前、私の大学生活は変化の時を迎えるました。1年生の春、体調を崩しがちだった私は入学式にも初めの授業にも参加できず、課外活動なんて当然考える余裕もありませんでした。ただ授業のためだけに学校に通う日々を送り、参加できなかつた入学式から1年が過ぎた2年生の春、偶然KU サポーターズが運営している“ほっこり相談室”的存在を知りました。カウンセリングに興味があり心理学を専攻していた私は、すぐにKU サポーターズに加わることを決意しました。

加入当初、私は“誰かのためにになりたい”と言う気持ちでいっぱい、やる気に満ち溢っていました。しかし、私のピア・サポート活動は順風満帆とはかけ離れたものでした。KU サポーターズに加入した当時から、私たちは幾度となく壁にぶつかってきました。というより、目の前の壁がなくなったことはないかもしれません。先輩方の急な脱退から始まり、メンバー不足が続き、会議は参加率が低く、企画も予定通りできない、などなど…。今だから言えることですが、多くの問題を抱えたKU サポーターズの代表に就いた1年と少しの間で、何度も涙を流したか分かりません。私の“誰かのために”と言う気持ちが、私自身を苦しめることがありました。そんな時、いつも支えてくれたのは、同じKU サポーターズやピア・コミュニティの先輩や同期、支援部署の職員・TAの方々でした。皆さん、本当にありがとうございました。

さて、多くの経験は人を成長させますが、私の波乱万丈なピア・サポート活動もまた、自身の成長を伴う活動でした。私にとって一番の成長は、たくさんのPEER（仲間）との出会いに気づけたことだと思います。ピア・サポート活動は「仲間同士の助け合い」を意味し、その対象は「仲間」ですが、「仲間」には私たちピア・サポートも含まれます。そのことに気づいてからは、私たち自身もサポートし合いながら、ピア・サポート活動を続けることができました。異なる立場や意見を持つ人と互いを理解し、受け入れることで信頼関係を築き、同じ方向に向かって進むことは容易ではありませんが、ピア・サポート活動では当たり前に求められることです。そして振り返ってみると、それは成長の種であったと思います。“誰かのために”ではなく、“私たちのために”。こう思うようになったとき、ピア・サポート活動の本質が見えたような気がしました。この数年の間（もしかしたらもっと長い間）、KU サポーターズは活動の中でたくさんの壁にぶつかってきましたが、私たちは間違いなく、PEER<仲間>でした。そしてピア・サポート活動に携わるすべての方も私にとって大切なPEERであり続けることでしょう。

3年前に変わった私の大学生活が、私自身を教えてくれました。良きPEERと出会い、共に成長した3年間を心から誇りに思っています。この文章を読むあなたが、良きPEERとの出会いに恵まれること、そしてその出会いに気づけることを願います。

（文学部 4年次）

2.4 支援部署職員からのメッセージ

KU コアラと図書館

図書館事務室 古林雅代

KU コアラの学生たちはボランティア精神旺盛で、いつも「読書の魅力を発信したい！一人でも多くの関大生に図書館を利用してもらいたい！」という一念で活動しています。特に新規行事の企画の際などは、とにかく「やりたいこと」を前面に押し出した意欲的な企画案を出してきてくれます。図書館事務室は支援部署として、彼らのそうした熱い思いを受けとめ、実現に近づけるための支援に努めています。近年、本学図書館では、サービス業務を中心に外部委託が進み、大学職員が利用者と接する機会はめっきり減ってしまいました。そのため、私は今年度 KU コアラの活動のサポートを通じて、利用者の存在を意識するよい機会を得たと感じています。

2017 年度はメンバー募集に力を入れた結果、例年になく多い 12 名が加入してくれました。メンバーが増えたことに伴い、役割分担の明確化など組織体系が整備されるとともに、日常的な活動も盛んになってきました。これまで週 1 回だった会議を週 2 回に増やしたり、夏季合宿を実施するなど、ピア・コミュニティとしての充実が図れた 1 年であったように思います。

今年度の主な取り組みとしては、メンバーが独自の視点で選んだ本を図書館内で展示する「特集本展示」や、おすすめの本を紹介する「コアラ通信」の発行などが挙げられます。彼らが企画で取り上げた書籍は、ふだんに比べて貸出回数が増えるなど、読書推進・図書館利用の促進という面で、着実に成果をあげています。同じ立場の学生からのオススメということで、図書館を利用する学生たちも素直に受けとめてくれていたように感じています。こうしたあたりにピア活動の意義や、ピア・コミュニティに期待される役割というものがあるのだと捉えています。各種行事の実施に関してはまだまだ課題もありますが、改善に向けて引き続き共に取り組んでいきたいと思います。

「全国的な調査で、1 日の読書時間がゼロの学生が過半数を占めている」などと、大学生の読書離れの記事が新聞をにぎわす昨今、関大生と大学図書館をつなぐ KU コアラの活動は、たいへん有意義なものといえます。2017 年の入学式において、芝井敬司学長は「本との出会いは、人との出会いに通じると言っても過言ではありません。これから皆さん的人生を生きていくために、ぜひ本を読んでください。」と激励の言葉を贈られました。そうしたなか、読書推進という観点から KU コアラの活動が注目され、広報課が発行する冊子「関西大学通信“KANDAI STYLE”」にも取り上げられました。これは、彼らのこれまでの地道な取り組みが評価されたことの表れであり、これから活動への大きな励みになるものと、支援部署としてもたいへんうれしく思っています。

次年度も、新メンバーの加入に期待しつつ、図書館を舞台に繰り広げられる彼らの活動をしっかりと支援していきたいと思っています。

ピア・コミュニティと築く「学生支援」

学生生活支援グループ 辻さやか

大学職員として十数年以上が経ち、これまで主に教員をサポートする立場にいた私が初めて、学生相談や正課外活動支援といった学生との「対話」を通じて学生をサポートする業務を担当することになりました。学生支援の最前線ともいえる部署において、個人あるいは団体の学生との関わり方、距離感、話を聞く姿勢等、日々悩みながら、手探りの状態で学生に向こう中、ピア・コミュニティのKUSPとKU サポーターズに所属する学生へのサポートもまた、自分自身にとって、ピア・サポート活動という新たな学生支援のあり方を一から勉強することで、職員として必要な知識やスキルだけでなく、様々な気付きを与えてもらえるものとなっています。

ピア・サポート活動の取り組みも10周年を迎え、ピア・サポータとして認定を受け活動する学生は、これまで様々な形で学生同士助け合える活動を自ら考え、実践することで大きく成長してきたことと思います。しかし一方で、KUSP（学生のアイデア企画を実現）とKU サポーターズ（学生による学生のための相談“ほっこり相談室”を実施）の各コミュニティにおいて、今後さらに発展するべく課題も見えてきました。

特に、KU サポーターズでは、10年間実施してきたほっこり相談室の利用者数の減少や、サポートの不足により開室時間が限られてしまうことが大きな課題となっていました。このまま衰退するのか、少しづつでも前に進むのか、忍耐の時期もありました。そして現在、KU サポーターズは、ほっこり相談室での学生相談を卒業して、他のコミュニティと同じくピアエリアというオープンスペースでの活動にチャレンジしてみようと、大きな一步を踏み出すこととなりました。これまで先輩が築いてきた歴史を変えることになるため、職員やTAをはじめメンバー全員で時間をかけて話し合いの場を持ち、検討を重ねた結果、新たなピア・サポート活動をしたいというサポータの強い思いから実現することができました。

今後は学生の悩みや相談に寄り添いながら、相互理解の一助となるようなワークショップや講演会の開催を企画、実行することにチャレンジしたいというKU サポーターズに対して、支援部署として、学生相談という日常業務で得た知識やスキルを活かしたアドバイスやサポートをできればと考えています。

最後に、学生の行動力は私たちが想像する以上のパワーを兼ね備えていると感じています。学生の皆さんには、心に潜めている思い、感じていること、疑問に思うこと等、何でもよいので、堅苦しく考えずに、もっと職員へぶつけてほしいと思います。そして、ピア・サポート活動を通じて得られた経験、人との出会いが、今後大学を卒業し、社会で生きていくうえでの財産となることを願っています。

3 關西大學ピア・コミュニティ創設 10 周年記念事業 「ピア・サポート活動報告・交流会」

関西大学 ピア・コミュニティ創設10周年記念事業 「ピア・サポート活動報告・交流会」 ～この10年を、超える未来を～

[第1部]

13:00～

オープニング
来賓挨拶

関西大学ピア・コミュニティの活動ご紹介

[第2部]

13:40～

講演会・パネルディスカッション 「今、改めて考える大学ピア・サポート」

講演者：山田嘉徳先生（パネルにも参加）

パネラー：松田優一

（ピア・コミュニティOB、日本ピア・サポート学会理事）

山咲博昭

（ピア・コミュニティOB、日本ピア・サポート学会会員）

松村吉信学生センター副所長（化学生命工学部教授）

現役サポート数名

[第3部]

14:50～

ワークショップ「ピア・サポート活動を考えよう」

エンディング（～17:00）

日時：2017年10月22日（日）

13時～17時（予定）

場所：関西大学梅田キャンパス8階

KANDAI Me RISEホール

参加対象者：ピア・サポート団体所属の大学生

及び関係教職員の方々

【お問い合わせ】

関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

電話番号：06-6368-1129

URL：<http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp/>

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-5



関西大学

当日の風景



3.1 寄稿

ピア・コミュニティ 10 周年「ピア・サポート活動報告・交流会」を振り返って

学生センター副所長 松村吉信

本活動報告・交流会は関西大学におけるピア・サポート活動を推進する目的で設立されたピア・コミュニティの発足 10 周年を記念して 2017 年 10 月 22 日に関西大学梅田キャンパスで開催されました。当日は季節外れの大型台風にも見舞われ、予定を早めるなどプログラム変更させていただき、参加者には少し物足りなさも感じられたことだと思いますが、大きなトラブルもなく、無事に終了することができました。この場をお借りし、ご参加いただいたすべての皆様、学外ピア・サポート団体関係者、ピア・コミュニティ OB・OG、現ピア・コミュニティ学生、関西大学教職員に感謝いたします。

本会の目的は、10 年間の活動の振り返りと今後へのヒントをいただく場と考えておりました。特に、ピア・コミュニティ設立にご尽力いただいた芝井敬司関西大学学長にもお越しいただき、設立の経緯や思いなどを語っていただくとともに、これから必要とされる学生像・社会人像についてもご説明いただき、ピア・コミュニティメンバーに強い励ましのお言葉をいただくことができました。また、本学卒業生でピア・コミュニティの学生支援室 TA としてもご協力いただいた大阪産業大学全学教育機構講師山田嘉徳先生に「今、改めて考える大学ピア・サポート」と題してご講演をいただき、アメリカでの訪問調査の例を示しながら、ピア・サポートの意義を再確認させていただくとともに、ピア・サポートが陥りやすい問題点や心得を教育心理学の専門家から言及いただきました。さらに、ピア・コミュニティ OB・OG を代表して松田優一氏と山咲博昭氏、学生センターを代表して小生を含めて、ピア・サポートおよびピア・コミュニティへの思いを語りました。特に松田、山咲両氏は現在も日本ピア・サポート学会役員及び学会員としてそれぞれ活動され、他大学の現状を踏まえてご紹介いただき、その中で関西大学の活動が継続的で積極的である点にも言及いただけ、一方で活動の慢性化やマンネリ化、強い身内志向などの一般的なサークル活動に見られる問題点が見え隠れしている点にも触れられました。これらはピア・コミュニティの活性化のヒントとなることでしょう。また、この問題点はその後にご挨拶いただいたピア・コミュニティ設立時の学生サービス事務局長でピア・コミュニティの「生みの親」ともいえる五藤勝三（株）関大パンセ社長や高増明関西大学副学長からもご指摘いただき、次の 10 年に向けての大きなテーマとなるでしょう。最後に、全員参加のアイスブレイクとワークショップが催され、参加者間の交流も活発に行えました。

現在のピア・コミュニティの学生サポータは研修生を含めて約 100 名が活動しています。ここ数年、安定した活動が行えてはいるものの、学生数 3 万人強の大学の中ではまだまだその活動が認知されているとは言いがたい状態です。今後、より多くの学生に「伝わる」・「必要とされる」サポート活動を、失敗を恐れずに取り組む姿勢が重要になることでしょう。「ピア・サポート活動の充実と広がり」、「個々の活動からチームとしての活動」など学生サポータの「積極性」を教職員はサポートしていくたいと考えています。

（化学生命工学部 教授）

3.2 活動記録

関西大学 ピア・コミュニティ創設 10周年記念事業

「ピア・サポート活動報告・交流会」

～この10年を、超える未来を～

1 実施詳細

日 時：2017年10月22日（日）13時～16時

場 所：関西大学梅田キャンパス8階 KANDAI Me RISEホール

参加対象者：ピア・サポート団体所属の大学生及びに関係教職員

2 主なプログラム

開始前	12:30～13:00	受付
第1部	13:00～13:10	オープニング ご挨拶（岡本哲和 学生センター所長） 来賓挨拶（芝井敬司 学長） 事業概要説明
	13:10～13:20	振り返りムービー
	13:20～13:30	コミュニティ紹介
第2部	13:30～14:30	講演会・パネルディスカッション 講演者：山田嘉徳氏（大阪産業大学 講師） 「今、改めて考える大学ピア・サポート」 パネラー： 山田嘉徳氏（同上） 松田優一氏（ピア・コミュニティOB、日本ピア・サポート学会理事） 山咲博昭氏（ピア・コミュニティOB、日本ピア・サポート学会会員） 松村吉信氏（学生センター副所長、化学生命工学部教授）
第3部	14:30～14:50	アイスブレイク
	14:50～15:40	ワークショップ「ピア・サポート活動を考えよう」 ブレイクタイム挨拶（五藤勝三 株関大パンセ社長）
	15:40～15:50	各班からの発表
	15:50～16:00	エンディング 閉会挨拶（高増明 副学長）

※当日の天候を考慮し、17時までの予定を変更し、16時までの実施となった。

3 参加人数

所属・区分など		内訳(人)
関西大学	ピア・コミュニティ	運営本部
		KU ブリッジ
		KU サポートプランナー
		KU コアラ
		KU サポーターズ
	ボランティアセンター学生スタッフ	
	学生支援室 TA	
	教職員	
一般・卒業生		15
他大学	学生	14
	教職員	3
合計		109

4 各企画の内容

【第1部】

《ご挨拶》岡本哲和 学生センター所長（政策創造学部教授）

本日は、台風が接近する中で近畿地方、また遠方からもお集まりいただきありがとうございます。関西大学ピア・コミュニティは、社会人基礎力の向上や、学生のニーズに対応した学生支援の提供を目的とした文部科学省の学生支援 GP に採択されたことがきっかけではじまりました。当初は、日本ピア・サポート学会の関係者にご協力いただき、その活動をスタートしました。GP 対象期間経過後は、その成果が認められ、大学からの継続支援経費で運営されてきました。そして、めでたく 10 周年を迎えることができました。

関西大学が 2016 年に卒業する学生に対して行ったアンケート調査において、「ピア・サポート」についての質問項目がありました。「あなたは在学中に、学生が学生を支援する活動（LA やピア・サポートなど）をどのくらい行いましたか」という質問に対し、「日常的」と回答した人が 9.6%、「たまに」が 13.3%、「まったくしなかった」が 65% という結果でした。日常的にピア・サポートを行う人の割合を増やしていくことが、これから の課題と言えます。

シニア・サポート、ピア・サポート及び研修生の活動は、狭義の意味でのピア・サポートと考えられます。実際には、ピア・サポートの範囲はそれに限定されません。日本ピア・サポート学会のホームページでは、「仲間や同輩が相互に支え合い課題解決する活動」と、ピア・サポートを位置づけています。そうであるならば、講義の教室やゼミ活動、課外活動などでもピア・サポートは行われていることになります。そう考えれば、関西大学全体がピア・コミュニティを形成することになり、その中核として活躍するのが関西大学ピア・コミュニティとなります。本日の活動報告・交流会をはじめとして、今後のピア・サポート活動をさ

らに活力あるものにしていくために皆様にもご協力いただくことをお願いして、私の開会の挨拶とさせていただきます。

《来賓ご挨拶》芝井敬司学長（第42代学長、文学部教授）

先ほど岡本所長からお話をあったように、2007年にピア・コミュニティがスタートし、もう10年になります。文部科学省学生支援GPに本学が「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」として応募し、東京センターでプレゼンテーションの入念な打ち合わせを行い、文部科学省へ出向き、担当副学長として私が一人でプレゼン室に入り説明を行いました。多くの大学が申請した中、結果の電話をドキドキしながら待った記憶があります。

当時からの活動を見ていると、皆さんには心強い環境にあると思います。学生が自ら主体的に周りのピアである学生達を支え合い、助け合い、繋がり合っていくことはすばらしいことです。私自身の学生時代を振り返り考えてみると、このような取り組みはありませんでした。皆さんのがここに集まって、また日常的に活動しているのは尊敬できることであり、自分自身に得るもののが大きく、すばらしいことです。

入学したばかりの18歳位の学生は、大きく伝統的に正課と課外の2つに分類されたプログラムで構成された大学の中で何事かを学び成長します。最近私が考えていることは、現代社会では、この正課と課外の間の領域が大学にとって重要になっており、この部分にピア・コミュニティが該当すると思います。この活動による将来像はどんな物なのかを見てほしいし、ここで活躍したことにより関西大学が社会から評価され、また、そこで新たな若い学生が成長する場所となる循環が起こる重要な場所となりますので、楽しく充実したプログラム内容の具現化を目指していただきたいと思います。

【第2部】

《講演》山田嘉徳 氏 大阪産業大学講師（全学教育機構）

「今、改めて考える大学ピア・サポート」

私自身の現在の大学教員の立場と、関西大学の大学院生当時ピア・サポート活動における学生支援室TAの経験を生かした話をさせていただきたいと思います。普段は学内の教員対象のFDのセミナー講師を担当しているので、今回は関西大学で学生へ話をさせてもらうことを楽しみにしてきました。

私はピア・サポートの立ち上げメンバーとして関わっており、多くの学びや経験も大学院生の時にありました。まず、関西大学のピア・サポートの位置付けは、「大学内での相互支援活動において、共通の関心を持った学生がグループを形成し、大学教員や事務職員と連携しながら組織的な相互支援活動を実践する」概念をしっかりと定義しています。そういうサポー^トトが重層的に積み重なり、学生相互支援のコミュニティができあがってほしいという理念も組み込まれていて、私にとって興味深いものでした。私自身は2007（平成19）年度からGPの支援期間が終わるまで関わることができ、終了したときにピア・サポートに関わった経験を、活動報告書に論文としてまとめました。大学院博士課程時代、学生がどのようにして成長するかについて研究していたことも関係があり、当時のピア・サポートプログラム

ムで先端とされる米国のサウスカロライナ大学に、指導教員である文学部教授の田中俊也教授と学生生活課職員とともに訪問調査する機会がありました。「学生の成長にどのように包括支援しているのですか?」と、大学のスチューデント・サクセス・センター長に質問したところ、これまでには地道な取り組みを学生側にアピールすることを続け、風土の醸成の積み重ねや実績作りに20年かかったことを教わりました。支援のつながりの場を生み出すこと、これらはなかなか一人でできないので、共に足場を作っていく人である協同する仲間が、強力に進む力を生み出します。その仲間の存在によって、日常的にニーズを見つけ作っていく工夫ができるという捉え方があるのではないか、と考えます。

同じ立場での学びの中で水平性だけではなく、実はその中には垂直性のある階層もあり、支え合う時に教えることがあると私見を述べさせていただきたいと思います。初步の段階から順に説明すると、(1) ピアには学習者へ寄り添って動機付けを行う立場の存在(同級生)があり、(2) 少し進んだピアシニア(先輩)という存在があり、(3) さらに進んだ段階の先輩が背中を見せる存在(最上位の先輩)でピアマスターという存在もあります。関西大学の場合、(2)にあたるシニア・サポートを明示していることも珍しいです。

それぞれの段階の中で学びによる成長があると考えられますが、その学びや成果の“見える化”が大事であると思います。その学びの中には、何か前進するときに戸惑いやつまずきなどの困難、障害や葛藤もあることも紹介させていただきたいと思います。後輩の立場では、先輩との関わりの中で、どう活動していくべきのか想像できたり、先輩が卒業によりいなくななり自分たちがその役割を果たす責任感が芽生えたりします。先輩の立場からすると、これまでの経験や、書類の書き方などを教えることで理解が深まったり、後輩に配慮した計画ができたりと、さまざまな成長があります。一方で、後輩が大勢なので指示を出しにくい、目的が達成できない、手伝ってもらえない、後輩の方がむしろしっかりしている、さしだがましさを感じるなどの問題が立ちはだかり、ある種の壁に直面することができます。総括すると、分からぬ、できないという認識は必然的に起こるものです。

そのような点も含めて、ピア・サポートにおいての“学び”には2点の有効性があると考えられます。1つ目に、ピア・サポートを通じた協同による“学び”的雰囲気の大切さが分かる。2つ目に、難しい、分からぬは必然的に起こるもので、この矛盾をバネにしてより価値のある豊かなものに変化させることができる、ということです。ぜひ、これらを実現していって欲しいと願っています。

《パネルディスカッション》

山田嘉徳 氏 大阪産業大学講師(全学教育機構)

松田優一 氏 ピア・サポート学会理事(本学・管財局管財課)

山咲博昭 氏 ピア・サポート学会会員(本学・総合企画室企画管理課)

松村吉信 氏 本学学生センター副所長(化学生命工学部教授)

学生代表しての発言: 藤野和真 シニア・サポート(法学部4年次生・元運営本部副本部長)

コーディネーター 山咲氏

(以下、敬称略)

山咲：松田さんに質問ですが、学生時代にどういう思いで活動していましたか？今、その活動がどう生かされていますか？

松田：自分たちにとってよりよい大学にしていきたい、という思いで活動していました。仲間のためにという使命感ではなく、単純に自分たちの大学をよりよく快適なものにしたいという思いで活動していました。今となって考えれば、社会人基礎力で問われる問題発見をしていく力、解決する力など、どんなリソースを使って、どんなアプローチをすれば良いのかという術を知ることができました。共に活動してきた学内外の仲間たちとの“繋がり”が大きいもので、帰属意識が高まり、今もこの大学が好きです。

山咲：山田先生に伺いたいのですが、当時 RA・TA として、どのように支援してきましたか？

山田：“繋がり”を松田さんも大事にしてきたということではあります、私も RA・TA として学内外コミュニティとの万遍なく、“繋がり”を持つことを大事にしてきました。また、振り返りの場を大事にして、帰属意識もリサーチしながら、“見える化”を大事にしていました。

山咲：過去を振り返ってお話ししていただきましたが、現在の活動について、どのような思いや考えを持って支援されているのか、松村先生にお伺いしたいと思います。

松村：私は化学生命工学部の教員で、課外活動のサポートを担当する副所長として、就任1年目です。私は学生時に、軽音楽関係のサークル活動をしていましたが、目標がなかったので中途で退会しました。一方で、皆さんは目標を見失わずに、充実感を持って活動されていると思います。これは非常に大切なことで続けてもらいたいですね。ただ、少し葛藤も感じています。その部分は何か？ピア・コミュニティが発足して最初の5年間ぐらいは、ピアの仲間が増え、活動もどんどん活発になっていましたね。これに対して、最近は少し停滞期に入ってきたように見えます。それは目標を持つこと以外に、何か欠けているからではないかと思っています。私は微生物の研究者としての顔も持っています。私たちの研究において社会に役立つものを作り出そうと研究し、成果を求めていました。が、ほとんどは実用化されません。それは、研究する側がしつかり利益（ベネフィット）があるかどうかを見極めずに成果を提供する場合が多いからです。皆さんもこれからは周りから「求められる」活動も意識してもらえると良いかなと思います。今、大学側からは皆さんには、金銭的なまたは活動空間のサポートが中心となっています。その他にも大学として何かできないか。皆さんやその他の学生サポート活動をしている学生に、大学が提供できる「ベネフィット」は何かないのかと、教育推進部とともに「考動力育成プログラム」を検討しているところです。現在、ボランティア活動支援グループでは様々なピア・サポートのための講座を開催していますが、これらをもっと広げていきたいと思っています。芝井学長がいらっしゃるので何か、学生にエールやお考えをお伝えいただければと思うのですが、いかがでしょうか？

芝井：かつて、大学に入学してくるのは、“自分のため”であり、“就職のため”などでした。しかし、1995 年の阪神・淡路大震災を転換点にし、社会が変わってきたのではないかと思います。皆さんは阪神・淡路大震災を知らない世代ですが、社会が変化した

後の世代で、周りの人と一緒に行動しないといけないという社会になってきています。もちろん、関西大学を好きになってほしい、関西大学で学びたいと思ってほしいという思いはありますが、それだけではなくて、皆さんは新しい社会の先頭を進む人たちだと思いますので、自分と社会とのとらえ方の違いはありますが、胸を張って活動してほしいと思います。そのために「何かプラスのモノを与えてほしい」との松村先生の質問に、今は答えられないので、私の宿題にさせてください。

山咲：続いて実際に活動を行っている学生に、どのような思いを持って活動に取り組んでいるのか語ってほしいと思います。

藤野：4年次の運営本部所属の者です。これまでピア・サポート活動を行ってきてどうだったかと振り返る機会をいただきありがとうございます。私がピア・コミュニティに入ったきっかけは、友達がほしい、せっかく大学に入ったのだから何かしたいという一般的な軽い気持ちだったのですが、今となっては教職員の力添えもあり、いい環境で活動できて良かったです。自分自身が何かを身に付けたり成長できる環境であるとともに、関大生のために行う活動ですので相手も成長できるということで、両方にとつて良い、魅力的な活動であると思っています。私の所属する運営本部は、他のコミュニティをサポートする活動を行っており、活動目的は共通としてありますが、サポートの思いや目標はそれぞれぶつかることもありますし、教職員との意見の食い違いもありました。そのような時に何が問題なのかを考えたり、目的を確認したり、相手の立場に立って考えることも大事だということを学びました。また、仲間も増え、色々な立場の人がいる中で、協力し合い助け合いながら活動を行うことで、成長できただと感じています。運営本部の副代表として活動し、ピア・コミュニティ全体を俯瞰的に見る力がつき、その他のコミュニティは、図書館の利用者や留学生のためなど、それぞれ異なる目的で活動を行っていますが、“関大生のために”という最終目的はどのコミュニティも同じであり、せっかく8つあるピア・コミュニティなので協力しながら相乗効果で良い活動ができるいかと常に考えていました。個人的には、どうすればみんながミーティングで発言しやすくなるか、後輩が活動しやすくなるかなど、俯瞰的に見る力や、時には自分から情報を得に行く、意見を汲み取る力などが身につけられたと思います。

山咲：現役学生の思いや、いかにゴールを実現するかという課題を述べてもらいましたが、順に過去、現在について考察したことを見て、今後の社会情勢や本学における状況を考えてどのような将来像をもつものか意見を伺いたいと思います。

山田：学外からの見守る立場で恐縮ですが、本日の話では、目標の大切さであったり、目標以外でも社会の役に立つことや正課、正課外の観点、日々のミーティングでの学びの視点など、さまざまありました。ピア・コミュニティの学生は気づきが身についているので、みんなで協力し合いながら、また教職員の支援をうけて成長し、今後もこういった場があればいいなと思います。

松田：私は昨年度まで学生生活支援グループでピア・コミュニティの支援をしてきたので、藤野君の成長もリアルタイムで見てきたこともあり、今の話で胸がいっぱいです。これから時代、答えのない問いに対して、他者と協同して答えを出していく、新しい

ものを創造していくことが求められる社会の中で、ピア・サポートの活動は、社会に出る前にそれを経験するいい機会だと思います。うまくいかないことも大いに学んでもらいたいし、また、未来に向けて、ピア・サポートを経験した卒業生がどのようになっていったのかというのが、皆さんにとっての“見える化”的一つであると思いますので、微力ながら貢献させていただきたいと思います。

松村：「協同」という言葉で思い出ましたが、関西大学では君たち以外にピア的なサポート活動をしている団体がたくさんあります。各学部の TA や SA、LA、寮では RA、またスポーツの新聞を作っている方など、これらもサポートの形かなと思います。これからピア・コミュニティが中心となって、ピア・サポートの団体を増やしていくほしいという思いがあり、どこまでできるかわかりませんが、将来、もっともっとお互いに助け合える、グループとして協同できる組織へと変わっていけたらいいのかなと思います。

山咲：第 2 部では、「協同」「学生同士の助け合い」「見える化」などがキーワードとして出てきました。これらが、今後の活動に必要なポイントになると思いますので、グループワークの材料にしてほしいと思います。

《コーヒーブレイク・ご挨拶》

五藤勝三 株式会社関大パンセ社長（GP 採択時の学生サービス事務局長）

こんにちは。関西大学ピア・コミュニティ 10 周年、本当におめでとうございます。10 年前、私も学生サービス事務局長として、ピア・コミュニティ創設に関わっておりました。先程来、芝井学長や岡本学生センター所長、松村副所長や、大阪産業大学の山田先生のお話にありましたように、ピア・コミュニティに対する思いや、趣旨などはご説明の通りです。現代社会を見ると自分さえ良ければいい、自分さえしっかりしていればいいという時代がありますが、その中で他の学生のために自分の持っている知識、スキルを活用している皆さんは実に貴重な経験をされていると思います。学生生活のみならず、社会に出たときに自分がどういう役割を果たすのかを考えると、実際に組織の運営を経験したことが大いに社会で役立つものです。当初、創設にあたり我々学生センターの中でも、種々の意見を出し合っていましたが、その中で印象に残るものとして入学式や卒業式を我々の手で作ってみようではないかという意見がありました。学園祭は学生が中心に行ってますが、大学の行事を皆さん方の総力を結集して作り上げるまでの組織になればいいのではないかという思いがありました。8 つのコミュニティがあるので、自分達が大学を作っていくというコミュニティにしていただけだとありがたいと思います。

ただ、私が残念だなと思っているのは、関西大学は大学・大学院で約 3 万人の学生がいます。ピア・コミュニティを運営している皆さん的人数は 100 名前後です。そういう意味で約 3 万人の学生を動かすにはパワー不足かなと思います。これは、皆さん方の力も必要ですし、学生センターや大学全体のサポートも必要です。より大きくして充実した活動によって、皆さん方が関西大学を作っていくスタイルになるようにしていってほしいと思います。私は、現在関連会社にいますが、側面からはしっかりとサポートしていきたいと思いますので、皆さん方のこれからのご活躍とご健勝を祈念しています。

【第3部】

《グループワーク》

●各グループでまとめた内容

	取り組み	課題	実施内容	留意点
A 班	ノウハウの継承	・運営ノウハウの継承 ・会議の工夫	・マニュアルを作成する。 ・常に目的を持って、先を見据えた会議を行う。	マニュアルの内容は制約するようなものではなく、心構えについて記載する。
B 班	認知度向上や企画の改善	・認知度が低い ・企画のマンネリ化	・新入生ガイダンスでの広報やインフォメーションシステムのお知らせへの掲出 ・他コミュニティとのコラボ企画や過去の企画の復活、一般学生へのニーズ調査を行う。	
C 班	メンバー募集	メンバーが少ない	具体的な活動をアピールすることで興味をひく。 ・FacebookなどのSNSを利用 ・インフォメーションシステムのお知らせへの掲出	・内容の正確さ。 ・手段(媒体)の利用者の数は?か、対象者以外にも発信されてしまわないか。
D 班	ピア活動拡大キャンペーン	知名度が低く、サポートできるはずの学生をサポートし切れていない	広報力のある団体に協力してもらい、広報に力を入れる。 ・不特定多数の学生を対象に広報(興味の有無に係らず、目にする媒体を使用)。 ・イベントや活動の情報を告知する。	・広報内容に語弊やずれがないよう、他団体と連絡を密に取る。 ・リピーターに告知するなら、個人伝言やSNSが有効。
E 班	企画の認知度アップ	企画の参加者を増やす	ニーズを知るため、アンケートを実施したり、メンバー自身の経験を振り返る。	答えやすいアンケートの作成。
F 班	知名度をあげるために新しい広報	知名度をあげる	広報手段の再検討 ・SNS ・授業 ・学園祭などのイベントで他団体と協力して活動を宣伝	・情報発信の対象を絞る。 ・教職員とのコミュニケーションをしっかりとる。

G 班	上下関係の改善	上下関係の問題により、本音が言いづらい環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの席をランダムにする。 ・お昼ご飯をみんなで食べる、ランチミーティングもあり。 ・合宿を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの調整。 ・メリハリをつける。
H 班	チームビルディング	人材の活用不全	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれに役割を割り振る。 ・ミーティング以外でも集まる日を設け、お互いのことを知る。 ・ビジョンを設定・共有し、短期～長期的目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びすぎない。 ・何のために集まるのか目的を明確にする。
I 班	内部研修を強化しよう！	メンバーが少なく、役割分担が上手くいかない	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修を行い、モチベーションを保つ。 ・参加できなかったメンバーにはフォローを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他コミュニティとの関係が希薄だと参加率が良くない可能性有。
J 班	企画の基礎部分を分担することでモチベーションアップ	書類作成等、企画の基礎部分を担当するメンバーに負担が偏る	<ul style="list-style-type: none"> ・ToDoリストを作成し、細かく役割分担する。 ・各コミュニティで共通する事柄は、ノウハウを共有する研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業は期日を決めて割り振る。 ・負担があるようなら言う(言える雰囲気づくり)。
K 班	役割分担の改善について	適切な役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎをしっかり行う。 ・1年次から企画に取り組む。 ・マニュアルを作成する。 ・各学年でノウハウを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルありきになってしまう可能性。 ・情報共有を怠らない、進捗具合をお互いに把握する。
L 班	ミーティングの改善	メンバーのリアクションを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの始めにアイスブレイクを行い、コミュニケーションを取る。 ・全員が仕切ることを経験することで、当事者意識を持つ。 ・他コミュニティの会議を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後輩に任せすぎない。 ・義務感をあまり感じさせないようにする。 ・ミーティングの目的を失わないようにする。
M 班	知名度向上	知名度が低い	<p>広報活動の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピア全体でイベントをする。 ・大学が新入生に配付する書類にチラシを入れる。 ・SNSの利用。 	SNSの更新頻度。

《閉会のご挨拶》

高増 明 副学長（社会学部教授）

皆さん、こんにちは。関西大学副学長の高増です。本学には副学長が5人いますが、私は学生支援と入試を担当しています。また学生相談・支援センター長を兼任しています。したがって、学生の皆さんにとって、もっとも身近な存在であると思います。

本日は、本当にお疲れ様でした。ピア・コミュニティ10周年を記念するということで、8つのコミュニティの活動の報告、パネルディスカッション、さらにワークショップという非常に盛りだくさんの企画で、私も勉強になりましたが、皆さんも得るもののが多かったのではないかと思います。今日の内容を、今後の活動に是非生かしてほしいと思います。

皆さんからもお話があったように、ピア・サポートは、現在、日本の社会で注目され、社会から要請されています。私は入試も担当していますが、大学入試制度が2021年度入試から大きく変化することになります。その中で文部科学省から学力の3要素をすべての入試で評価しなければならないという方針が示されています。学力の3要素とは、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協同性ですが、これは、まさにピア・サポートで実践していることです。その意味でも、ピア・サポートの活動を日本の社会全体が重要だと考えているのだと言えます。

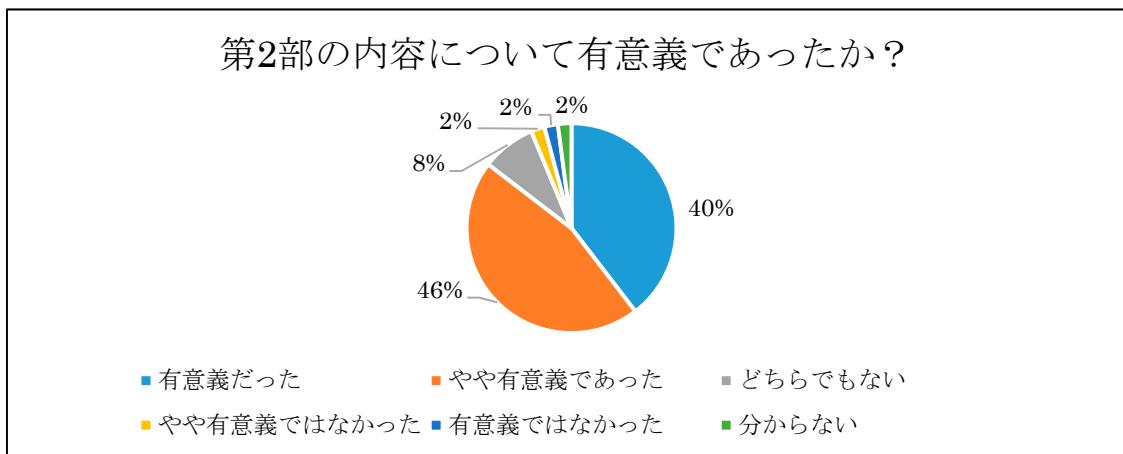
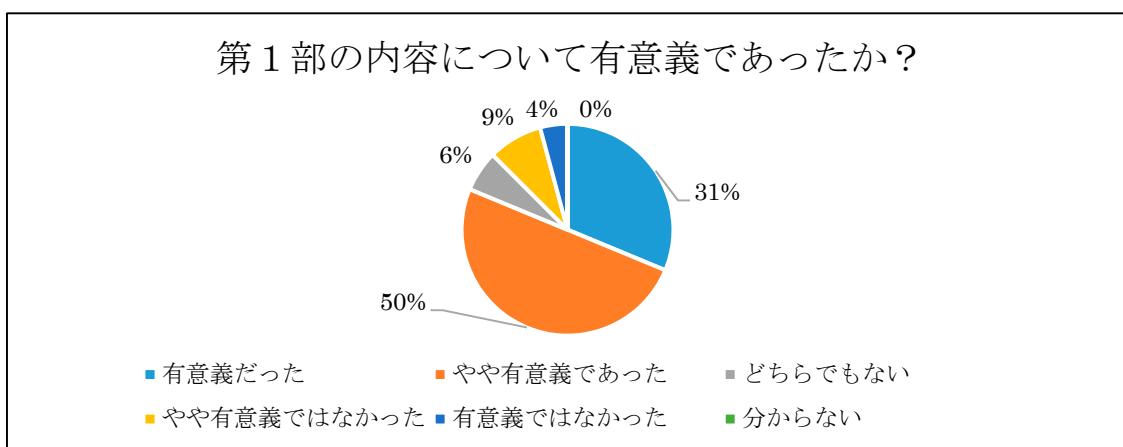
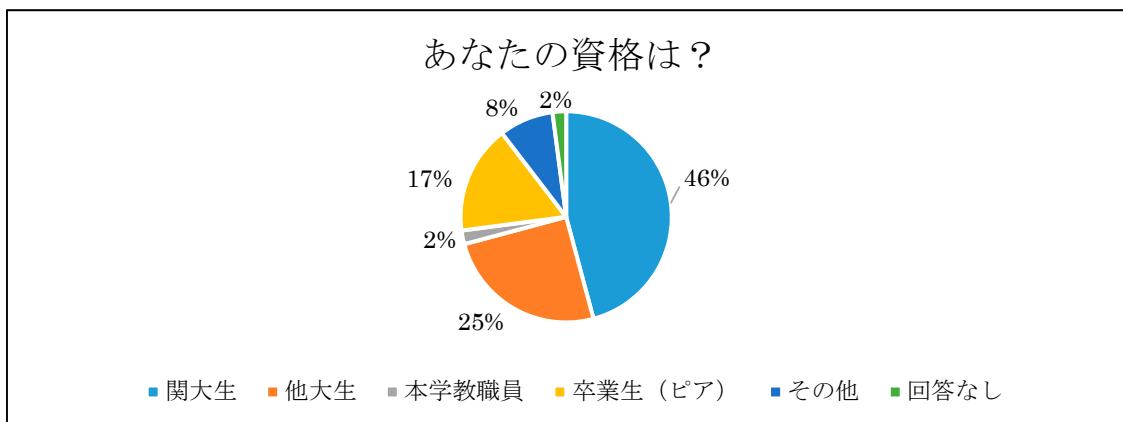
ただ少し、今日のお話の中で気になったのは、ちょっとまじめすぎるかなということです。松村学生センター副所長のお話の中でもありました、組織が継続、発展するためには、活動がおもしろいか、そうでなければ、「儲かる」ことが必要です。是非、自分たちにとっておもしろいモノ、楽しいモノとして活動していってほしいと思います。

儲かるかどうかは難しいのですが、今後、ピア・コミュニティをベースにしたベンチャー企業が出てきてもいいかなと思います。私自身、レコード会社とデジタルコンテンツの制作会社をベンチャー企業として経営しています。これは、前任校で、学生とともにゼミの活動をしていく中で、それがビジネスになるのではないかと考えて設立したわけです。皆さんもこの活動を仕事にできないかということを本気で考えていただければと思います。

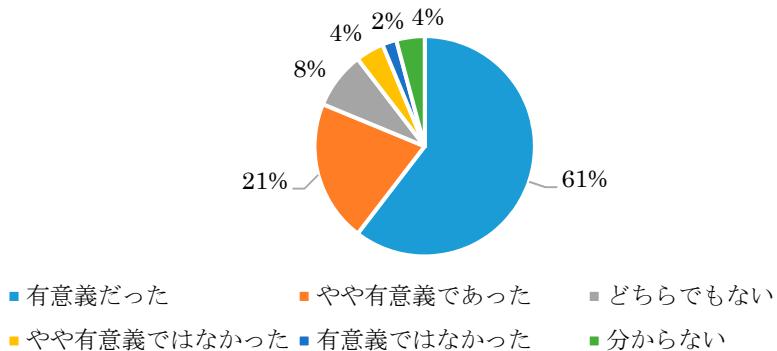
大学は、ダイバーシティ（多様性）を進めていかなければならないということが言われています。そのためには、留学生、障がいを持つ学生など多様な学生を受け入れることが必要ですが、そのような学生を支援する仕組みも重要です。支援は大学の教職員だけでできるものではなく、学生が相互に助け合っていくことが必要です。ピア・コミュニティの役割は、今後、より重要になってきます。

本日は、台風の接近もあり、本当は懇親会において、和気藹々とお話しさせていただきたかったのですが、これで終了にしなければなりません。今後も、活動の中で交流を続けていただければと思います。本日は、本当にどうもありがとうございました。

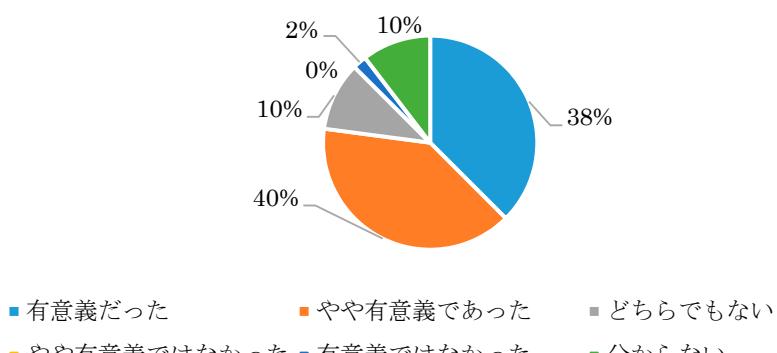
5 ピア・サポート活動報告・交流会についてのアンケート（結果）



第3部の内容について有意義であったか？



全体の内容について有意義であったか？



各プログラムについてのアンケート（総括）

第1部 振り返りムービー・コミュニティ紹介

全体的には、10年間を振り返るといういい機会になり、自分のコミュニティだけではなく、他のコミュニティのことを知ることができ非常に興味があったという結果であった。しかし、時間の制限がある一方、情報量が多すぎたことや課題・問題点を知りたかったという改善点の指摘があった。

第2部 講演会・パネルディスカッション

過去、現在、未来のタイムホライズンに沿って、それぞれ違った視点から客観的、主観的な意見に評価があった。それぞれの所属機関、所属コミュニティなどで考え方若千異なる点の発見があり、各々の今後の活動にマイナーチェンジが行えるのではないかと考えられる。また、卒業生との話の中では、依然としてコアな部分の考えは変わっていないことに気付いたという意見もあった。

第3部 アイスブレイク、ワークショップ

アイスブレイクで行ったワードウルフについて、「面白かった」というアンケート結果が多く見られた。その後のワークショップについては、他大学でも参考になるものであるとの意見をいただきしており、初めて参加する人にも配慮されたものであった。

全体について

ピア・コミュニティはユニークな取り組みなので、胸を張って“楽しく”頑張ってもらいたい、ピア・サポートに対するモチベーションや意識の高さに驚いたなどの意見があり、8割程度の参加者が良かったと評価している。反省点としては、台風の影響でプログラムの圧縮や順序の変更があったため余裕がなかった点に、いくつか指摘があった。この点については、開催者側からも、大変申し訳なかったことを申し上げたい。

(実行委員会・学生参加者一同から、「本日は誠にありがとうございました。」)

4 学生支援室の活動報告

4.1 学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等（ピア・サポートの研修を含む。）を行っている。

ここでは、TA（ティーチング・アシスタント）が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポートに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように橋渡し的な役割も果たしている。

2017年度に特筆すべき活動としては、全コミュニティのメンバーが対象となる「ピア・コミュニティ春合宿」においてTAとしてワークを担当し実施したことや、シニア・サポート実施の企画およびミーティングに参加したことが挙げられる。また、継続的・安定的に学生支援室の機能が果たせるようするため、新規TA研修の実施に加え、日常においても引き継ぎの連携の強化に力を注いだ。

これらを通して、今後も継続的そして発展的にピア・サポート活動を行っていくために必要となる知識・スキル等の共有や伝承を行い、さらにはピア・サポート活動支援に携わる同士の繋がりや、新たにシニア・サポートとの関係も強めることができた。

TAは、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。また、ピア・コミュニティ支援を行うには、ピア・サポートに関する専門的知識やピア・コミュニティに対する理解等が必要となるが、教職員については、役職者の変更や人事異動による交代が避けられないことから、質的・量的に十分なピア・コミュニティの支援を継続的に行うためには、TAの存在が重要となる。

TAと教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

4.2 新規 TA 研修

1 実施の経緯

学生支援室 TA は、本学のピア・サポート活動において、ピア・コミュニティの活動支援やピア・サポートからの相談対応、ピア・サポート研修の実施等、非常に重要な役割を担っているが、それらの対応は、TA 各自の研究活動や支援活動で得られた経験則に依拠して行われてきた。

しかし、TA にも世代交代があることから、今後も継続的に安定したピア・サポート活動支援を行っていくためには、TA としてピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢についての研修プログラムを策定し、習得できるようになる必要がある。これに対応するため、多くの TA の協力を得て 2013 年度から準備を行い、2014 年度から「新規 TA 研修」として実施している。

2 目的

学生支援室 TA として、ピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢を身につけることを目的とする。

3 参加者

学生支援室 TA（継続 TA についても、受講者または講師として参加）

ボランティア活動支援グループ職員

※一部プログラムについては、ピア・コミュニティ支援部署職員も参加

4 概要

研修項目・方法について、2016 年度に実施した「新規 TA 研修」をベースとしながら、TA に求められる資質や、新規 TA が不安に感じていることなどを話し合い、優先順位が高いと思われるものから講義・ワークを実施した。

表 2017 年度 新規 TA 研修

研修項目	方法	実施日
ピア・サポートの理念	講義・書面	4 月 20 日
ピア・コミュニティと支える人々	書面	—
TA としての心構え	講義	4 月 11 日
コミュニティ支援（担当コミュニティについて知る）	書面・日常	—
コミュニティ支援（サポートとコミュニケーションをとる際の大事なところ）	日常	—
コミュニティ支援（コミュニティ活動の流れ）	講義・日常	6 月 7 日

研修項目	方法	実施日
コミュニティ支援（会議）	ワーク・日常	5月25日
コミュニティ支援（企画）	ワーク	6月28日
コミュニティ支援（書類作成）	書面・日常	—
担当部署職員との連携	日常	—
TA同士の連携	日常	—
自己理解・他者理解	ワーク	6月28日

5 所 感

今年度、TA6名のうち2名が新規採用で経験が浅いという状況であったが、現状の規模としては、学生支援室を運営するにあたって6名が妥当な人数であると感じている。しかし、1名はTAのミーティングにも参加できない状況があったため、体制についての反省点は残る。そのような状況の中、個々のTAの資質や学生支援室全体としての連携・協力、またこれまでのTAが遺してくれた「新規TA研修」を始めとする資料・プログラム等のおかげで、学生支援室としての役割を効率的に果たすことができた。

本研修はその意義・効果とも十分に認められるものであると考えられ、支援活動を行なながら研修を行うのは時間的にもキャパシティ的にも難しかったが、研修（講義・ワーク）として計画・実行してくれた。

本学においてピア・サポート活動に継続的・発展的に取り組んでいくために、シニア・サポート制度を導入したとはいえ、上位年次と異なる支援に特徴があるTAの存在が重要であることに変わりはない。TA全体やTA個人に偏った過度の負担とならないよう配慮する必要があるが、TAによる様々な支援の質を維持・向上させていくために、引き続き、TAとミーティングを定期的に実施しながら、新規TAに対する資質向上の研修プログラムを行い、学生支援の充実に向けて取り組んでいきたい。

4.3 学生支援室 TA からのメッセージ

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 木村はるか

大学院への進学を機に、今年度より新たにピア・コミュニティの TA として活動に携わることとなりました。ピア・サポート活動は勿論、他大学からの進学のため、関西大学についても理解不十分なまま飛び込んだ環境でした。そのため、自分に務まるものか、サポートは愚か、枷にならないかなど常に不安を抱えながら過ごした一年でした。しかしながら、今年度を振り返ると、様々な学生さん、職員さんとの交流といった経験を通じ、TA として、一個人として成長する良い機会であったと感じています。

【コミュニティ支援】

今年度、私が主に携わったコミュニティは KU コアラです。KU コアラは今年度、サポートの人数が大幅に増加したこともあり、様々な変化があった一年でした。実施企画数の増加や、新規企画の立案、過去の計画の見直しなど、学生が主体となって活動する様子を近くで見守ることができたのは私にとっても非常に有意義なことでした。しかし、ある意味でサポートよりもピア・サポートに関する知識の少ない私が、TA としてできることは何かということを常に考える必要がありました。今年度、私が TA の立場で関わる際には、サポートがそれぞれの目線で見た時に感じた課題や、その中で生じた意見を尊重するように心がけてきました。その一方、学生以外の視点から見た改善できそうな点や、問題に繋がりそうなリスクを、どのように伝えるかはもっとも悩んだ点です。学生主体で動くピア・コミュニティに、どのように関わっていくかは今後も探究していくべき課題だと感じています。

【関西大学ピア・サポート研修】

支援の一つとして TA によるピア・サポート研修もありました。私が担当した「自己理解」は、他者とのコミュニケーションや、心理学に基盤に置いたテストを用いて行います。「自分」に対する理解を深め、その上で「自分以外の他者」について考えるということの重要性について、レクチャーを通じて学生と共に考えることができました。研修を受ける学生が如何に関心を持って取り組むことができるか、限られた時間の中で、少しでも有意義な情報を提供するにはどのような研修にすべきか等、他の TA の方々や、職員の方々に助言をいただきながら、考えることができました。

手探りのまま歩んだ一年でしたが、TA としての活動を通じ、少しずつ着実に経験を重ねることができました。今後も、TA のあり方を良く考え、サポートにとってより良い支援が行なえるよう努めていきたいです。

TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 佐藤栄晃

今年度のピア・コミュニティへの関わりについて、コミュニティ支援と学生支援室の運営の2点について振り返る。

【コミュニティ支援について】

今年度は昨年度から引き続き運営本部と新たにKUサポートプランナー（以下SP）の活動に関わってきた。新しく世代交代した運営本部ではミーティングの進め方や企画の立案について自分たちが作り上げたい理想と実際に活動した結果の差に悩む場面が見られた。自分たちが行いたい企画を推し進めることは大切だが、内容を決めてそれに沿う目的を立てることが多く、他コミュニティのニーズに沿っているかという点についてはもう少し丁寧に検討することが必要ではないかと感じた。ただ、今までのように過去の先輩たちの企画を踏襲するだけでなく、自分たちの世代らしい運営を目指しチャレンジしていくことは今後の活動への意欲向上につながると思われる。次にSPに関しては、昨年度末の段階でうまく引き継ぎができるおらず、今年度の活動について不安があった。しかし、サポート自身で必要な情報をを集め、企画の流れや必要書類等手続きについて資料として整理し、今後の引継ぎにも使える形に整えた点には驚かされた。企画に関するサポート同士がこまめに情報共有をしているため、担当者がミーティングに不在な場合でも企画の進行にさほど支障がないように思えた。しかし、企画の規模に対して所属しているサポートが少ないため実現できない企画もあった。この点についてはサポートも改善していきたい点として挙げており、来年度は企画の周知はもちろんSP自体の広報についても検討しているようである。

【学生支援室の運営について】

今年度からエリア待機の時間を変動制に変更した。この効果として、固定制では話すことが少なかったサポートと交流することが可能となった。また、シニア・サポートとの交流を深めるためシニア・サポートミーティングに参加した。サポートとTAの2視点から現在のピア・コミュニティに必要であると考えられる能力や考え方について意見交換し、シニア・サポート企画への助言を行った。TAは大学院修了までの期間が短く交代が早いため、コミュニティの状態を知り関わる時間が少ない場合もある。この点について、シニア・サポートと協力し情報共有することで、コミュニティの現状把握やシニア・サポート企画を通してコミュニティ全体のスキルアップを促す機会につながると考えられるため、来年度も引き続きシニア・サポートとの交流を続けていきたいと思う。

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 玉村 明日香

今年度も、TA としてピア・サポート活動に携わらせて頂きました。TA として 1 年目の前年度に引き続き、担当したコミュニティは「KU コアラ」と「KU ブリッジ」です。また、この他のコミュニティのサポートとも、エリア待機等を通じて触れ合うことができました。今年度も、サポートの様々な活躍を見届けることができ、大変嬉しかったです。

年度を跨いで TA を担当すると、サポートの先輩になっていく姿を見ることができたり、新規サポートが新たな風を吹かせてくれたり、様々な場面に立ち会うことができました。よって、サポートの成長をより一層感じることができます。ミーティングの場で、企画やその他の活動の進行状況を確認する際の発言や姿勢は頼もしくなり、企画を実施するまでの手順も、ひとつひとつ仲間とともに乗り越えています。これらの積み重ねが報われるよう、そして今後の糧にしてもらうことができるよう、私はサポートの思いを聞いたり、アドバイスをしたりすることに努めました。TA1 年目の経験に基づいて行動できたこともさることながら、私にとっての新たな挑戦がこの思いを強くしたからです。

今年度、私は TA の業務と並行しながら就職活動を行っていました。その際、情報収集をするため常にアンテナを張り、採用担当の方と連絡を取り合う機会も多くありました。面接のように実際にお会いする場合には、自らの思いをいかに伝えようかと、試行錯誤の連続です。このような日々を送る中で、関大生に様々な企画を発信する、サポートの活動風景を思い起こすことがありました。企画等の活動の達成に向けて、より良くなるよう議論し、書類作成や職員さんとの連絡を取る等の手順を乗り越えたり、企画を終えてからも意見を交換し合い、今後の活動につなぐことができる機会を設けたりしている姿です。この他にも挙げたいところはありますが、それぞれの思いを乗せて頑張っているサポートの行動のひとつひとつは、今後のピア・サポート活動をはじめ、学生生活や社会人に向けての準備の際にもつながるものであると信じています。

そして、秋にはピア・コミュニティの 10 周年記念事業にも立ち会わせて頂きました。節目の年を多くの関係者の皆様と一緒に祝いすることができ、大変嬉しく思っています。何より、事業の成功に向けて奮闘していたサポートの雄姿を見届けられたことは、貴重な思い出のひとつになりました。この経験を大切にし、前進して欲しいと願うばかりです。これからも、思い思いにピア・サポート活動を楽しんで下さい！

最後になりますが、サポートをはじめとし、ピア・サポート活動に携わる方々と連携する中で、多くのことを学ばせて頂いたことに感謝致します。ありがとうございました。

TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 並木崇浩

ピア・コミュニティの TA として、KU サポーターズのサポートたちとこの一年間関わってきた。昨年度は組織として機能しにくい状況にメンバーが直面しており、彼ら彼女らがその課題に取り組む手助けをしてきた。今年度はまた違った課題が浮き彫りになったと感じており、それについて振り返ると共に来年度に向けてなにができるか考えていきたい。

サポートは、学生への心理的サポートが主な活動目的である。その一環としてほっこり相談室や対人交流が苦手な学生を対象とした企画などを行ってきた。しかし、今年度はなかなか活動をしても参加者が集まらない状況が続き、さらに新たなメンバーも同様に集まりにくかった。様々な要因が考えられるが、TA として感じていたのは心理的サポートというものが明確に表現しにくいということが挙げられる。自分たちは誰を対象に活動をしているのか、学内に設置されている相談室とほっこり相談室はなにが違うのか、トレーニングで教わった相談とはなにを指していたのか。人の心という見えないものを対象としており、人の話を聞くという意味もはつきりと表現することが難しい。このような状況から、サポートの活動が内外どちらから見ても揺らいできたように思われる。また今年度の秋頃、ほっこり相談室の活動場所を変更することが提案された。私はこの提案を、サポートの活動意義やその内容の見直しが迫られていることの表れであったと感じた。相談室という閉ざされた場所で人が来るのを待っているだけではなく、より開かれた場所に支援者が向くことは意義があることであろう。だが、閉ざされた場所から開かれた場所へという転換は、活動自体も同じく転換することを意味する。臨床心理に僅かながらでも携わっている身としては慎重に取り組むべきと思ってしまうが、そこまでの変化がサポートに求められているともいえるだろう。

このような転換期を迎えたサポートは来年度をどのように迎えればよいだろうか。もちろんメンバーたちが取り組む課題であるが、TA からの一石を投じる意味で提案をしてみたい。一つはサポートが主体となって心理的サポートを行うのではなく、他の支援者をサポートするがあるように思われる。友人の相談を受けたり、コミュニティやサークルでの対人関係の調整をしたりしている人は多くいる。そこにサポートが新たに介入するよりも、既に支援役となっている人に対して聴き方や問題の整理について情報提供することが現実的である。これまでのサポートが対象としていた像とは異なるかもしれないが、体制を変えると同時に対象も変わることは起こりうることであろう。以上、サポートの活動の難しさについて述べたが、私はだからこそ活動の意義があると思っている。今後もサポートの活動が続くことを切に願っている。

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA 保田義之

今年度の4月から、学生支援室TAとしてピア・サポートに関わらせていただくことになりました。私は、大学時代にボランティアセンター学生スタッフとしてボランティア活動に取り組んでいました。そうしたご縁もあり、大学院進学にあたってボランティアセンターの職員さんからTAについてお声をかけていただきました。ピア・コミュニティの活動内容についてはTAとなって初めて知ることが多かったです、活動を通してある課題を見つけ、企画・提案し、みんなで話し合って意見をまとめ、実行していくプロセスは私が活動した学生スタッフと共に通していると感じました。私もTAとしてこの1年学びや気づきが多くありました。特に、ピア・サポート研修とコミュニティ支援に多く関わりました。

【関西大学ピア・サポート研修】

私は、今年度コミュニケーション研修の担当をさせていただきました。私自身コミュニケーションに対しては苦手意識があり、自分と相手の立場それぞれについての考え方や円滑なコミュニケーションを進める方法など改めて学ぶことが多くありました。コミュニケーションの難しさを知っているからこそ、これからピア・サポートになる皆さんにその大切さや取り組み方を伝えようと心がけました。研修生の皆さんと一緒に試行錯誤しながらコミュニケーションについて学べた、そんな時間だったと思います。

【コミュニティ支援について】

私は今年度、主にKUブリッジに関わらせていただきました。ピア・コミュニティ活動は初めてのことばかりで、はじめうまくサポートすることができませんでした。職員さん、先輩のTAやピア・サポートに支えられながら、少しでも自分の経験をピア・サポート活動に役立てたらという思いで尽力しました。またブリッジの活動内容は留学生を中心とした交流や文化活動が多くなされており、日本人と留学生が共に活動する貴重な機会を提供しています。今後さらに発展させてほしいと感じています。さらに、ブリッジのメンバーは気さくで親しみやすい学生が多く、私も多くの刺激と元気をもらいました。

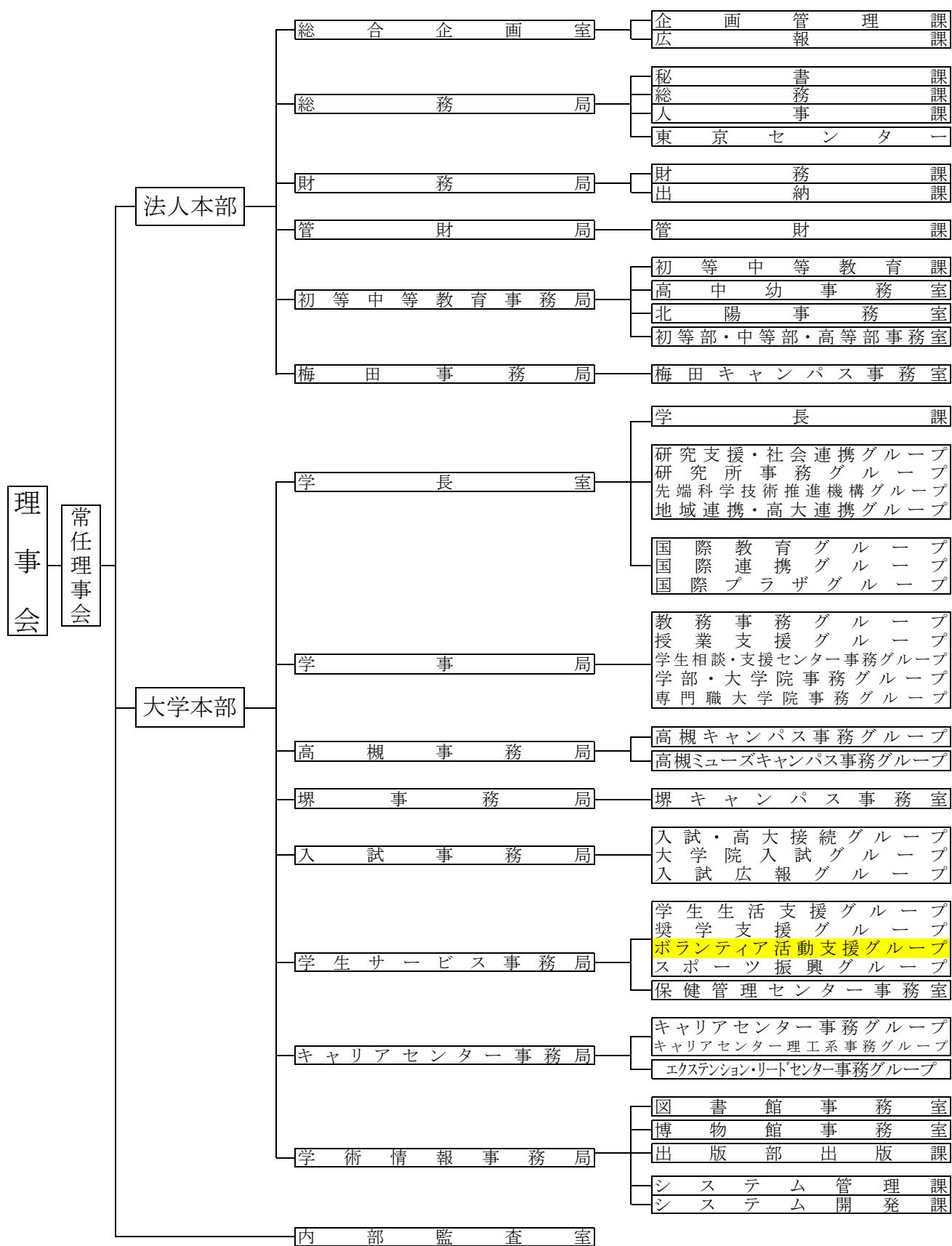
この1年TAとして活動させていただき、ピア・コミュニティのみんなで一つの目標に向かって、やりがいを感じ困難を共に乗り越えていく活動は改めて素晴らしいと感じました。私自身まだまだ学ぶことがありますので、来年度以降もピア・コミュニティ活動に関わりながら、さらに多くの知識・経験を吸収していき、より多くの部分でピア・サポート活動を支援していくように自分自身を磨いていきたいです。

參考資料

【参考資料1】

2017年度 事務組織図

2017.4.1 総合企画室



【参考資料 2】

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

1 趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

2 目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポート体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3 学生支援連絡協議会

- (1) 本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。
- (2) 協議会は次に掲げる者をもって構成する。
 - ア 学生センター所長
 - イ 学生センター副所長 1名
 - ウ 専任教員のうちから学長が指名する者 若干名
 - エ 学生サービス事務局長
 - オ 学事局（授業支援担当）次長
 - カ 入試事務局次長
 - キ 学生サービス事務局次長
 - ク 学長室（国際担当）次長
 - ケ キャリアセンター事務局次長
 - コ 学術情報事務局（図書館担当）次長
 - サ 学術情報事務局（IT 担当）次長
 - シ 学生生活支援グループ長
 - ス ボランティア活動支援グループ長
 - セ ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名
- (3) 第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。
- (4) 第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- (5) 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (6) 協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (7) 協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

【参考資料 2】

4 議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5 設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6 運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名

イ ティーチングアシスタント 若干名

7 事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附 則

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

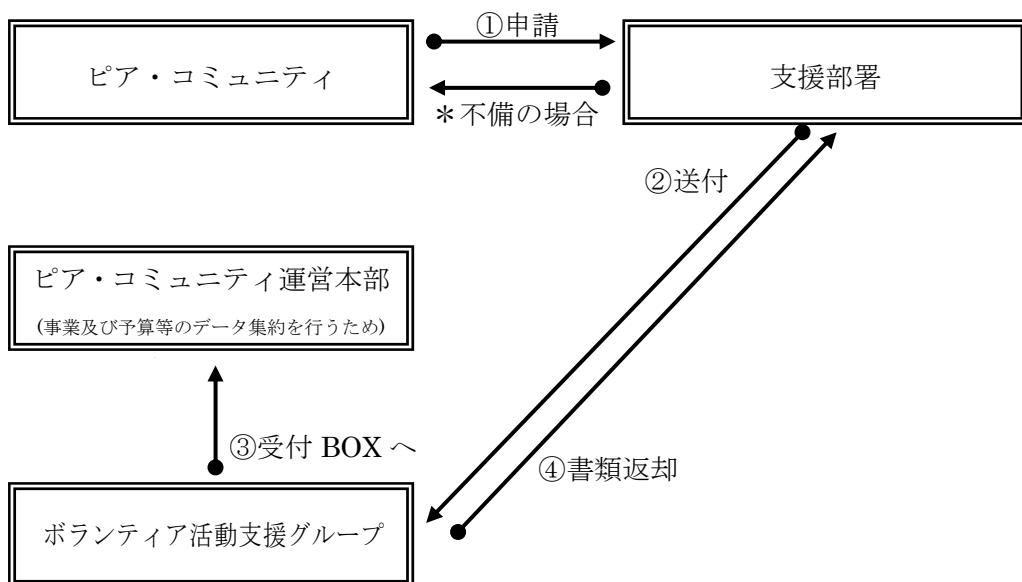
附 則

1 この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

【参考資料 3】

● 【各種申請書類の手続きフロー】⇒①～④の順に書類を回覧する。



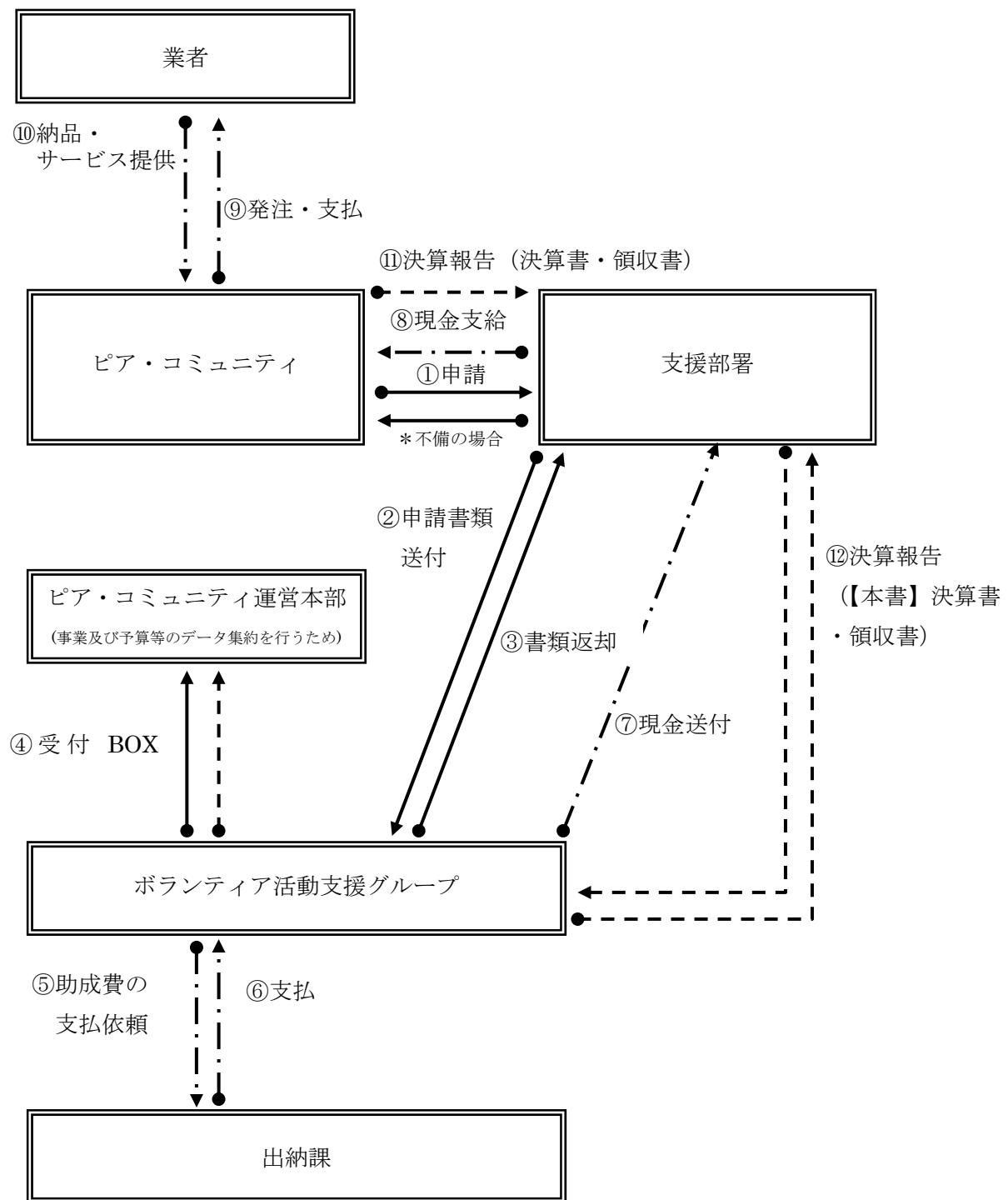
申請する事項		申請書類	提出期日 (ボランティア活動支援グループ)
— ピア・サポート活動を実施するにあたり —			
【実施前】 ピア・サポート活動を具体的に進めるための申請書類(支援部署より実施を事前承諾された事業のみ)			
1	■ピア・サポート活動の目的や内容をまとめたもの	事業計画書	実施 2 週間前
	■参加予定のピア・サポート及び一般学生などの名簿	参加者名簿	*提出後変更があれば、 その都度変更書類を 提出する
2	◇経費が発生するピア・サポート活動の場合 ＊交通費は見積額を記入。 ＊講師を招聘する場合は謝金・交通費を記入。	予算書	
	◇参加者から「参加費」を徴収する場合 ＊参加費には交通費・入場料・拝観料・お茶菓子等を含む。	金銭收受を伴う行為の 許可願	
— ピア・サポート活動実施後の報告書類 —			
3	■ピア・サポート活動の実施状況を報告する	事業報告書	実施後 1 カ月以内
		ホームページ用原稿	*領収書は、助成した金 額以上の領収書を添 付すること。また、本 書を提出すること。
4	◇経費が発生したピア・サポート活動の場合 ＊「予算書」を提出した場合には、必ず提出すること。	決算書	
	◇支払った費用の領収書をまとめる ＊領収書の宛名は各ピア・コミュニティ名とすること。	領収書添付用紙	
— ピア・コミュニティを運営するにあたり —			
5	3 次年度の年間行事計画とその予算を立てる	年間計画表	当該年度の1月 31 日まで
6	4 ピア・サポートの入退会、規約などの変更が生じた場合	ピア・コミュニティ届出事項変更届	その都度
7	研修生の登録、登録情報に変更が生じた場合	研修生登録申請書	その都度

《注意事項》

- 上記のフローは、毎年見直しを行います。
- 2つ以上のピア・コミュニティで合同事業を行う場合には、申請手続きや経費負担割合等については、事前にご相談ください。

【参考資料 3】

- 関西大学セミナーハウスを利用する場合や交通費の団体割引を利用する場合には、支援部署の教職員が帯同することが必要となりますので、学生センターまで事前にご相談ください。
- 【経費が発生する場合の会計フロー】⇒⑤～⑩のとおり、必要備品が納品される。



ピア・サポート活動に伴って経費が発生する場合は、活動助成としてボランティア活動支援グループからピア・コミュニティに対して、助成費の支出（原則 1,000 円単位）を行います。

《注意事項》

- 上記のフローは、毎年見直しを行います。

【参考資料 3】

《金銭に伴う取り決め》

- ピア・コミュニティ内における会費（部費）を徴収する場合は、独自に会則を設け管理してください。
- 参加者から徴収した「参加費」に余剰金が生じた場合は、原則、即日清算を行い返金してください。
また、徴収した「参加費」の管理は、支援部署と調整の上、厳重に管理してください。

以 上

【参考資料4】

2017年度学生支援連絡協議会 委員名簿			
	資 格	氏 名	任 期
ア	学生センター所長	岡本 哲和	役職在任中
イ	学生センター副所長	松村 吉信	役職在任中
ウ	専任教員のうちから学長が指名する者	多賀 太	2016.10.1 ～2018.9.30
エ	学生サービス事務局長	中塚 義史	役職在任中
オ	学事局（授業支援担当）次長	鶴丸 憲一	役職在任中
カ	入試事務局次長	井村 誠	役職在任中
キ	学生サービス事務局次長	鈴木 啓祐	役職在任中
ク	学長室（国際担当）次長	松川 健志	役職在任中
ケ	キャリアセンター事務局次長	荒堀 善文	役職在任中
コ	学術情報事務局長	山崎 秀樹	役職在任中
サ	学術情報事務局（IT担当）次長	柿本 昌範	役職在任中
シ	学生生活支援グループ長	横山 隆太	役職在任中
ス	ボランティア活動支援グループ長	堀 律子	役職在任中
セ	ボランティア活動支援グループ事務担当者	藤野 雅士	
		春名 未希	

【参考資料 5】

ピア・コミュニティ担当者一覧表(2017 年度)

部 署	担当者
教務事務グループ	—
授業支援グループ	—
学生相談・支援センター事務グループ	久住
入試広報グループ	岩崎・難波江
国際教育グループ	長谷川・安藤
キャリアセンター事務グループ	—
システム管理課	大内・村田
システム開発課	加勢田・後藤
図書館事務室	古林・石井(～6月)・芝谷(7月～)
広報課	仁村
スポーツ振興グループ	濱田
保健管理センター事務室	築谷
学生生活支援グループ	辻・諏訪・的場
ボランティア活動支援グループ	藤野・春名

2017 年度 TA による支援体制

コミュニティ名	主担者	副担者
ピア・コミュニティ運営本部	佐藤	
国際コミュニティ“KUブリッジ”	玉村	保田
ピア・スポーツコミュニティ		
KUコアラ	玉村	木村
KUサポートプランナー	佐藤	
ぴあかんず		
KUサポートーズ	並木	小黒
i. com		

関西大学ピア・コミュニティ 2017年度報告書

発 行 : 2019年3月

発行者 : 関西大学

編集者 : 関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

住 所 : 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

電 話 : 06-6368-1229

U R L : <http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp>

印 刷 : 大都印刷株式会社

